平成28年第1回（3月）定例会

つがる市議会会議録

平成28年3月3日 開会

平成28年3月17日 閉会

つがる市議会

平成28年第1回つがる市議会 定例会会議録目次

第 1 号 (3月3日)

議事日程	1
本日の会議に付した事件	2
出席議員	3
欠席議員	3
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	4
職務のため議場に出席した者の職氏名	4
開会、開議宣告	5
会議録署名議員の指名	5
会期の決定	5
諸般の報告	5
議案第13号～議案第41号の上程、提案理由の説明	5
・議案第13号 平成27年度つがる市一般会計補正予算(第9号)案	
・議案第14号 平成27年度つがる市国民健康保険特別会計補正予算(第4号)案	
・議案第15号 平成27年度つがる市後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)案	
・議案第16号 平成27年度つがる市介護保険特別会計補正予算(第5号)案	
・議案第17号 平成28年度つがる市一般会計予算案	
・議案第18号 平成28年度つがる市農業集落排水事業特別会計予算案	
・議案第19号 平成28年度つがる市公共下水道事業特別会計予算案	
・議案第20号 平成28年度つがる市国民健康保険特別会計予算案	
・議案第21号 平成28年度つがる市後期高齢者医療特別会計予算案	
・議案第22号 平成28年度つがる市介護保険特別会計予算案	
・議案第23号 つがる市行政不服審査会条例案	
・議案第24号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例案	
・議案第25号 つがる市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案	
・議案第26号 つがる市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案	
・議案第27号 つがる市集会所条例の一部を改正する条例案	
・議案第28号 つがる市火災予防条例の一部を改正する条例案	
・議案第29号 つがる市消防団条例の一部を改正する条例案	

・議案第30号	つがる市国民健康保険条例の一部を改正する条例案	
・議案第31号	つがる市健康診査等費用徴収に関する条例の一部を改正する条例案	
・議案第32号	つがる市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例案	
・議案第33号	つがる市生涯学習交流センター「松の館」条例及びつがる市柏ふるさと交流センター条例の一部を改正する条例案	
・議案第34号	つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件 (つがる市稲垣体育館、つがる市稲垣体育センター)	
・議案第35号	つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件 (つがる市牛潟公民館、つがる市車力体育センター、つがる市立車力柔剣道場)	
・議案第36号	つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件 (つがる市木造福祉交流センター「花しょうぶの館」、つがる市柏ふるさと生きがいセンター、つがる市車力ウェルネスセンター)	
・議案第37号	つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件 (つがる市森田ふれあい交流の里「おらほの湯」)	
・議案第38号	つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件 (つがる市健康増進施設「稲穂の湯」)	
・議案第39号	第2次つがる市総合計画案	
・議案第40号	つがる市過疎地域自立促進計画案	
・議案第41号	定住自立圏の形成に関する協定の締結の件	
散会の宣告		1 0

第 2 号 (3月7日)

議事日程		1 1
本日の会議に付した事件		1 1
出席議員		1 2
欠席議員		1 2
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名		1 3
職務のため議場に参加した者の職氏名		1 3
開議宣告		1 4
一般質問		1 4
12番 成田克子議員		1 4
4番 長谷川榮子議員		1 7

7番 佐藤孝志議員	28
17番 伊藤良二議員	39
6番 木村良博議員	47
18番 松橋勝利議員	58
散会の宣告	66

第 3 号 (3月8日)

議事日程	67
本日の会議に付した事件	68
出席議員	69
欠席議員	69
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	70
職務のため議場に出席した者の職氏名	70
開議宣告	71
一般質問	71
2番 田中 透議員	71
9番 三上 洋議員	74
1番 齊藤 渡議員	82
総括質疑	87
予算特別委員会の設置	87
議案等委員会付託	88
散会の宣告	88

第 4 号 (3月17日)

議事日程	89
本日の会議に付した事件	89
出席議員	90
欠席議員	90
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	91
職務のため議場に出席した者の職氏名	91
開議宣告	92
予算特別委員長審査報告、討論、採決	92
総務常任委員長審査報告、討論、採決	93

教育民生常任委員長審査報告、討論、採決	9 4
日程の追加	9 5
議案第42号、議案第45号～議案第47号の上程、説明、質疑、討論、採決	9 5
・議案第42号 平成27年度つがる市一般会計補正予算（第10号）案	
・議案第45号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件（つがる市立図書館）	
・議案第46号 財産取得の件（つがる市立図書館什器備品）	
・議案第47号 財産取得の件（つがる市立図書館図書）	
議案第43号の上程、説明、質疑、討論、採決	9 9
・議案第43号 つがる市教育委員会委員の任命につき同意を求めるの件	
議案第44号の上程、説明、質疑、討論、採決	1 0 0
・議案第44号 木造新田地域5町村新市建設計画の一部変更の件	
閉会の宣告	1 0 1
署 名	1 0 3

第 1 号

平成28年3月3日（木曜日）

平成28年第1回つがる市議会定例会会議録

議事日程（第1号）

平成28年 3月 3日（木曜日）午前10時開会、開議

1 開会、開議宣告

1 議事日程

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 諸般の報告
- 日程第4 議案第13号 平成27年度つがる市一般会計補正予算（第9号）案
- 議案第14号 平成27年度つがる市国民健康保険特別会計補正予算（第4号）案
- 議案第15号 平成27年度つがる市後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）案
- 議案第16号 平成27年度つがる市介護保険特別会計補正予算（第5号）案
- 議案第17号 平成28年度つがる市一般会計予算案
- 議案第18号 平成28年度つがる市農業集落排水事業特別会計予算案
- 議案第19号 平成28年度つがる市公共下水道事業特別会計予算案
- 議案第20号 平成28年度つがる市国民健康保険特別会計予算案
- 議案第21号 平成28年度つがる市後期高齢者医療特別会計予算案
- 議案第22号 平成28年度つがる市介護保険特別会計予算案
- 議案第23号 つがる市行政不服審査会条例案
- 議案第24号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例案
- 議案第25号 つがる市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第26号 つがる市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第27号 つがる市集会所条例の一部を改正する条例案
- 議案第28号 つがる市火災予防条例の一部を改正する条例案
- 議案第29号 つがる市消防団条例の一部を改正する条例案
- 議案第30号 つがる市国民健康保険条例の一部を改正する条例案
- 議案第31号 つがる市健康診査等費用徴収に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第32号 つがる市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例案
- 議案第33号 つがる市生涯学習交流センター「松の館」条例及びつがる市柏ふるさと交流センター条例の一部を改正する条例案
- 議案第34号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件

- (つがる市稲垣体育館、つがる市稲垣体育センター)
- 議案第35号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市牛潟公民館、つがる市車力体育センター、つがる市立車力柔剣道場)
- 議案第36号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市木造福祉交流センター「花しょうぶの館」、つがる市柏ふるさと生きがいセンター、つがる市車力ウェルネスセンター)
- 議案第37号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市森田ふれあい交流の里「おらほの湯」)
- 議案第38号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市健康増進施設「稲穂の湯」)
- 議案第39号 第2次つがる市総合計画案
- 議案第40号 つがる市過疎地域自立促進計画案
- 議案第41号 定住自立圏の形成に関する協定の締結の件
-

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（20名）

1番	齊藤 渡	2番	田中 透	3番	佐々木 敬藏
4番	長谷川 榮子	5番	成田 博	6番	木村 良博
7番	佐藤 孝志	8番	長谷川 徹	9番	三上 洋
10番	野呂 司	11番	天坂 昭市	12番	成田 克子
13番	佐々木 直光	14番	佐々木 慶和	15番	平川 豊
16番	山本 清秋	17番	伊藤 良二	18番	松橋 勝利
19番	白戸 勝茂	20番	高橋 作藏		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市 長	福 島 弘 芳
副 市 長	佐 藤 昭 三
教 育 長	葛 西 岷 輔
総 務 部 長	倉 光 弘 昭
財 政 部 長	三 上 保 男
民 生 部 長	山 口 健 吾
福 祉 部 長	境 宏
経 済 部 長	高 橋 寿
建 設 部 長	新 岡 秀 行
総 務 部 次 長	木 村 好 秀
財 政 部 次 長	加 藤 靖
民 生 部 次 長	増 田 忠 昭
経 済 部 次 長	山 内 信 昭
建 設 部 次 長	松 橋 守
教育委員会委員長	成 田 悦 雄
選挙管理委員会委員長	成 田 照 男
農業委員会会長	山 本 康 樹
監 査 委 員	長谷川 勝 則
教育委員会部長	三 上 みつる
選挙管理委員会事務局長	小 寺 保
農業委員会事務局長	成 田 柳 二
監査委員事務局長	下 山 芝 規
消 防 長	成 田 一 司
稲垣出張所長	長 内 清 範
車力出張所長	工 藤 輝 美
会計管理者心得	北 畠 悟

職務のため議場に出席した者の職氏名

事 務 局 長	野 呂 金 弘
事 務 局 次 長	葛 西 隆 志
総 務 係 長	三 上 眞理子
議 事 係 長	葛 西 正 美

◎開会、開議宣告

- 議長（佐々木慶和君） 皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員数は20名であります。定足数に達しておりますので、平成28年第1回つがる市議会定例会を開会いたします。直ちに会議を開きます。

（午前10時00分）

◎会議録署名議員の指名

- 議長（佐々木慶和君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。日程第1、会議録署名議員の指名を行います。本定例会の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により18番、松橋勝利議員、19番、白戸勝茂議員を指名します。
-

◎会期の決定

- 議長（佐々木慶和君） 日程第2、会期の決定を議題とします。お諮りいたします。本定例会の会期は、お手元に配付の会期予定表のとおり、本日から3月17日までの15日間といたしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。〔「異議なし」と言う人あり〕
- 議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認めます。よって、会期は本日から3月17日までの15日間とすることに決定いたしました。
-

◎諸般の報告

- 議長（佐々木慶和君） 日程第3、諸般の報告をいたします。報告第2号、第3号の2件及び地方自治法第121条第1項に基づく今定例会への説明員については、お手元に配付のとおりであります。次に、監査委員から例月出納検査平成27年度の10月から12月分の報告書が提出されておりますので、その写しを配付しております。以上で諸般の報告を終わります。
-

◎議案第13号～議案第41号の上程、提案理由の説明

- 議長（佐々木慶和君） 日程第4、議案第13号から議案第41号までの計29件を一括議題といたします。提案理由の説明を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） おはようございます。本日ここに、平成28年第1回つがる市議会定例会の開会に当たり、市政運営について私の所信の一端を述べますとともに、上程されました議案の主なるものについて、その概要をご説明申し上げ、ご審議の参考に供したいと思っております。

昨年2月に合併10周年を節目に迎え、合併記念式典を初め、姉妹都市との交流から生まれたイベントなどさまざまな記念事業を通じ市民とともに喜びを分かち合うことができました。

合併以来「新田が彩る日本のふるさと」を基本理念として、社会情勢が変化する中、財政基盤の安定を考慮しながら市発展の施策を講じてまいりました。

一方、国内に目を向けますと、少子高齢化により将来推計人口が平成60年には1億人を割ると言われ、人口減少に歯どめをかける施策が急務となっております。

本市は、「第2次総合計画」の策定と並行して、まち・ひと・しごと創生法に基づく「地域活力創生総合戦略」を策定したところであります。

人口減少は、本市の経済、地域コミュニティー、子育て・教育、そして地方財政に大きな影響を及ぼします。

また、町村合併による地方交付税の特別措置が段階的に減額され、地方経済の情勢においても、大幅な増収は見込めない状況にあります。将来的にも健全な財政運営を堅持していかなければならないと考えております。

今後の市政運営に当たっては、人口減少を抑制し、将来的な人口の維持に努めていかなければなりません。

このことから、基幹産業である農業において、つがるブランド事業を継続的に推進し、さらに6次産業化に結びつく支援を行うとともに、地域資源の発掘など新たな視点からも農業振興を図ってまいります。

短命県と言われる青森県にあって、本市も働き盛りの年代の死亡率が高く、特に生活習慣病の改善が重要であることから、健診受診率の向上を図るとともに、乳幼児期から高齢期までの日常生活における健康指導の拠点施設の整備に取り組みます。

また、本市の歴史、伝統文化、自然など市民の学ぶ環境や文化財の保護を推進し、未来を担う人材の育成に向けた施策を展開してまいります。

これからの基本施策の推進に向けた「第2次つがる市総合計画案」を今定例会に提案しておりますので、議員各位のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、本定例会に上程いたしました議案につきましてご説明申し上げます。

本定例会に提出いたしました議案は、予算案10件、条例案11件、指定管理者の指定5件、その他の案件3件の、合わせて29件であります。

まず、予算案につきましてご説明申し上げます。

議案第13号「平成27年度つがる市一般会計補正予算（第9号）案」につきましては、国の補正予算に伴う事業や本年度の事務・事業の精査により、所要の予算措置を講ずるものであります。その結果、一般会計の予算規模は、既決予算から9,701万6,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を235億7,166万1,000円とするものであります。

また、継続費及び繰越明許費、公の施設に係る指定管理料の債務負担行為、地方債の補正をそれぞれ行っております。

それでは、歳出に計上された主なるものについて、款を迫ってご説明申し上げます。

総務費においては、本補正予算の財源調整及び市債の繰上償還の財源として、財政調整基金積立金1億984万7,000円、減債基金積立金2億3,017万9,000円をそれぞれ減額し、社会保障・税番号制度導入に伴う情報セキュリティの強化のための業務委託料6,914万5,000円を計上しております。

民生費においては、国の補正予算に伴う、年金生活者等支援臨時福祉給付金費1億8,939万8,000円を計上しております。

土木費においては、地域住宅支援事業費の国庫補助金が確定したことにより、事業費2億7,215万7,000円を減額計上しております。

公債費では、長期債の繰上償還等に伴う元金2億7,241万8,000円を計上しております。

以上が歳出予算の概要であります。

次に、歳入予算についてご説明申し上げます。

国の補正予算に伴う年金生活者等支援臨時福祉給付金事業費補助金1億8,939万8,000円を計上したほか、歳出における事務事業の精査に伴い、国・県支出金、市債について、それぞれ所要額の補正を行っております。

また、議案第14号から議案第16号までの平成27年度各特別会計補正予算案につきましては、ご審議の際に詳細にご説明申し上げます。

次に、議案第17号「平成28年度つがる市一般会計予算案」についてご説明申し上げます。

平成28年度予算の編成に当たっては、「少子高齢化対策の推進」、「安全・安心なまちづくり対策の充実」を目指し、将来に向けて健全な財政基盤、運営を構築するため、国・県の補助制度及び地方交付税算入率の高い地方債の活用を努め、市民生活に欠くことのできない施策や政策課題への財源確保に努めたところであります。

その結果、一般会計の予算規模は、239億9,000万円となり、前年度比23億3,000万円、10.8%増で町村合併以降、最大の予算規模となっております。

性質別支出では、人件費や扶助費などの義務的経費が112億4,545万円、前年度比7,151万4,000円、0.6%の減額となっております。

投資的経費では、建設事業が48億346万3,000円となり、前年度比19億2,376万3,000円、66.8%増

となっております。

それでは、歳出における主なるものにつきまして、款を追ってご説明申し上げます。

議会費においては、議場運営をインターネットにより発信するため議会映像配信事業費1,248万2,000円を計上しました。

総務費では、地域創生事業として移住者マイホーム応援事業等補助金555万8,000円、穂積コミュニティセンター建設事業1億808万5,000円を計上しました。

民生費では、4月から開園します、車力認定こども園の経費として1億3,018万5,000円を計上しました。

衛生費では、市民診療所と連携を図り、市民の健康指導の拠点となる総合健診センター建設事業6億1,483万6,000円、一般廃棄物処分場の建設に向けた調査設計業務委託料1,651万4,000円を計上しました。

農林水産業費では、農産物のブランド化、販売促進を図るため、つがるブランド推進事業費3,444万5,000円、6次産業化促進事業費1,037万1,000円、新たに都市圏から人材を招き、地域協力活動を通じ定住を図るとともに、都市圏からの視点で産業振興を図っていく、地域おこし協力隊事業費1,000万円を計上しました。

土木費では、社会資本整備総合交付金事業及び民生安定事業等道路新設改良費6億2,956万5,000円、地域住宅支援事業費8億3,266万8,000円を計上しました。

消防費では、高機能消防指令センター整備事業費3億8,740万円を計上しました。

教育費では、車力地区の3小学校の統合開校に係る統合小学校建設費13億836万3,000円、国の指定や市の指定文化財保護の事業として遺跡発掘・保存事業1億7,576万8,000円、旧木造中央公民館講堂移築保存事業1億3,719万2,000円を計上いたしました。

また、市立図書館の指定管理料等7,100万円を計上いたしました。

公債費は、33億394万5,000円となっております、一般会計での平成28年度末市債残高は、372億7,812万8,000円の見込みとなっております。

次に歳入の主なものにつきましてご説明申し上げます。

市税につきましては、平成27年産米価の引き上げに伴い、農業所得の増額を見込み23億1,208万4,000円を計上しました。

地方交付税につきましては、合併による特別措置が段階的に減額されることから、前年度比3億円減額の93億円を計上いたしました。

繰入金につきましては、財源調整のための財政調整基金6億4,519万6,000円を計上いたしました。

市債につきましては、車力統合小学校建設事業、総合健診センター建設事業や公営住宅整備事業など大規模事業の実施に伴い前年度比16億6,530万円増の41億7,540万円を計上いたしました。

国、県支出金につきましては、生活保護費や社会福祉、児童福祉の扶助費、建設事業などの関連

において計上いたしました。

以上が、「平成28年度つがる市一般会計予算案」の概要であります。

このほか、議案第18号から議案第22号までの平成28年度各特別会計予算案につきましては、ご審議の際に詳細にご説明申し上げます。

次に、条例案についてご説明申し上げます。

条例案につきましては、議案第23号から議案第33号までの11件を提案いたしております。

議案第23号「つがる市行政不服審査会条例案」は、行政不服審査法の規定により、不服申し立てに係る審理結果を諮問するため、第三者機関を設置することとされたことから、附属機関として「つがる市行政不服審査会」を設置し、その組織及び運営について必要事項を定めるものであります。

議案第24号「行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例案」は、新行政不服審査法の施行に伴い、関係条例を整備する必要があることから所要の改正を行うものであります。

議案第25号「つがる市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案」は、新たに設置される非常勤特別職の職員の報酬の額を定めるものであります。

議案第26号「つがる市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案」は、地方公務員法の一部改正に伴い、一般職に属する職員の級別標準職務分類表を条例で規定するため改正を行うものであります。

議案第27号「つがる市集会所条例の一部を改正する条例案」は、福富集会所の建てかえに伴い、所要の改正を行うものであります。

議案第28号「つがる市火災予防条例の一部を改正する条例案」は、省令の一部改正に伴い所要の改正を行うものであります。

議案第29号「つがる市消防団条例の一部を改正する条例案」は、消防団員の定数を削減し、及び定年年齢を引き上げるため改正するものであります。

議案第30号「つがる市国民健康保険条例の一部を改正する条例案」は、国民健康保険の被保険者に係る葬祭費の金額を見直すため改正を行うものであります。

議案第31号「つがる市健康診査等費用徴収に関する条例の一部を改正する条例案」は、特定健康診査及び健康診査の健診料を無料にするため改正を行うものであります。

議案第32号「つがる市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例案」は、車力地区統合小学校の校名を「つがる市立車力小学校」とするものであります。

議案第33号「つがる市生涯学習交流センター「松の館」条例及びつがる市柏ふるさと交流センター条例の一部を改正する条例案」は、認定こども園が利用する場合の減免措置を行うため所要の改正を行うものであります。

議案第34号から議案第38号までの「つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件」5件は、公共施設に係る指定管理期間の満了に伴い、指定管理者を更新するものであります。

議案第39号「第2次つがる市総合計画案」は、平成37年度を目標年度とする市の総合計画を策定するものであります。

議案第40号「つがる市過疎地域自立促進計画案」は、過疎地域自立促進特別措置法が平成33年3月31日まで延長されたことに伴い、新たに市の過疎地域自立促進計画を策定するものであります。

議案第41号「定住自立圏の形成に関する協定の締結の件」は、定住自立圏の形成に関し、五所川原市との間で協定を締結するものであります。

以上をもちまして、提出議案の概要についてご説明申し上げましたが、議事の進行に伴い、ご質問に応じ、本職を初め関係者から詳細にご説明申し上げたいと思います。

何とぞ、慎重ご審議の上、原案どおり御議決を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（佐々木慶和君） 提案理由の説明が終わりました。

◎散会の宣告

○議長（佐々木慶和君） 以上で本日の日程は全て終了いたしました。

4日は議案熟考のため休会であります。7日は午前10時から会議を開きます。

本日はこれにて散会いたします。

(午前10時29分)

第 2 号

平成 2 8 年 3 月 7 日 (月曜日)

平成28年第1回つがる市議会定例会会議録

議事日程（第2号）

平成28年 3月 7日（月曜日）午前10時開議

1 開議宣告

1 議事日程

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（20名）

1番	齊藤 渡	2番	田中 透	3番	佐々木 敬藏
4番	長谷川 榮子	5番	成田 博	6番	木村 良博
7番	佐藤 孝志	8番	長谷川 徹	9番	三上 洋
10番	野呂 司	11番	天坂 昭市	12番	成田 克子
13番	佐々木 直光	14番	佐々木 慶和	15番	平川 豊
16番	山本 清秋	17番	伊藤 良二	18番	松橋 勝利
19番	白戸 勝茂	20番	高橋 作藏		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市 長	福 島 弘 芳
副 市 長	佐 藤 昭 三
教 育 長	葛 西 岷 輔
総 務 部 長	倉 光 弘 昭
財 政 部 長	三 上 保 男
民 生 部 長	山 口 健 吾
福 祉 部 長	境 宏
経 済 部 長	高 橋 寿
建 設 部 長	新 岡 秀 行
総 務 部 次 長	木 村 好 秀
財 政 部 次 長	加 藤 靖
民 生 部 次 長	増 田 忠 昭
経 済 部 次 長	山 内 信 昭
建 設 部 次 長	松 橋 守
教育委員会委員長	成 田 悦 雄
選挙管理委員会委員長	成 田 照 男
農業委員会会長	山 本 康 樹
監 査 委 員	長谷川 勝 則
教育委員会部長	三 上 みつる
選挙管理委員会事務局長	小 寺 保
農業委員会事務局長	成 田 柳 二
監査委員事務局長	下 山 芝 規
消 防 長	成 田 一 司
稲垣出張所長	長 内 清 範
車力出張所長	工 藤 輝 美
会計管理者心得	北 畠 悟

職務のため議場に出席した者の職氏名

事 務 局 長	野 呂 金 弘
事 務 局 次 長	葛 西 隆 志
総 務 係 長	三 上 眞理子
議 事 係 長	葛 西 正 美

◎開議宣告

○議長（佐々木慶和君） おはようございます。ただいまの出席議員数は20名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

（午前10時00分）

◎一般質問

○議長（佐々木慶和君） 本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

日程第1、一般質問を行います。

あらかじめ申し上げておきます。質問については、答弁を含めて1時間以内であります。

◇ 成 田 克 子 君

○議長（佐々木慶和君） それでは、通告順に質問を許します。

第1席、12番、成田克子議員の質問を許します。

成田克子議員。

〔12番 成田克子君登壇〕

○12番（成田克子君） 皆様、おはようございます。第1席を賜りました芳政会の成田克子でございます。

今月末には北海道新幹線開業の運びとなり、新青森駅、奥津軽いまべつ駅、新函館北斗駅の3駅では盛りだくさんのイベントを計画し、全力を挙げて観光誘致に取り組んでいるようでございます。本市もこれを機に縄文の里への観光客の増加に結びつけたいところでございます。

それでは、質問に入らせていただきます。初めに、東京五輪、パラリンピック大会のホストタウンに応募してはどうかについてお伺いいたします。政府は、2020年の東京五輪、パラリンピック大会で外国選手団の事前合宿誘致の受け皿となるホストタウンを募集しており、全国の自治体に開催効果を波及させ、地域の活性化と観光振興につなげることを目的にしております。第1次では、今別町など69件が申し込み、うち44件が決定したそうであります。今後は、第2次が6月上旬、第3次が11月をめどに募集を行うとしております。

本市のスポーツ少年の活躍ぶりは全国レベルの成績であることから、オリンピック選手団との交流の機会を与えることは、子供たちにとっては生きた教材であり、オリンピック出場の夢に向かって頑張る意欲の醸成と次世代の感性豊かな人材の育成につながるものと考えております。本市でも応募してはいかがなものでしょうか、お伺いいたします。

次に、一石二鳥で空き店舗の有効活用とお総菜店の開業支援についてお伺いいたします。中心商店街で唯一にぎわっていたスーパーさんの閉店に伴い、住民への影響が表面化しております。でき

るだけ福祉に頼らず、子供たちの負担にならないようにと頑張ってきた高齢者の方々や、バスでお総菜を買いに来ていた近隣住民が一変して買い物弱者に陥り、毎日の食生活に不安を抱いております。

そこで、中心商店街にある空き店舗を市が借りて無償貸与でお総菜店の開業支援をしてはどうかと考えておりますが、行政としても何かしらの手を差し伸べる責務があると思っておりますので、市のお考えをお伺いいたします。

これで1回目の質問を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） おはようございます。成田議員の質問にお答えいたします。

国は、東京オリンピック、パラリンピックの開催に向けて、全国の自治体と参加国、地域との人的、あるいはまた経済的、文化的な相互交流を図る地方公共団体をホストタウンとして募集を行っているものでございます。ホストタウンとして必要な要件が3点ございます。1点目は基準を満たした競技場があること、そして2点目は基準を満たした宿泊施設があること、最後の3点目は2020年の東京オリンピック以降も招致した外国との交流の継続というふうになっております。

つがる市は、特定の外国とのスポーツを通じた交流を行ってきた経緯はございません。また、市内には競技の練習場、あるいはまた宿泊施設の要件などに合う施設でないことから応募しておりません。オリンピック、パラリンピックの開催を契機に、子供たちがトップアスリートと接する機会を設けることができれば検討してまいりたいというふうに考えております。

ほかの質問は、担当部局のほうから答弁させます。

○議長（佐々木慶和君） 高橋経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） おはようございます。成田克子議員の2点目の質問でございます。プラザの閉店により高齢者が買い物弱者となり、市で何らかの手だてをする必要があるのではというご質問です。現在開業支援として商店街のにぎわいづくりを促進するために、中心商店街等にある空き店舗を活用する市出店者に支援をする事業がございます。これを活用していただきたいと考えております。

また、買い物弱者対策として宅配サービス事業を実施しており、今現在会員が693名、それから加盟店が17店舗で活動しているところです。この宅配範囲は市内全域であり、旧町も含まれていることです。市民に対しても周知を図り、活用していただくよう努めてまいります。

市が総菜店の開業支援をしてはということですが、商店街にはさまざまな商店が経営努力して営業をしているところです。プラザ廃業により新たな買い物弱者が発生するのは好ましくありませんので、今後どうするべきか、市商店街、商工会の皆さんで検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 成田議員。

○12番（成田克子君） それでは、再質問に入らせていただきます。

ホストタウンについては、今別町にできてつがる市にできないわけではないという気持ちでございましたが、受け入れが無理なようで、少し残念に思っております。しかし、オリンピックが今度日本に来るのは何十年後になるのか誰もわからないことをございまして、そのようなことを考えますと、この機会にぜひとも子供たちとの外国選手団との交流を実現していただきたいと思っております。教育長、その点についてお考えをお聞かせください。

次に、お総菜店の開業については、パック詰めのお総菜でありますので、私、五所川原保健所で設置基準についてお話を伺ってきました。それによれば、道の駅の会員さんたちは保健所の許可を持っておりますので、中心商店街の空き店舗に道の駅の支店を開設させて、お総菜等の販売ができれば高齢者の方々も助かるのではと思っております。したがって、郊外にある道の駅の商品が町なかでも買うことができますし、これを実現すれば中心商店街が活性化し、町なかのにぎわいと活気を取り戻すことにつながると思っております。商工会との話し合いにはこのような事柄も考慮して臨んでいただきたいと思っております。

もう一つは、プラザさん前のバス停の件ですが、今は野ざらし状態で大変寒い思いをさせておりますので、早急に対処していただきたいと思っておりますが、総務部長、これについてもご答弁をお願いいたします。よろしく願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 葛西教育長。

○教育長（葛西岷輔君） 成田議員のご質問にお答えいたします。

子供たちとアスリートとの触れ合いのチャンスをつくれないものかというご質問だと思います。平成26年につがる市スポーツ推進計画というのをつくったわけですが、その中にアスリート、実業団、ナショナルチームとか、そういうのを誘致できないかとか、アスリートのパフォーマンスを云々という施策を盛っております。ですので、今回は東京オリンピック、パラリンピック、さらにその後の青森国体等を考えた場合に、子供たちにそういう機会を与えるというのはまれにないいい機会ではないかなと、そのように考えております。

それで、県のスポーツ健康課のほうに青森県出身のアスリートたちがネットワークをつくっているのです。ネットワークをつくって、そしていろんなスポーツ大会とか、いろんな研修会とかを計画して、それに自分たちがどんどん出かけていくというようなのが設置されていますので、そこを見てみますと、例えばソフトボールの斎藤春香選手とか、それから陸上競技で言えば福士加代子選手とか、たくさんの県内出身のアスリートが登録しているようですので、子供たちに効率的なそういう機会を前向きに考えていきたいなど。特に東京オリンピックとかパラリンピックはすぐなわけで、つがる市の子供たちもそういう観戦ツアーというものを計画できないものかどうか、いろんな

そういうところは検討してまいりたいと、そのように思っております。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 2回目の質問で、道の駅の支店的なものをつくったらいかがなものかということのご質問です。ただ、ご存じのとおり、街の駅あるびょんがございます。そこら辺も全部一まとめにして体制づくりをちょっと考えて進めてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 成田議員。

○12番（成田克子君） 終わりになりますが、北海道新幹線の開業により、本市も観光客が今以上にレンタカーなどでおいでになると思います。そんなとき名勝地への表示は大きく、誰がどこの角度から見てもわかりやすいようにしていただきたい。また、私たち市民も観光客とおぼしき方々には親切におもてなしの気持ちで接していくことを心がけていきたいと思います。

次に、中心商店街のシャッター通り化を防ぐために、まず空き店舗の利用として一例を挙げますと、外国の小さな観光地での取り組みですが、観光客の来る10時から3時ごろの時間帯だけ市から依頼された方が空き店舗を利用して民芸品づくりや民族衣装を着せて写真を撮ったり、そしてまた郷土料理の指導、日本でいえばそば打ち体験などをしており、依頼された方は趣味を楽しんでお金を観光客からいただくシステムになっておりました。

職員の方々にはいろいろとお願いしましたが、新しい政策の取り組みには多忙をきわめることになるでしょうが、今回取り上げた2つの提言は、いずれも国の推進する地方創生であり、着実に進めていくために熟慮、断行を望みまして私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（佐々木慶和君） 以上で成田克子議員の質問を終わります。

◇ 長 谷 川 榮 子 君

○議長（佐々木慶和君） 第2席、4番、長谷川榮子議員の質問を許します。

長谷川議員。

〔4番 長谷川榮子君登壇〕

○4番（長谷川榮子君） 通告の第2席を賜りました長谷川榮子でございます。平成28年3月定例議会におきまして私は3点ほど通告しておりますので、通告順に従って質問してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

まず、1点目の環境行政についてお伺ひ申し上げます。つがる市の第1次産業である農業の発展を願ひ、ありとあらゆる方面から手だてをし、当局も頑張っていることは、私もある程度評価するものです。しかしながら、農家を取り巻く環境は近年ますます厳しくなり、なかなか所得向上とまではいかないのが現実かと思ひます。市長は、合併以来10年、8品目の農作物のブランド化を目指

して頑張ってきたわけですが、なかなか厳しいものがあるようで、じくじたる思いをしていらっしゃるのではないのでしょうか。その8品目の中で一番ブランドに近いと期待されるメロンですが、メロンの生産者の方々に伺いますと、この10年間で所得はプラスになるどころかマイナスに転じている人が多いというふうに伺っております。その大きな要因の中に、まず資材の高騰が挙げられます。肥料や農薬は、ここ三、四年で30%以上も高くなったそうです。また、メロン、スイカ、野菜づくりには欠かすことのできない農ポリ、農業ビニールも同然で大変高くなっております。これに加えて昨年27年度からは、廃プラ処理には前年度と比較すると倍近い値上がりだそうで、農家の方々はこのままではメロン、スイカづくりは続けていけない、そんな声まで聞かれます。

そこで、次の4点についてお伺い申し上げます。農業用廃プラの適正処理について伺います。まず、不法投棄の現状は把握しておられますでしょうか。

2点目、不法投棄は、なかなか解消とまではいかないと思います。その実態を解消していくための市の対応策をお聞かせください。

3点目、市の助成事業の内容と実績について、過去3年間、お知らせください。

4点目、現在市では1キロに対して5円の助成を行っているわけですが、前年度に比較すると、この処理をするには倍ぐらいの値上がりというわけで、そういう事情を考慮していただき、今後この回収助成拡大についてどのようなお考えをお持ちかお聞かせください。

次に、つがる警察署についてお伺いいたします。ある程度私は知っているつもりですが、今回改めてお伺いいたします。移転時期はいつごろで、移転先は決まっておられるのでしょうか。

次に、成人病センターと公民館の跡地の利用計画がおありでしたらお聞かせください。

最後に3点目、交通手段の利便性向上についてお伺いいたします。高齢者に優しい交通手段について。高齢者だけの世帯では、送迎できる家族がいない方は、日ごろの買い物などはバスを利用しなければなりません。高齢者はバス停まで歩いていくことも、また買い物した後は重い荷物を持って歩くのも大変です。

そこで、弘南バスの路線をそれぞれフリー区間として運行できないものか伺います。フリー区間は、バス停以外でも手を挙げたら乗車でき、また下車時も同様の対応をしていただけないものかどうか伺いたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 長谷川議員の質問、3点ぐらありますけれども、私は警察署のほうについて答弁したいと思います。

つがる警察署の移転につきましては、平成28年度において庁舎設計及び用地取得を行いまして、平成29年度において2カ年での建築費を要求するというふうに聞いております。移転時期に関しま

しては、庁舎建築が具体的にならなければはっきりしないということで、今は申し上げられないというような回答でございました。現状では、平成30年度中予定で計画を進めているそうです。移転先につきましては、昨年の5月19日に開催されました議員全員説明会において、あかね公園に移転したいという要望があるということを報告しております。

参考ですが、先日の新聞報道におきましては、青森県当初予算案の主な事業で「築44年が経過したことから、老朽化に伴う移転、新築に要する設計費、用地取得費として8,864万円を盛った。つがる市所有のあかね公園に移転予定」という記事が掲載されております。

以上、ほかの質問に関しては担当部局のほうから答弁させます。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 長谷川榮子議員からの環境行政についてのご質問です。

まず、1番目の不法投棄の現状についてのご質問ですが、廃プラの不法投棄については農林水産課のほうにはちょっと届いていないので、把握しておりません。

それから、2番目の解消に向けた市の対応ということですが、今言いましたように情報入ってきていません。ですので、本来適正処理につきましては、つがる市の農業用廃プラスチック適正処理推進協議会がございます。そこで処理費用の支援とか、適正な処理の啓蒙などを行っているところです。

3番目の助成事業の内容と処理実績についてです。助成内容は、つがる市農業用廃プラスチック適正処理推進協議会が収集機関、それから農家が産廃業者に搬入し、その数量に対して協議会が農家に支援しているところです。キロ当たり5円です。過去3カ年の実績ということ。平成25年度の処理量は361トン、それに対して農家数が815戸、それから平成26年度は351トン、処理農家数が929戸、それから平成27年度、166トン、それからほかの業者さんが参入しましたので、その分が179トン、計で345トンの利用者が728戸となっております。

次に、回収処理費用の助成拡大についてということでございます。処理費用の助成拡大については、本来産業廃棄物は事業者が適正に処理するべきものであるというふうに私たちは認識しております。その推進を図るために協議会が支援しているという、あくまでもその支援という形で行ってきています。支援拡大につきましては、プラスチック適正処理推進協議会が、4月にたしか会合があります。そこら辺、ちょっと協議してみたいなというふうに考えております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 三上財政部長。

○財政部長（三上保男君） それでは、私のほうから、つがる警察署についての2件目の質問でございます。成人病センターの跡地と公民館の跡地の利用計画はというご質問でございます。

旧成人病センター跡地につきましては、27年6月の定例会の一般質問の中でも総合健診センターの関連でご質問をいただいております。その際に跡地の利活用については、現段階で見出せてい

ないということから、その他のあいている施設、遊休地を含めて関係部局と協議して28年度に計画していくことにしてございます。それまでは、冬の雪捨て場に当面利用するというご回答しておりました。その後、平成27年夏ですけれども、市の10周年記念イベントを盛り込んだ馬市まつりにおきまして臨時的駐車場として開放してございます。その後の計画の中で、旧成人病センター跡地の新たな利活用が示されるまでは、イベント等の臨時駐車場、そして冬場は雪捨て場として活用していくことになると思います。

それと、旧木造中央公民館跡地についてですが、建物の解体工事が本年3月25日までの工期となっております。市の文化財である講堂が残っておりますことから、平成28年度以降に行われます講堂の工事の関係に影響がなければ、隣接する銀杏ヶ丘公園駐車場として活用することを予定しております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 倉光総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 私のほうから3点目の交通手段の利便性向上ということで、議員のほうから手を挙げたらどこでも乗れると、どこでもおることができるという、そういうフリー乗車型の提案をいただいているところでございますが、まず路線バスの運行方法については、議員ご存じのとおり事細かに法律で定められて、バス停の位置であるとか、停車の位置であるとか、そういうことに従ってバスの運行をしているということでございます。いわゆる時間どおりにきちきちっと来るのが定時定路線型、議員がおっしゃるのがフリー乗車型ということで、この2種類があるのでございますけれども、どちらにもメリット、デメリットはございまして、定時型のほうは、ほかの交通機関に乗り継ぐときは時間の計画もできると、旅程の計画ができるということになるかと思えます。一方、フリー乗車型についてもメリットは、当然どこでも乗れると。利用形態が上がることでメリットはありますけれども、定時型と相反するのですけれども、そういう他の交通機関に乗り継ぐときは時間どおりに来ないので、それは利用できないということでございます。今現在弘南バスでフリー乗車区間を設定しているのが弘前市の岩木地区というところであると伺っています。この地区を設定した弘南バスの理由としては、本当に孤立して二、三軒しかない集落についてはフリー乗車型もやむを得ないということで設定しているようでございます。

以上申し上げましたとおり、どちらがいいのか、これからの情勢を見きわめて関係機関と検討していきたいというふうに考えてございます。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） まず1点目の環境問題ですけれども、私の手元に届いた資料によりますと、25年、26年、27年度を比較した資料が届いております。まず、搬入戸数ですけれども、去年から車力のほうに佳成商事という新しい会社ができたとすよね。これ市民の方々は、知らない方が多かったように思います。でも、その新しい会社が入ったことによっても、25年度、27年度比較する

と戸数にして201戸、搬入する人が少ないというふうに資料に出ておりますよね。メロン、スイカづくりの戸数は、どのくらいでしょうか。資料には搬入している人が少なくなったというふうに書いていますけれども、これはメロン、スイカづくりをやめた人が多くて処理場に持っていかなかった人が多いものなのかどうか、まずそこから伺います。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 今メロンの作付農家数のご質問です。平成18年度で国の統計がなくなって、あくまでも推計ということで見てみますと、今現在約1,300戸ぐらい、メロン、スイカつくっている方がいらっしゃるのではということで推計はしております。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 1,300戸つくっているそうですけれども、この資料では大体1,000戸を対象にしています。そうすると、ここで300戸の人がどうしているかということになるわけです。それが一番の不法投棄という問題につながるのではないのでしょうか。不法投棄の現場、私何回か質問してまして、監視カメラを設置しているとか、いろいろご答弁をいただいているのも承知しております。だけれども、依然として不法投棄は後を絶ちません。その原因は一体何でしょうか、どのようにお考えでしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 確かに私も農業委員会にいたころ、回って歩いて、沼とかに不法に投棄された現場は見たことがございます。ただ、そういうのをなぜ出すのかと言われても、本当に私たち、やっぱり経費がかかるとか、労働力がかかるとか、さまざまな理由があると思います。

ただ、先ほども申し上げましたように、本来適正処理というのは事業者が自分でやるべきものというのが原則としてありますので、そのためにうちのほうでは啓蒙、それこそ適正処理してくださいと、そのために支援しますよというふうにやってきたところですが、ただ、今後市としてどうのこうのじゃなくて、事業者に対してあくまでも適正な処理をしてくださいというふうにお願いしていくしかないものかなというふうに考えています。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 農家の人たちも知っているのです、捨てたら悪い。以前でしたら秋収穫が終わると燃やしたものなのです。だけれども、ダイオキシン、発がん性の物質があるということで、法律で燃やすことは禁じられています。だけれども、燃やして警察に捕まって30万円とか40万円とかという莫大な罰金を科せられている件も後を絶ちません。その件数を尋ねましたら、警察の管轄で答えられないということですのでけれども、担当局は燃やして罰せられている人がいるということは承知ですか。

○議長（佐々木慶和君） 高橋経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 現実的には話としては聞いたことがございます。罰金を30万円取られた、

40万円取られたという話は聞いております。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） わかっているのです。燃やしたら、捕まったら大変な罰金を取られる。不法投棄をしたら、それは悪いことだというのはわかっているのです。誰でもわかっていることです。だけれども、後を絶たないというのは、今まで燃やしてもそんなにとがめられなかったことが法律で禁じられた、ではどうすればいいか。市の廃プラスチック協議会ですか、ここに持っていけば1キロ5円の助成金をいただけて、持っていくのが一番いいということは誰でも知っているのです。だけれども、去年から比べて倍に値段が上がったのです。メロンがなかなかいい値段がつかない。ブランド、ブランドと言うけれども、プレミアムメロンですか、大変高く売れたということで私も期待したのですけれども、数が少ない。1箱3,150円ですか、そのぐらいの値段で、この廃プラを処理するのにこれほどのお金がかかるというのは生活の問題なのです。やむを得なくて捨てる人がいる、やむを得なくて燃やす人がいる、これをこのままにしておいていいのでしょうか。

市長に伺います。市長、いいメロンをつくったり、いい野菜をつくるにはこの農業プラスチック、ビニールは欠かすことができないのです。市長、野菜づくりしたことありますか。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 野菜づくりしたことあるか、それ以前の問題だとは思いますが、確かにこの地域でプラスチックを燃やして罰金取られた、そういう話も現実に聞いております。生産者のほうは、メロン、スイカ、野菜でもつくるのに大変だとは思いますが、ですけれども、そこはあくまでも法律は法律でございますので、つがる市としては啓蒙活動をして、今の協議会ですか、そっちのほうに持って行って、少しでも助成を受けていただきたいというふうに思います。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） ブランドのいいメロンつくるにはビニールかけるのは、2年使うとネットがうまく張れないのです。その2年目のものは、カボチャとか野菜とかに回すこともあるのですけれども、何とかいいものをつくらうということになると、どうしても新しいものを使わなければいけないのです。これほど捨てるのにお金がかかって生活が厳しくなった今は、やむを得なく捨てる人とか燃やす人はまだいいほうです。自分の畑の隅っこのところとか、山のほうに畳んで放置して置いているのが現状です。それをちゃんと見なければ、1年1年に処理をしなければ、2年、3年とためたら、これは大変なものなんです。

そこで、市長に伺ったのは、今1キロ5円で助成しているわけですが、何とかメロンづくりの農家の人も頑張って、それこそいいものを採りたいというふうに、これから春から、もううちのほうでは苗づくりが始まっています。ことしも去年並みのいい値段がつけばいいなという夢を持って頑張っていると思うのですけれども、でもなかなか所得向上とまではいかないわけなのです。この実態をよく踏まえていただいて、今1キロ5円の助成のところを何とか上乘せというか、お考

えできないものでしょうか、市長に伺います。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） それこそ今予算議会始まっているわけでございますけれども、予算の関係もありますし、これからその辺を検討して、もちろん協議会ですか、そっちのほうもありますので、さまざまな形で検討していきたいというふうに思います。今すぐ上げるとは、ちょっと言い切れません。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 市長の苦しい立場、よくわかります。でも、今の様子では、ちゃんと考えてくださるのだなというふうに大いに期待しています。今年度予算書ができていますけれども、メロン、スイカづくりは大体9月、10月で終わるわけなのです。補正ということもあると思いますので、今1キロ5円のところ、何とかそこを上乗せでお願いしたいと思います。

それから、ちょっとあれなのですけれども、車力のほうにできた佳成商事さん、処理費を比較すると、つがる市で5円助成している廃プラスチック協議会では、27年度では約73円なのです。前年度から比べると40円高くなっています。倍以上ですよ。それから、新しくできたという佳成商事さんでは、農業ポリについては随分安いのです、30円なのです。私は、帰ったら、持って行くには館岡の市でやっているプラスチック処理場でなくて、安い車力の佳成商事に持っていけというふうに宣伝して歩きます。だって、料金が半分以下ですもの。捨てるものが半分以下ですから、当然農家の人は飛びつきます。そうなりましたら、去年できた会社だそうですけども、ことしは180トン見込んであるそうですけれども、それがこの1つの会社に殺到するようなことがあったら大丈夫なんでしょうか、私はそれを心配するのですけれども、担当部署のほうはいかがが捉えていますか、お聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 高橋経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 今質問に出ました佳成商事さんですけども、基本的にその処理場の能力からいけば全部行っても大丈夫ということにはなっております。ただ、それこそ仕事を始めてから間がないので、そこはちょっと注意して見ていかないと、後で逆に不法投棄とか変なことになれば困るので、そこら辺はこちらのほうで把握していきたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 安い佳成商事さんですか、市のほうでもしっかりと対応していただきたいと、くれぐれもよろしくお願いします。

それから、それこそ畑の隅っこ、山の隅っこのほうにためている廃プラ、その現状もぜひ見ていただきたいと思います。見たら、ああ、こうしてはいられないというのがわかると思いますので、やっぱり現場を見なければ話になりません。農協だとか、業者だとか、法律で決められているから農家の人それぞれ対応するのだとか、そういうことではなくて、市民と一緒に頑張っていくのだと

いう点においては、環境問題、このままにしておいたら大変なことになります。ぜひ農家の人の気持ちを酌み取っていただけますように市長にも、また担当部署にもくれぐれもよろしくお願いいたしますと思います。環境問題はこれで終わります。

それから、警察署の問題ですけれども、私もせんだって東奥日報で、県の予算で8,864万、予算が盛られたという記事を読んで、ある程度知っております。我々議員にも説明があったのですけれども、私はそのときに、まずこの警察署の建物は県のものですよね。土地はどこのものでしょうか、まずそこから伺います。

○議長（佐々木慶和君） 三上財政部長。

○財政部長（三上保男君） 用地も県の用地でございます。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） いずれここは老朽化に伴って移転するということですので、建物などは解体されるのではないかなというふうに私は思うのですけれども、その解体された後、あの土地を市で譲り受けることは可能なのでしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 倉光総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 移転した後の警察署の用地、消防署の隣に来るわけなのですけれども、基本的には今の古くなった警察署は解体すると、まずもって設計の強度が足りないので解体すると。その後の更地については、市は県のほうから払い下げを受けないということで、今回までの県の予算の発表までの交渉経過です。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 私このお話を伺ったときに市の中心部になるわけですよ。またここが更地になって何も利用するようなことがなければ、本当に木造のまちはどうになってしまうのだろうかということを考えさせられます。さっき前段の議員もオリンピック関係、スポーツ関係のことを取り上げておりましたけれども、市長の答弁では宿泊施設がないとか、競技場の整備がなっていないとか、そういうご答弁でした。ずっと考えてみると、いろんな行事があってもつがる市では本当に大きな宿泊施設がないわけなのですよね。ホテルというホテルもないわけです。私は、法律的にはよくわからないので、私個人の夢というか、考えなのですけれども、あの一等地の警察署のところに、民間に不動産、固定資産税ですか、そういうものを免除するからビジネスホテルでも建てる気のある業者さんはいないとか、そういう働きかけなどをしてはどんなものなのでしょうか。市長は、当然何年か後にはこの警察署もなくなるのだ、そうしたらここに何か持ってこなければならぬのではないかと、そういうお考えはおありでしょうか、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 要するに跡地利用の問題でございますけれども、実は東京にまほろば会というつがる市出身、あるいはそれにかかわる人たちの会合がございます。行けば、「市長、うちの土

地、旧町のどこどこにあるはんで、けるはんで、そういうようなの受け取ってけねか」というような方も何人かおりました。というのは、それは、すごくありがたいのですけれども、何か目的があってそれをもらうのだったらいいのですけれども、何もなくてただもらうというわけにもいきません。

そこで、今長谷川議員が提案しているホテルでも何でもというようなことが言われておりますけれども、これもまた事業の計画、あるいはなければ、ちょっとこれもまた難しい問題が多々あると思いますので、そういうこともまたご理解していただければありがたいというふうに思います。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 市長の立場からいきましたら、こういう公な場所でなかなか口を開けないという、そういう立場は私もわかっているつもりです。でも、東京のまほろば会ですか、そういうところに行ったら、こういうところがあるのだよ、誰かつがる市に来て何か商売をしてみてもどうですかとか、そういう働きかけとか、そういう呼びかけとか、そういうのも必要ではないかなと思って、今回警察署の跡はどうするのだろうか、成人病センターの跡、祭りのときに臨時駐車場に使用して、冬、雪捨て場だけ、これいつまで続けるのかな、何とか考えがないものかな、そういう思いで伺っているわけです。

市長、ぜひブランドでトップセールスやっていますけれども、メロンだのスイカばかり売っているのではなくて、木造のこういうところ、こういう土地があるからぜひおいでになりませんかとか、そういうふうなご活躍もお願いしたいものだなと思いますけれども、いかがなものでしょうか、もう一回お願いします。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） よく私、ブランドでも東京へ行きますし、そのほかさまざまな出張で行きますけれども、それこそ誘致企業を初め、さまざまなことで県の東京事務所を通じてお話ししたり、努力はしていますので、その辺もまた、すぐ右から左とあらわれてきませんけれども、やっていることもまたご承知おきをいただきたいというふうに思います。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 何でも右から左にいいようにはいきません。その一番いい例がメロンのブランド化でしょう。それでも頑張っていれば何とかあります。ぜひ今よりも一歩進んだご活躍をお願いしたいと思います。

次に進みます。まず、弘南バスさん、相手があるわけですよ。維持管理費というか、助成金を出していると思うのですが、幾ら出していますか。

○議長（佐々木慶和君） 倉光総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 弘南バスのほうに補助は、市が単独で1,000万ちょっと、1,010万ぐらいだと思っていましたけれども、それから国の補助、県の補助、それから市の補助の分、この市の負

担分、それも1,000万ちょっとだと思っています。合わせて2,000万弱の補助金を弘南バスのほうに支出しているということでございます。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 私は、この質問、今回で2回なのです。合併前、木造町時代にも同じようなことをお願いしたことがあります。そのときは、相手もいることだからとか、それから交通量とかいろいろあったようで、全然進展がありませんでした。それから十四、五年はたっています。十四、五年前、弘南バスでは黒石の田舎のほうとか、それから今の弘前市、合併した岩木町、それから相馬のほうとか、また南部のほうでは南部バスさんが郊外の路線、下北バスさんが一部の路線、フリー区間にしているのを承知しております。まず、弘南バスさんとお話し合いはできるのでしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 倉光総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） つがる市の管内を走る弘南バスの路線が、つがる市を起点にしてつがる市で終わる路線がないと。例えば五所川原を起点にして終点が鱒ヶ沢とか、つがる市が通過する行政区域になりますので、その区間だけということは難しいと思いますけれども、弘南バスが別建てでつがる市の部分だけはフリー乗車をやるというようになれば可能だと思いますけれども、そういう交渉については弘南バスと交渉はできると思っています。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） ここ何の商売でもそうですよね、企業努力という言葉をよく聞きます。弘南バスさんの乗車を私はよく見ているのですけれども、朝晩の通学帯は何人か乗っていますけれども、日中はほとんど空っぽ、1人か2人なのです。これは、年々バス離れというのがあるような気がしてなりません。フリー区間なんですけれども、私は全路線とは言っていないのです。例えばまちの中心部のほうとか、五所川原市内のほうに入ったら交通量などがあるでしょう。だから、その区間はできないけれども、例えば私たちのあの地域、南広森路線とか、それから出来島路線というのがあります。この路線では、本当に2人か3人より乗っていないのです。この2人か3人の人がうちの近くにおりると手を挙げたら、乗せてほしいと思って手を挙げたらどんなものなのかなと思って、私はせんだってからずっと巡回してバスの後をつけて見えています。そんなに交通量もない、道路の幅もそんなに狭くない。一、二分とめる分だったら構わないのではないかな、そういうふうに思っているわけなのです。ですから、弘南バスさんとの話し合いがなければ前に進まない問題ですので、もし同じテーブルに着きましたら、その乗車数とか路線の事情というのをしっかりと把握して臨んでいただきたいと思います。

また、約2,000万の助成金ですけれども、この助成金があるから弘南バスさんも走らせていると思うのです。なければ、恐らく赤字で廃止するというのも十分考えられるわけです。だけれども、廃止になった場合は弱者の人の影響というのが大きいと思うのです。でも、それもそろそろ考える

時期に来たのではないかなと思いますが、その辺のお考え、市長、お願いします。

○議長（佐々木慶和君） 倉光総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 市長ということですがけれども、私のほうから。

まず、補助金2,000万については、議員おっしゃられるとおり日中がらがらの分、この分に補助金をつぎ込んでいると。弘南バスさんはボランティアではないので、営利企業ですので、収益が上がらなければ多分路線から撤退するということになるかと思いますが。今議員がその中で申し上げておりました、例えば越水から南広森、あるいは出来島、この路線をフリー区間にしてほしいということですがけれども、そもそもそのフリー区間については、例えば交差点の手前5メートル以内では停車できないとか冒頭申し上げましたけれども、いろいろ法律の縛りがあるので、なかなか簡単には弘南バスもフリー区間を設定するというふうには言わないと思いますけれども、別建てでさっきも申し上げましたけれども、例えば越水から出来島を経由して筒木坂まで行くとか、そういうことのこちらからの提案であれば多分テーブルにはのると思います。

あとは、採算がとれるかどうかということの判断は、当然弘南バスさんで行うべきであるし、うちのほうではその採算のとれない部分に幾ら補助をするということになるかと思いますが。となれば、既存の路線に支出している補助金2,000万については、そこからも撤退してもらって路線も出てくるかもわからないということになると思います。でも、市民の足を確保するのが行政の義務でございますので、弘南バスに頼るのか、それとも弘南バスのフリー区間ではなくて、自前でコミュニティーバスであるとかそういうことの検討に入るということは、総合戦略の中でも30年度までには検討していくというふうな計画になってございますので、十四、五年前から議論になっていることとございますけれども、そろそろ結論を求めて検討に入っていく時期に来ているというふうに考えてございます。

○議長（佐々木慶和君） 長谷川議員。

○4番（長谷川榮子君） 私は、今弘南バスさんが走っているから、この弘南バスさんの経営のほうにもプラスになるでしょう。また、住民、使っている利用者の人も助かるでしょう。そういう思いでこういうことを言っているわけなのですからけれども、そうですね、本当に利用する、人口が減っていくのですから今よりはよくなるわけがないですね。本当に真剣に考えなければならぬ時期が来たと思っています。幸いに診療所のバスが市内を巡回しているわけで、これをうまく利用すれば、もっともっと路線がない地域もあるわけで、でも診療所のバスは市内をくまなく運行しているわけで、ただ日曜日が休み、祝日が休みというのがあれなのですからけれども、そこを何とか利用できないものか。それには陸運局のいろいろな法律が絡んでくるでしょうけれども、でももう何だかんだ言っている時期ではないですね。その時期が来たと思いますので、総務部長、ぜひ市民の利便性のことを考えて、いい結果が報告できるように期待しております。よろしくをお願いします。

それから、環境問題、もう一度お願いします。よろしくをお願いします。市長、お願いします。答

弁はいいです。市長の姿勢では、きっといいほうに考えてくれると私はとりましたので、よろしく
お願いします。

終わります。ありがとうございました。

○議長（佐々木慶和君） 以上で長谷川榮子議員の質問を終わります。

◇ 佐 藤 孝 志 君

○議長（佐々木慶和君） 第3席、7番、佐藤孝志議員の質問を許します。

佐藤議員。

〔7番 佐藤孝志君登壇〕

○7番（佐藤孝志君） 改めまして、おはようございます。第3席を賜りました佐藤でございます。
通告に従いましてお尋ねをいたします。

まず最初に、生活困窮者自立支援制度についてであります。この事業については今年の4月か
らスタートされ、この3月で丸1年になりますが、この制度については以前も質問させていただきました。
その支援内容については、住居の確保、就労、一時生活支援、家計相談支援などなどいろ
いろあったように記憶をいたしております。そこで、実施している事業の概要についてをお伺い
いたします。

次に、2点目として人口減少対策についてお伺いをいたします。このことについては、これまで
何度も取り上げられてきました。しかし、これとって具体的な策、確かに子供の医療費の無料化
は実施してきましたが、これ以外は特に何を講ずることもなく時が過ぎ、急速な人口減少の一途を
たどってきたようにしか感じられません。私だけでしょうか、議員の皆さんはいかがお感じでしょ
うか。近いところでは、前回、12月議会で同じ芳政会の成田議員が人口減少克服の鍵と題して、出
生率の向上を目指すには、詳細については省きますが、経済的負担の軽減を求め、施策実現のため
の提案をされました。たしか市長と総務部長がそれぞれの立場で答弁をされていましたが、市長は
その対策については、まち・ひと・しごと創生法に基づき、本市の課題に対する4つの基本目標、
これについても時間の関係がありますので中身については省きます、総合戦略の策定中で、どれも
重要な課題でありますので、4つの基本目標を連携して結果を出すことで人口減少に歯どめをかけ
る旨の指示を担当部に出したとの説明でありました。確かにまち・ひと・しごと創生、つがる市の
人口ビジョン並びにつがる市地域活力創生総合戦略の素案もでき、基本目標も決まり、そして昨年
の12月9日に説明をいただきました。また、今回この質問に立つに当たって目を通してきましたが、
それぞれの重要な課題、その目標をかなえるべく、具体的な施策が私には見えてきません。本当に
これで人口減少に歯どめがかかるのかをお伺いいたします。

次、3つ目としてつがる市過疎対策事業債の執行実績についてお伺いします。この件の計画は、
時期は平成22年4月1日から平成28年3月31日までですので今月いっぱいあるわけですが、説明を

受けたときは平成22年12月でありました。そのとき事業計画の概要について、事業数102事業、事業費は215億9,170万6,000円、うち過疎債充当予定事業数62事業並びに過疎債充当予定額149億3,585万円との説明でありました。事業の数、予定額も非常に大きかったことから、具体的に事業の内容、それぞれの事業予算について説明を求めましたが、数字がひとり歩きし、後の計画に支障を来してはということで、詳細については説明をいただけませんでしたので、その執行実績についてこのたびお伺いをしたいと思います。

また、農業振興基金並びに自治組織活動助成事業基金ほか新しい過疎債充当予定事業、それに伴う予算額については質問事項が多いので、2回目以降の質問でお伺いしたいと思いますので、これで1回目の質問を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 佐藤議員の質問にお答えしたいと思います。

人口減少対策の増子化への取り組みについてでございますけれども、増子化につきましては、総合戦略にそれこそ掲げる、希望する結婚、出産、子育てをかなえる、就労、雇用の場の創出及び若者の定住、移住を促進するという取り組みかというふうに思います。

まず、お子さんを出産する前の結婚につきましては、結婚を希望する方を対象といたしまして婚活支援事業を実施いたします。

それから次に、出産、子育てにつきましては、医療費の無料化などかなり手厚い内容で従前から行っておりますことから、これをまた継続、充実してまいりたいというふうに思います。

そして、就労、雇用及び若者の定住、移住ですが、魅力ある農業の推進による就農や、企業誘致による雇用拡大などにより転出抑制を図るほか、子育て世代の若者夫婦の移住を促進してまいります。

人口減少につきましては、さまざまな要因が複合的に起こっていると思います。これらの問題に一体的に取り組むこととしてございます。

あとは、担当のほうから答弁させます。

○議長（佐々木慶和君） 境福祉部長。

○福祉部長（境 宏君） 私のほうからは、佐藤議員の1点目、生活困窮者自立支援制度の自立支援制度の実施事業についてでお答えさせていただきます。

この事業は、生活困窮者が早い段階で自立した生活に戻れるよう、専門性を有する支援員が相談を受け、生活困窮者が抱えるさまざまな問題に対応した支援を行うことを目的として事業を実施しなければならないところであります。つがる市では、つがる市社会福祉協議会に委託しております。社協さんのほうでいろんなネットワーク、あるいは専門性を有する職員がおりますので委託してご

ございます。名称は、つがる市生活相談支援センターとして事業を展開しております。

その内容でございますが、1点目が生活困窮者の相談に応じてアセスメントを実施して個々の状態に合ったプランを作成し、必要な支援の提供をつなげること、2点目がハローワークなどへ同行いたしまして就労支援員による就労支援を行うこと、3点目が関係機関とのネットワークづくりと地域に不足する社会資源の開発に取り組むこと、以上3点でございます。

また、住宅確保給付金というものがございます。これは、離職後2年以内で、かつ65歳未満の方で働く意欲、能力のある方に対して実施しております家賃相当額、この地域では月額3万1,000円なのですが、これを支給して支援するというのも実施してございます。これら制度の周知を図るために、つがる市とつがる市生活相談支援センターでは市の広報に随時掲載し、またチラシなどを配布いたしましてPRしているところでございます。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 三上財政部長。

○財政部長（三上保男君） それでは、佐藤議員の3つ目のご質問でございます、つがる市過疎対策事業債についてということですが、実績ということですが、

先ほどご質問の内容にもございました平成22年12月に策定されましたつがる市の過疎地域自立促進計画書、平成22年から平成27年度までの6カ年ということになってございます。その中で、事業数は102事業ということでご説明しておるということでございます。その後、国の制度改正、それから事業の見直し、あるいは精査等によりまして29の事業を追加してございます。計画全体の事業数が131事業となっております。事業費につきましては、追加事業分を含めまして事業全体の計画額が約253億2,300万円となっております。当初の計画より38億300万円ほど増となっている見込みです。

それと、事業費の実績、27年度はまだ見込みとなりますので見込みとしてお答えいたしますが、約231億9,600万円を見込んでおります。そのうち過疎債の充当事業費、実績の見込み額は約129億4,500万円を見込んでいるものであります。事業の数で57事業となっております。過疎債の充当の額です。これは、約93億6,400万円を見込んでいるものです。

以上が今までの計画の実績見込みであります。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） 2回目の質問に入らせていただきます。

生活困窮者自立支援制度についてであります。ただいま事業の概要について説明をいただきました。それぞれ事業3つぐらいあったのですが、それぞれ何件ぐらい相談件数あったのかお伺いしたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 境福祉部長。

○福祉部長（境 宏君） この事業、昨年4月から実施してございまして、28年1月末までの数字でございます。相談件数が50件ございました。それらにつきまして、ここの支援プランを作成し

たものは2件でございます。そのうち就労者、仕事につかれた方、あるいは収入がふえて困窮者でないというふうになった方は、残念ながら今のところございません。

以上の件数でございますが、就職につきましてはこの五所川原管内、非常に求人倍率が低いといったことで、県内で最下位でございます。また、全国的にもかなり低いといったことで、なかなか地元においては計画的な採用ができないといった状況になってございます。ただ、今後は地元の企業、あるいは団体の協力が不可欠と判断されますので、関係機関と意見を交換して地域の実情に合った効果的な実施方法を検討してまいりたいと思っております。

また、住宅確保給付金でございますが、これは昨年度はございませんでした。今後も市役所の関係部局、また地域のネットワークを構築して努力してまいりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） はい、ありがとうございます。新規相談者は50名ということで、よそよりも多かったとのことでありますけれども、新規就労支援対策者2名、これについては就職にはつながらなかったということですが、この50件の相談のうち生活保護へ移行された方、何人かあるのでしょうか、あったらお願いしたいと思っております。

○議長（佐々木慶和君） 境福祉部長。

○福祉部長（境 宏君） この50件の中でいろいろ相談する中で、仕事もない、あるいは援助も得られないといったことで、生活保護の申請をされた方11件ございます。その中で8件は生活保護の受給に至っております。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） ありがとうございます。50件のうち11件、その中で8件の方が生活保護に移ったということなのですが、そうすると今後の見通しとしては相談件数に比例して生活保護受給者がまた出てくるということも感じるわけですが、部局としてはいかがお考えかお聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 境福祉部長。

○福祉部長（境 宏君） これは、いろんなケースがあると思います。生活困窮者の方々、いろんな制度を知らないということもありますし、そういったことに対しては指導はしていきます。そしてまた、就労支援ということでもサポートはしてまいりますけれども、こういった状況でございますので、その中で何件かは生活保護を受けられるという方が出るというのは認識しております。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） はい、よくわかりました。就労支援については、地元の企業、団体との協力体制が必要だということでありました。できるだけ早くその連携の構築を充実させて支援の確立を図っていただきたいと思う。

それと、またこの事業については非常にデリケートな事業で、市民のプライバシーにも大きくか

かわる事業なので、委託されている社会福祉協議会との連携を密にして、心のこもった手厚い支援を期待し、この事案についてはこれで質問を終わります。

次、人口減少対策の増子化への取り組みについて、先ほど市長のほうから基本目標の4つの重要課題の中の3つについて説明をいただいたかと思っています。魅力ある就労、雇用の場の創出、それからここに住みたいと思えるまちづくり、それから希望する結婚、出産、子育てをかなえ、地域全体で子供を育むと、この3つの課題、本当に重要と考えているのであれば、私は何々に何を支援する、あるいは補助をする、または何々について無料化をすると、もっともっと具体的に施策を担保する大胆な取り組みが必要ではないかなと。今の状況では人口減少対策もさることながら、少子化ならぬ増子化への取り組みにはただいまの説明ではつながらないのではないかなと私は考えますが、いま一度市長のお考えをお聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 先ほど市長のほうが増子化の取り組みについてアウトラインで申し上げてございます。議員がおっしゃるとおり、ではそれを、事細かい事業は何をやるのかということだと思いますけれども、まず増子化、少子化の減少をとめるには婚活の支援事業を行うということでございます。28年度から新たな事業で年2回以上開催するというようにしてございます。

それから、新規事業ではないのですけれども、ブランドのさらなる促進化、それから6次産業の促進化、新規事業でインターネット販売の支援をするという事業も考えてございます。

それから、子育て世帯、若者夫婦の移住の促進について、これも補助をするという考えでございます。定住する意思があって、つがる市の民間賃貸住宅に転入する子育て世帯、あるいは若者夫婦に対して家賃の補助を行うということでございます。

その他新規の事業としては、そのほかにも平成28年度で19の事業を見込んでございます。うち交付金は、残念ながら国のほうでは認めてくれない事業もあるので、市の財源でもって総合戦略の事業を行うということにしてございます。28年度でやる19の新規の事業については、今提案してございます平成28年度の一般会計の当初予算のほうに、担当する各部局の予算科目に張りつけているということでございます。少子化をとめるための施策でございますけれども、この事業にかかわらず、総合戦略では4つの柱掲げてございますけれども、それら全てを関係づけて、向こう5年間、数値を検証しながら取り組んでいくということにしてございます。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） 今婚活やら企業の誘致やらというものがいろいろ出てきたのですが、先ほど市長の説明の中の就農や、誘致企業による雇用拡大、転出の抑制を図るの件と、今部長の説明の中で市内民間賃貸住宅に転入した若い夫婦への家賃の補助、この補助の方法と額、例えば1カ月何ば、何年とかをお聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 詳しい補助のいわゆる事業内容でございますけれども、まず子育て、若年夫婦の世帯移住応援事業として実質家賃の2分の1、半分を補助するというところでございます。ただし、上限額が子育て世帯にあって3万円、若年夫婦世帯にあっては1万5,000円ということです。では、いつまで補助するのということですが、最長60カ月、5年ということです。開所の時期は4月、または10月ということでございます。

その次の移住者マイホーム支援事業、これについては住宅取得費用の5%を補助しますということでございます。ただし、上限額を設けてございます。移住世帯30万円、家賃補助を受けている世帯が新しくマイホームを持つということになれば20万円、家賃補助受給世帯であれば20万円ということでございます。それから、補助金の加算も考えてございます、今の事業で。

移住者関係については、この2点でございます。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） 今の説明で、いろいろ手だてされる事業が出てきているなど、そういうふうに感じました。誘致企業ならぬ、前回の事例もありますのであれですけれども、家賃の補助に対しては大変結構な取り組みだと、そのように思います。この辺については、答弁は要りません。

それでは、ここで増子化の言葉の由来について、皆さんもご承知かと思いますが、この言葉は元維新の党の重徳和彦衆議院議員の言葉で、物の考え方です。少子化対策という言葉は守りの姿勢なので、そういう考え方なので、攻めの姿勢、いわゆる増子化という言葉を広めたいということでありました。私は、この言葉に大変感銘をいたしました。そこで、きょう勝手に拝借をさせていただきましたけれども、人口減少対策の中の増子化対策に特化して、その取り組みについて市として真剣にもっと取り組んでもらいたいなど、そのように思っていますので、私から具体的な施策を3つほど提案させていただきたいと思います。1つ、出産祝金100万円を中学校、または高校卒業までの間に分割して支給、この際商品券を組み入れて支給してはどうかと。2つ、小中高生の入学祝金の支給、額については今考えてございませぬけれども、その場合も商品券を組み入れて考える。それと、3つ目、学校給食の無料を実施してほしい旨の提案をさせていただきます。

今の提案に対して、北海道福島町の取り組みの事例を皆さんにも聞いていただきたいなと思いますので、紹介をさせていただきます。北海道福島町少子化対策の例なのですが、福島町は人口が4,514人、つがる市の3万四千幾らに比べると非常に小さくて、つがる市の13.13%にしか値しない小さな町であります。支援の内容につきましては保育料、幼稚園の費用、学童保育、学校給食について、ことしの4月から全て無料。さらに、医療費については平成24年4月から高校生まで無料。開始した時期は、多分当市と同じかと思いますが、この枠組みが当市よりも大きいわけでありまして、児童数、それから園児、生徒の数について申し上げますと、当市の大体10分の1ぐらいにしか値しません。参考までに言いますけれども、保育園児童、福島町37、つがる市は803人、幼稚園児11人に対してつがる市が61人、小学児童135人に対してつがる市が1,493人、中学生99人に対してつがる市

が899人、高校生72人に対して297人、合わせて福島町が354人、つがる市が3,553人、人口比率でいきますと福島町は全体の8.4、それからつがる市が10.33になるかと思います。そういうことでは、児童の数は0.2ぐらいつがる市が多いわけでありますけれども、次に出産祝金についてであります、これは平成24年4月から開始して今度5年目になるそうです。この祝金の内容、出生数についてちょっと報告したいと思います。第1子5万円、一時金、それから第2子20万円、これも一時金、第3子100万円、1年目が50万円、2年目が30万円、3年目が20万円の3年分割で支給し、うち市内の商品券での支給が30%を含む、そういうことになっております。

また、出生数については、ことしで5年目になるそうですが、データとしては24年、25年、26年の3年分しかございませんので、これも参考に紹介します。第1子5万円の交付を受けた子、24年3人、25年6人、26年6人、3年で合わせて15人。第2子20万円の交付を受けた子供、24年6人、25年5人、26年6人、合わせて17人。第3子100万円の交付を受けた子供、24年、初年度が2人、25年5人、26年5人、合計の17人、3年で生まれた子供の数が44人というふうな調査結果でありました。福島町の役場の担当の話で、出生数については開始してから3年目のデータなので、細部にわたってはまだ分析されていないということで、その数字については定かではない。それをやったからこれくらい生まれたとかというデータではないということでありました。しかし、その取り組みは大胆かつ積極的な姿勢に本当に感動しました。また、3年で第3子の10人の子供が誕生したことは施策の成果だと私は考えますが、市長ほかこの会場にいる皆さんはいかがお感じになられたでしょうか。

以上、福島町の取り組みを紹介しました。あわせて答弁をお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 北海道の福島町の事例を示していただきましたけれども、出産祝金については当市も以前はあったのですけれども、それはいわゆる中学校までの医療費無料化に財源を振りかえるということで廃止しました。そういう経緯がございます。

今このデータを見まして、当市の総合戦略も5年の計画でございますけれども、その後もずっと続いていくのですけれども、成果指標が決定されておりますので、その成果指標に合わないものは、あるいは切り捨て、新しい事業を張りつけるというような計画のローリングも可能となっている計画ですので、この辺については例えば学校給食の無料化、これは行ってございませんけれども、これが有効だということになれば新たに事業として組み込んでいくということも可能かと考えてございます。保育料無料、学童保育料無料、給食費無料ということで、なかなか人口が少ないからできるというようなものでもないと考えてございます。人口が少なくても、いわゆる予算規模に対する率でいくと同じ率になるのだらうというふうに考えれば、先進事例は十分に検討して、参考にできるものは参考にするように検討していく必要があるのだらうというふうに感じました。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） いろいろ今部長のほうからいただいたのですけれども、確かに前にあった祝金、医療費と相殺してなくなったのですが、最近は結構どこでもやっていますよね、これについては。ですので、この辺で思い切って周りでやっていないような施策を講じるのも一つの手ではないのかなと、このように思っています。

それと、今話していました人口が少ないからできる、多いからできないではなくて、初めから自治体の規模によって予算規模は決まっているわけですから、それをやるところはそれなりに努力しているのだろう、そのように思っていますので、ぜひつがる市でも頑張ってくださいなど。少子化対策、いわゆる守りの姿勢のまま、大分前に新聞に載っていましたけれども、日本創成会議の公表ならぬつがる市の将来、消滅する市に入っていたということが非常に衝撃だったわけですが、そうならないためにも何らかの対策を講じてほしいなというふうに思っています、この質問をこれで終わります。

次に、過疎対策事業債の執行実績についてでありますけれども、2回目の質問に入ります。先ほどの説明から分析すると、事業全体の計画費、事業費実績から見ると91.6%の執行です。また、過疎債事業では充当事業数57事業、事業費実績額が129億4,500万円に対して93億6,400万の実績額なので、先ほどの報告では72.3%の執行率になるかと思えます。途中事業の追加など変更もあったようですが、事業費実績の91.6%に対して過疎債充当事業、執行率72.3%、少し低いように思うのですが、この差は何かそこに理由があるのかどうか、いま一度お伺いをしたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 財政部長。

○財政部長（三上保男君） 先ほどご説明申し上げた中で、過疎対象事業費、実績で129億4,500万、過疎債が93億と。執行率でいきますと、過疎債の72.3%というのは過疎債の事業費に対する充当割合ということになります。過疎対象事業費に対しての過疎債の充当率が72.3%となるわけですが、その開きの内容と申しますか、それは国庫補助金、これが約26億ですが、20.5%ほど、県の補助金が1億3,000万ほどで1%と、そのほかに過疎債以外の起債も使っております。合併特例債とか、そういうものも充当してございますので、事業費と過疎債の開きはございます。

また、実績に対して過疎債充当額が少ないのは、実際やられていない事業もございまして。過疎の事業の中で、例えば体育館とか、それから縄文ミュージアムとか、そういうものがやられていないものがございまして、実績率は低くなってございます。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） ありがとうございます。別の起債だとか補助だとかいろいろあって、そこに20%近くの開きがあるということなのですか。はい、よくわかりました。

それでは、農業振興基金について、この事業につきましては農業機械、施設の整備、または地力

回復に要する経費の一部を補助し、農業の振興を図る目的で、それぞれ400万円、年間800万円の5年間で4,000万を基金に積み上げて実施された事業であったと記憶しています。その結果についてお伺いをいたします。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 農業振興基金の実績についてというお尋ねでございます。

23年度、土づくり事業に対して55件の金額が229万1,000円、それから機械施設導入事業、これが5件で243万円、計で472万1,000円。

それから、平成24年度、土づくりが74件で322万7,000円、機械施設導入が8件で874万7,000円、計で719万1,000円。

それから、25年、土づくりが79件で311万5,000円、機械施設等が8件で374万7,000円、計で686万2,000円。

それから、平成26年、土づくりが88件、399万6,000円で、機械施設が9件、381万4,000円、計で781万円。

それから、27年、中途というよりほとんど終わっていますので、土づくりが86件で金額で400万、それから機械施設が11件で375万6,000円、計で775万6,000円。

先ほど佐藤議員がおっしゃいましたように4,000万を5年間で一応事業化しております。今現在597万3,000円、これが残として残っています。28年度の当初をごらんいただければわかりますが、土づくりにこしは350万、機械施設等に250万ということで予算計上しているところです。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） ありがとうございます。そうすると、今残金についてお話あったのですが、この残金を利用して28年度は計画をします。たしか先回、今のは4,000万と、自治会の関係のものも後で出てきますけれども、基金に積み上げて、そしてスタートしたかと思っていましてけれども、ちょっと順序逆になる話になるのですが、そうすると今度は基金には積み上げないで、その都度事業に予算を張りつけるというか、そういう感じではないですか。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 確かに基金に積み立てております。規則で5年間というやつを定めました、5年間で利用するというので。ただ、これを変更して1年延長すると、残を全部使い切るということで今現在当初予算に計上しております。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） わかりました。それで、400万円、400万円の年間800万円出てきたのが、今度は350万の土づくりと機械関係が250万、もしこれ以上の申し込みというか、申請が出てくれば、どこかで補正して上限400万ぐらいまでの配慮をするものなのか、そこのところを1つ。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） とりあえず28年度で事業は終了します。ただ、こういう事業、年々利用率が高くなるというか、非常に好評でありますので、28年度において一応いろいろ検討して、再度もっと新しい事業を入れるとかというのを検討しながら、29年に向けて考えていきたいと思っていました。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） ありがとうございます。それでは、農業振興基金については終わります。

次に、自治会組織活動助成事業基金についてお伺いをいたします。この事業については、市内132自治体に対して上限50万円の備品購入費事業として6,600万、ほか森田地区自治会と旧木造地区自治会、合わせて27団体と当時は伺っていました。集会施設の改修事業として上限330万、予算額8,910万円、合わせて1億5,100万の基金を積み上げてこの事業が給付されたと思っておりますが、その執行状況についてお伺いをいたします。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） この助成事業の基金についての執行状況でございます。この基金は、今議員申し上げましたとおり市内の自治組織の活動に必要な備品であるとか、集会施設の改修に使う経費の一部に助成すると、補助するということでございます。基金は、平成22年度に1億5,600万、全額過疎債を使って基金の造成をしております。今まで市内の自治会は132団体ございまして、これまでの実績として限度額50万の備品購入の事業については、平成23年度から現在まで118自治会、5,804万円補助してございます。集会施設のトイレ水洗化事業、これにつきましては15の自治会に対して3,804万円、この助成をしております。平成26年度から実施した駐車場の舗装事業、これにも助成してございますけれども、11の自治会に対して2,007万円、この助成してございます。それから、施設改修の事業については22の自治会に対して2,003万7,000円の補助をしております。合わせて今まで延べ166件、額にして1億3,715万円を助成、執行してございます。ちなみに基金の残高は、平成27年度末で1,981万2,304円の見込みとなります。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） ありがとうございます。

それで、もう一つ伺いたいのですが、水洗の関係は15、それから改修の関係は22とかと今数字出てきたのですが、その中でもこの5年間の間に何らかの事情でやれなかった自治会もあったのではないかと思います。それで、最新の経過はわかったのですが、この後またお願いすればできるのか、そこを1つお伺いしたい。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） この助成事業ですけれども、前段の農業振興基金、このどちらの基金の

助成についても、いわゆる予算の範囲内ということでの助成する補助金の性格でございます。当初予算で、例えば何件分を見て総額何千万という、この範囲内で補助をします。後ろに基金が幾らあっても、申請したやつを全部兼ねるということにはならない。それは、あくまでも順番を守ってもらって、次年度以降ですよ、あるいはこの次の年ですよと、そういうような申請に対してはこちらも協議をしているという状況です。備品の購入の補助ですとか、そういうのは2度は使えないと、1度限りと。当然トイレの改修も2度は使えないので1度ということ、1度使っているから却下ということに対しては、あと幾ら再度申請してもそれはかなえられませんが、その額の中での調整にあったものについては、次年度以降また申請していただければ考慮するということがございます。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） わかりました。でも、できるということでのいいのですね。

この件について最後の質問になります。今回対象になっていなかった柏、稲垣、車力、そして旧木造地区でない、木造地区の旧と木造わからないので、こういう言葉使いますけれども、旧木造地区でない木造地区のこの種の改修事業の今後の予定はあるのか。森田、旧木造以外の。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 今手元にある資料では、木造地区以外の団体で申請すれば使えるという団体は、森田、柏合わせて4自治会が該当するだろうというふうに考えてございます。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） わかりました。

それでは最後、時間もあつたし、後ろももう少しざわめいてきましたので終わりたいと思いますが、新しい過疎債対策事業、たしか資料では94事業予定されておりましたので、その事業総額、その総額の中の過疎債充当事業件数並びに金額。それと、さっき総務部長が話していましたが、これまでは基金にあらかじめ増設してきましたけれども、この新しい計画ではそうなるのかならないのか、その都度やるのか、この3点について1回でお願いしたいと思います。

これで終わりたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 財政部長。

○財政部長（三上保男君） それでは、まず新たな過疎計画に掲載されている事業数、事業費ということ。

まず、事業の全件数は、今おっしゃいました94件、そのうち過疎債の充当事業数は85件となっております。計画全体の事業費につきましては約198億9,352万です。このうち過疎債充当事業費、これは190億8,532万円です。それから、これに対する過疎債の充当事業額、これが141億6,420万円、先ほどパーセントでいきますと74.2%が過疎債ということになっています。

また、この過疎の計画にあるものについては、各課から今後実施する可能性がある施策、事業、全て登載しているものでありまして、旧計画と同様にまずは市の財政状況を考慮し、今後の国の政策、それから社会情勢の変化に伴いまして事業の見直し、内容の精査等が見込まれます。それにつきましては、今回の計画の内容につきましては、計画期間内に必ずまた全部実施すると担保されているということではないので、この辺はご理解をいただきたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 私のほうからは、基金造成事業でやる助成事業、引き続きやるのかというご質問ですけれども、今計画の中では国が過疎計画の中で事業として認めていただければ継続するというような実施計画になってございます。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 佐藤議員。

○7番（佐藤孝志君） これで終わります。

○議長（佐々木慶和君） 以上で佐藤孝志議員の質問を終わります。

ここで昼食のため休憩します。

休憩 午前 11時56分

再開 午後 1時00分

○議長（佐々木慶和君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

◇ 伊 藤 良 二 君

○議長（佐々木慶和君） 第4席、17番、伊藤良二議員の質問を許します。

伊藤良二議員。

〔17番 伊藤良二君登壇〕

○17番（伊藤良二君） 第4席の伊藤でございます。質問に入らせていただきます。

まず、1問目、第2次つがる市総合計画案について伺いたいと思います。この案によりますと、つがる市の10年後の人口予想はどのぐらいになっているのか伺いたいと思います。

2番目に10年後のつがる市の財政規模、状況、目標はどの辺に置いているのか伺いたいと思います。

2問目につがる市の文化財保存についてお伺いいたします。旧木造中央公民館講堂、この保存計画はどうなっているのか伺いたいと思います。

3問目につがる市立図書館設置について伺いたいと思います。つがる市立図書館について、昨年6月にイオンより提案があり、9月議会で質疑し、そして年末の12月議会において福島市長は、イオンモールつがる柏店につがる市として来年度中、つまり28年度中ごろの開館を目指し、図書館を

設置する方向で進めるという大英断を宣言したわけですが、この市立図書館について非常に短い期間で設置するというので、その準備状況についてまず質問したいと思います。

まず、基本構想はどういう図書館をつくらうとしているのか伺いたいと思います。

次に、スケジュールはどうなっているのか。いつ、何月何日ごろオープンする予定なのか、はっきりしたところを伺いたいと思います。

次に、管理運営は誰がどこでやるのか。最初のイオンの提案であれば指定管理ということでしたが、今議会で準備の都合上、指定管理の提案を今議会中にやる予定でないのかということを知りたいと思いますが、そういうところも含めて伺いたいと思います。

それから次に、館長は誰がやるのか、市から出すのか、管理の責任、会社のほうでやるのか伺いたいと思います。

それから、図書館サービスの内容でございますけれども、これは大変業者にとっては大事なサービスでございますので、開館時間、休館日、蔵書数はどういうことになっているのか伺いたいと思います。

また、これまでの各地区にある図書コーナー、公民館などにある図書コーナーはどうなるのか。できれば分室として残す予定なのかどうか伺いたいと思います。

以上、1回目の質問を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 伊藤議員の質問にお答えいたします。

第1点目の10年後のつがる市の人口の予想という質問でございますけれども、このたび策定いたしました第2次つがる市総合計画案で示してございます本市における10年後の将来推計人口につきましては、先般策定が完了いたしましたつがる市人口ビジョンの人口推計シミュレーションの結果を踏まえ、目指すべき将来の方向性に即した取り組みを推進することにより、平成37年、2025年の人口推計を3万2,300人程度と見込んでいただいております。

つがる市人口ビジョンにおきまして目指すべき将来の方向性として示した内容は、希望する結婚、出産、子育てをかなえる、2つ目としては本市への人の流れをつくる、3番目には人口減少における地域への影響に対応するであります。この3つの方向性に基きまして、本市の現状や課題を踏まえ施策を展開していくため、つがる市地域活力創生総合戦略、これを策定したところでございます。今後総合戦略を基本に人口の減少対策を講じることで、将来の展望は平成72年、2060年に2万6,000人の維持を目指し、将来的には2万5,000人程度での安定を目指したいというふうに考えております。

そしてまた、2番目の10年後の財政規模についてでありますけれども、市の財政運営計画は平成25年

度から29年度までの5カ年計画となっております。この先の財政状況につきましては、適正な財政秩序を維持しながら予測してございます。10年後の財政規模につきましては、平成31年度までは約200億円の予算規模で推移し、以降は地方交付税の合併算定がえが平成31年度で終了することから、約185億円程度と予想されます。また、つがる市は財政力指数が0.23、10市の中で最も低い指数となっており、依存財源である地方交付税、あるいはまた国、県の補助金、地方債に頼らなければならない脆弱な財政構造となっております。

このことから、今後公共施設などの建設を進めていくためには財政調整基金や減債基金の繰り入れによる財源調整が必要と考えられるわけであります。このためにも景気の動向による税収や地方交付税の変動に対処すべく現状の基金を維持しまして、起債の残高を減らし、効率的な財政運営に努めていかなければならないというふうに考えております。

ほかの質問は、担当部署から答弁をさせます。

○議長（佐々木慶和君） 教育長。

○教育長（葛西嶮輔君） 文化財保存について、旧木造中央公民館講堂の保存計画はどうなっているのかということについてお答えします。

旧木造中央公民館講堂は、つがる市の指定文化財にまずなっております。文化財として必要な要件は3点あるかと思えます。まず1点は、文化財としての価値があるかないか、2点目は文化財として適切な保存、管理がなされているかどうか、3点目としては文化財としての適切な活用でございます。この3点を踏まえて、平成28年度、29年度の2カ年で解体、復元し、保存していく計画としております。しかし、場所については議員全員協議会のご意見等を踏まえて再検討したいと、このように思っております。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 三上教育部長。

○教育委員会部長（三上みつる君） 私のほうからは、市立図書館についてお答えいたします。

まず、基本構想についてですが、基本構想につきましては図書館設置委員会において策定しております。基本構想において図書館の基本理念は、全ての市民の知的自由を確保し、文化的かつ民主的な地方自治の発展を促すため、自由で公平な資料と情報を提供する生涯学習の拠点であると位置づけております。

整備する場合の基本方針として、まずソフト整備では3つの柱を設けております。第1の柱としまして、仕事と暮らしに役立つ図書館、第2の柱といたしまして人の成長、学びを支える図書館、第3の柱といたしまして文化を育む図書館です。ハード整備では、使う人に優しい安らぎのある図書館を目指しております。これが基本構想の概要であります。

次に、スケジュールですが、今月末までに内装工事、書籍、備品等の発注ができることを前提とした場合、内装工事を5月末まで、その後書籍等備品の納入を6月中旬から下旬、書籍の配架作業

を7月までと予定しており、よって7月末の開館に向けて今努力しております。

次に、運営ですが、運営方針といたしましては幼児から……

〔「もう少しゆっくり」と言う人あり〕

○教育委員会部長（三上みつる君） では、もうちょっとゆっくり、はい。

運営方針といたしましては、幼児から高校生が本に親しむ場の提供、子育て世代の情報収集と交流の支援、地域の歴史、文化、風土、産業等の再確認と発信、成人や高齢者のサードスペース、第3の居場所ということでございます。それから、課題に向けた総合的で広範囲な情報提供であります。特に郷土資料の充実、農家支援、小中学生の学力向上に力を入れていきたいと思っております。

次に、運営体制としては指定管理といたします。館長は、市のほうから派遣いたします。指定管理の選定委員会を今行っておりますので、決まり次第、間に合えば今定例会の最終日に提案する予定でございます。

それから、サービスについてでございますが、開館時間は午前10時から午後7時までを予定しております。開館日は、年348日、休館日としては月に1回と年末年始蔵書点検で年5日を見込んでおります。そのほかにブックポスト、つまり返却する場合に24時間どこでも返却ができるようにブックポストを設けております。それから、自動貸し出し、自動返却機を設置いたします。パソコンですが、パソコンは端末を操作する音が出るため、今はタブレットで準備しております。それから、蔵書数ですが、約8万冊。当初は1冊2,000円で10万冊を予定していたのですが、ちょっと1冊2,500円ほどかかってしまうために8万冊になる見込みでございます。それから、新聞については5紙、雑誌については40誌を予定しております。それから、貸し出しの冊数なのですが、個人の場合は1回に5冊で15日以内、それから団体の場合ですと1回500冊で2カ月以内としております。

これまでの図書コーナーはどうなるのかという質問でございますが、公民館、松の館の図書コーナーは、これまでと同様でございます。また、公民館、松の館からでも図書館からの本の借り入れ、返却ができるような仕組みを構築していきたいと考えております。また、図書館から公民館、松の館のほうに本の配本も考えてございます。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 伊藤議員。

○17番（伊藤良二君） この第2次つがる市総合計画案でございますけれども、それに沿って説明いただきましたけれども、10年後の人口でございますけれども、3万2,000人というのはちょっと甘い見方でないかなというような私は気がします。これ、その前の10年前の第1次のつがる総合計画ですけれども、今現在3万四千何百という人口になっています。このときは3万六千何百残るだろうという読みをしていたのですけれども、超高齢化、少子化で人口の減がすさまじい状況でございます。そして、市長、財政について、これからはだんだん歳入が減っていった人口が減ることにより200億円から百八十何億に財政規模は減っていくのだと。しかし、今議会では当初予算239億、約240億と

いう今までにないぐらいの大きい財政規模でございます。私から見ると、これ3年続ければ大変な財政状況になるのですけれども、多分これはことしだけの特別多くなった事情があつての財政だと思ひますけれども、私、簡単に財政部長に、これだけ人口が厳しくなつていて歳入が厳しくなつていくのが目に見えていますので、いかにして公債、借金の比率を下げ、健全財政を維持し、またいろいろな変化に対応できるように財政調整基金をいかに積み上げるかというのがこれから大変な課題になると思ひますので、そういうのを少し簡単に手短かに財政部長からお伺ひしたいと思ひます。

次に、これだけ人口が減つてくると、前段でいろいろ商店街の話とかバスのことありましたけれども、私は総務部長にそろそろつがる市も、簡単に言えば五所川原みたいにエルムから駅に向けて主要な建物、施設、ショッピングセンターなどを回る巡回バス、市内を巡回する巡回バスをそろそろ市でも真剣に考えないと、買い物弱者といひますか、難民といひますか、不便な方がふえてくると思ひます。多分つがる市は、10年後は高齢化率四十五、六幾らになつていますけれども、多分私は、10年後は団塊の世代が完全に高齢化するので、50ぐらいいくのではないかという、そういう気がしています。それは、なつてみないとわかりませぬけれども、この資料もしっかりした資料で間違いはないけれども、ちょっとずれが出てくると思ひますので、そういうことで巡回バスもそろそろ考えていただきたいな、弘南バスと連携して考えていただきたいなと私は思ひますので、そこを簡単に手短かに答弁いただきたいと思ひます。

次に、文化財の保存についてでございますけれども、旧木造中央公民館講堂、これを場所は再検討するというお話ですけれども、私はあくまでも当初教育委員会のほうで提案した市役所前の松の館の隣に建てるというのがベストプランだと思ひます。金額で言えば2億8,000万の予算をかけて改修、それから再建築するわけですけれども、ただの文化財として保存するだけでなく、日常市民が使えるようにするということが多額の税金を投入しても、市民から見ても活用もできるということであればある程度理解いただけるのではないかと私は思ひます。それに関して教育長、簡単に答弁していただきたいと思ひます。

それから次に、図書館についてでございますけれども、図書館サービスでございます。図書館の大事なところは3つあると思ひます。市民の目から見た場合にやっぱり立地も大事だと思ひます。これは、イオンのところに建てるということであれば、つがる市全域から人が集まりやすい大変便利な場所だと思ひて私は大賛成でございますけれども、開館時間10時から7時まで。そうではなくて、ショッピングセンターに立地させる図書館ですので、何としてもこれイオンに合わせて9時までちゃんと開館できないものかどうか。

それから、休館日、できたらこれもイオンに合わせて年休みなしでやっていただきたいなと私は思ひます。今部長ご存じのとおり、あそこは多賀城市ですか、21日に市立図書館が、公立の図書館がオープンするでしょう。多分これ365日無休で、9時か10時ごろまで営業というか、開館すると思ひます。この開館する時間が長いというのは、仕事終わった後、市民がまた資格試験とかいろ

んな勉強に行くというので便利だと思うのです。そこで、みずから私は予算措置ができるのであれば、人の予算措置ができるのであれば、できればそういうことを考えていただきたいと思うのですけれども、これは担当課ではいかんともしがたい面もあると思われまますので、市長、この時間、休みの時間とか、それから開館、閉館の時間に関して、長く市民にサービスするということに対して市長の見解と、できればここで担当課に少し検討してみたらどうかという指示をいただきたいなと思います。市長に答弁いただきたいと思います。

次、いきなりで済みませんけれども、部長、この図書館の予算規模4億1,000万、それから人件費、テナント料、合わせて4億8,000万ぐらいかかる予算ですけれども、私これ自分で、自前で建てたならば15億ぐらいかかった施設だと思うのです。そこ私、ですからちょっとあと何百万かのところで、365日営業するとなれば、もっと1,000万ぐらいになると思うのですけれども、その辺もう少し検討していただきたいと思います。この7,000万の内訳、今議会に上がっているわけですけれども、合わせて4億8,000万の内訳をちょっと伺いたいと思います。

それから、図面では、何回ももらっているからどこからもらったかわからなくなってしまったのですけれども、カフェコーナーついていますよね。この図面が出ているということは、カフェコーナー、本当に入るのですか、そこを伺いたいと思います。これは、あなたのところというよりもジャスコの分野だと思うので、ジャスコとその辺確認ができていのかどうか伺いたいと思います。

以上、2回目終わります。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 開館時間、それから開館日というようなことでございますけれども、10時から午後7時までというのは、終わった後また整理したりなんかしなければならない、そういうこともあるだろうし、特に小中学生、これについてはやたら時間がある程度遅くなりますと防犯的といえばいいか、青少年健全と申しましょうか、そういうこともありますので、10時から午後7時までというようなことにしておりますけれども、開館してある程度半年、1年もやれば、だんだん図書館に行く人の流れも見えてきますので、その辺でまたひとつ時間を遅くする、希望がそんな多くあれば、これまた検討してみたいというふうに私は考えております。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 巡回バスということで、考える時期に来ているのではないかとということでございますけれども、長谷川議員のご質問に答えましたけれども、この長期総合計画でも市民からの提案でコミュニティーバスの運行の可能性を含めて検討するというふうにしっかり総合計画のほうにも明記してございます。その中で、公共交通システムの構築を図ると、そういう検討をするということではっきり明記していますので、市民診療所のバスの運行などもどこがよくて、どこがだめなのか、そういうこともしっかり検討して巡回バス、あるいはフリーバスの検討をしていきたいと、そういうふうにご考えてございます。

○議長（佐々木慶和君） 財政部長。

○財政部長（三上保男君） それでは、10年後のつがる市の財政規模、状況、目標という中で、市長の答弁の後に将来予算規模200億、185億ということでお答えしております。それに対して28年度の予算、約240億ほどの予算規模で提案させていただいてございます。その中には普通建設事業、この増加が一番大きい要因です。48億という全体の2割を占めてございます。28年度は、ご承知のとおり大規模事業、車力小学校を初め健診センター、いろいろな事業が通常の継続している事業、住宅事業、あるいは水道の出資金、いろいろそういうものに重なったことによって財政規模、予算規模が大きくなってございます。一時的なものと考えてございます。29年度においては、大規模な事業は今のところはないので、かなりまた予算規模は縮小されるものと思います。

それと、総合計画の中に財政力の強化というところで、一応目標値というものを示してございます。投資的経費の額、これが平成31年度で約27億円、28年度の48億円に比べれば21億円ほど少なくなっております。やはり投資的経費にかける事業費もこのぐらいで推移していかなければだめかなと考えてございます。まずは、財政状況を判断するには健全化判断比率というものがございませう。それらは、平成26年度で実質公債費比率が13.3%、将来負担比率約33.3%と安全圏内にございませう。これを維持して、さらに基金が減少しないような将来を見据えて財政運営をしていく必要があると思っております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 教育長。

○教育長（葛西岨輔君） 講堂の場所については、再検討させていただきたいということをお話したわけですが、伊藤議員のほうからは活用等の面から松の館の近くがいいのではないかとのお話なわけですが、いろいろご意見があるわけで、十分意見には耳を傾けたいなど、そういうふうにお話しております。したがって、もう一度検討させていただきたいと、そのように思っております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 三上教育部長。

○教育委員会部長（三上みつる君） 図書館の内訳でございませうが、まず繰り越しになっている分の工事の請負費、内装工事と、それからつがる出張所の内装工事約1億400万ほどでございませう。それから、備品購入費といたしまして図書の本の購入が2億円と、それから施設用備品として1億400万ほどが繰り越しになっております。あと28年度の当初予算といたしましての7,100万については、指定管理の委託料が4,600万です。その内訳といたしましては、これはあくまでも予算上は、指定管理料は4,600万と出ていっておりますが、そのうちのうちのほうの試算分の内訳といたしましては、人件費が2,200万、それから雑誌等の購入費が100万、事務費として200万、それからシステムも図書館管理のシステムを入れますので、そのシステム料が1,030万、それから施設の管理費、清掃費と電気料で700万、それから開設準備費というのは図書館を開設するために本を書棚におさめますので、

その準備経費として370万を盛っております。全部合わせると、これが4,600万となります。イオンモールのほうに図書館の使用料として2,500万を払いますので、それで7,100万ということになります。

以上であります。

○議長（佐々木慶和君） 伊藤議員。

○17番（伊藤良二君） 最後の質問に入らせていただきます。図書館に絞ります。

まず、スケジュールでございますけれども、先ほど7月末ということですが、ということは20日から7月は何日まで、31日までであったのかな、その間にオープンするということですが、できれば早く、20日以降、子供たちが、中学生なり高校生が夏休みに入る前にオープンしていただきたいという、勉強できるということですよ。これから受験を抱えている学年もありますので、できればそういうサービスをしていただきたいなと思います。

それから、日にちをしっかりとセットしないと、これからオープニングのセレモニーやったり、パンフレットにいろんなものを書き込んだりするときに、早く日にちだけでも決めて逆算していかないと大変だと思います。指定管理、今議会の最後に決まるかもわかりませんが、これからはイオンと指定管理者と担当の教育委員会と密接な関係を持って力を合わせてやっていかないと、なかなか間に合わないと思います。ただ私、急がされている事情もわかりますけれども、でもやると決めた以上やらなければいけないし、市民のためにも頑張りたいと思います。

次に、私もしつこいのですが、開館時間、そういうのは三上部長ご存じだと思うけれども、青森県で一番入館者数が多いのはアウガの青森市民図書館ですよ。これは、アウガの営業時間に合わせて9時までやっています。夏場は、始まりの時間も早くしています。冬場、休み時間は。行くと中学生、高校生、大学生、一般、本当に勉強しているのです。

教育長、褒めたり叱ったりするような話ですが、つがる市、小学校は県下で一番の学力です、調査の結果。これは、東奥日報、陸奥新報にもばんと大きく出ているわけです。順位がついて、県内40市町村、みんな書いているわけです。その中で、つがる市の小学校は5年生の学力テストの結果、ナンバーワンです。ナンバーワンですよ、そういうのはめったにあるわけではないのです、こんな大きな、郡部の市がトップをとるということは。そして、中学校、これも津軽地区、弘前、黒石、平川市、中里まで含めた津軽区ではトップです。ただし、青森とか八戸とか南部のほうから見ると、ちょっと力が落ちています。私は、これは図書館の差でないかなと思っています。先生方、一生懸命努力はしていて、力も伸びて、まだこれからも伸びると思いますけれども、図書館があると学力は伸びると思います。特にこれから高校生あたりは受験を控えてくると、図書館があるとないのでは全然違ってきます、実際。

そこで、夜9時近くになって、委員長も一回アウガに見に行ってくればいいです。勉強していますよ、皆さん。そういうことで、まだ7月オープンということですので、私まだまだ食い下がります

けれども、時間に関してはそれで終わりたいと思います。

それから、カフェコーナーですけれども、要はくつろいだ環境の中で、できれば今は図書館でも音楽流しているところもありますけれども、そこまでいかななくても、この図書館では飲食というか、軽い飲料は飲めるのかどうか、最後にそこだけ軽く聞いて終わりたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 教育部長。

○教育委員会部長（三上みつる君） 館内への持ち込みは、ふたのついている飲料であれば大丈夫だということにしたいと思っております。

○17番（伊藤良二君） 終わります。

○議長（佐々木慶和君） 以上で伊藤良二議員の質問を終わります。

◇ 木 村 良 博 君

○議長（佐々木慶和君） 第5席、6番、木村良博議員の質問を許します。

木村議員。

〔6番 木村良博君登壇〕

○6番（木村良博君） このたび第5席を賜りました五和会の木村でございます。早速質問に入らせていただきます。

まず、史跡整備について質問させていただきます。年末に東奥日報の紙上に2018年度の世界遺産登録を目指す北海道、北東北の縄文遺跡群について記事が掲載されておりました。当初の18遺跡から16遺跡に絞り込む方針とあり、田小屋野貝塚、亀ヶ岡遺跡は16遺跡の中に入っているわけですが、2018年度の世界遺産登録の見通しに教育委員会としてどのような見解を持っているのか伺いたいと思います。

次に、史跡用地買収は計画の何%ぐらい取得しているのか、これも伺いたいと思います。そしてまた、資料館、（仮称）縄文ミュージアムの建設計画はどうなっているのか質問させていただきます。

次に、農業振興について質問させていただきます。農林水産省が発表した2015年の農林業センサスによると、農業就業人口は209万人で、10年の前回調査に比べて51万6,000人減少しており、同じ定義で調査を始めた1985年と比較すると30年間で6割程度農業者が減っております。平均年齢は66.3歳で、高齢化で農業をやめる人が多いとありました。本県の農業就業人口は6万3,000人で、前回調査に比べて1万7,000人減で、減少率は21.1%、平均年齢は63.6歳と、これまた昨年11月に東奥日報に掲載されておりました。つがる市も大体比率は似たような気がしておりますが、このような厳しい中、環太平洋連携協定、TPPが合意されたわけですが、つがる市への影響としてどのような影響があるのか、それに対してつがる市としてどのような施策をとっていかようとしているのか質問したいと思います。

続いて、今盛んに飼料米など非主食用米について話題が多くなっているが、これまた今後どうつがる市としては考えているのか伺いたいと思います。

最後に、高齢化、後継者不足がどこの自治体でも問題になっているが、特に後継者、新規就農者を含めて、こういう若い人に対してどのような施策をとっていかうとしているのか質問したいと思います。

これで1回目の質問を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 木村議員の質問にお答えいたします。

史跡整備についてでございますけれども、そのうちでも世界遺産登録につきまして、つがる市にある亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚、これを初めとする、それこそ当初18構成で北海道、北東北と縄文遺跡群の世界遺産登録の実現に向けまして、青森県を含む4県並びにつがる市を含む関係自治体が連携して協力し、縄文遺跡群世界遺産登録推進会議、これを設置し、取り組んでございます。

このたび早期ユネスコへの推薦実現に向け、現時点で要件を満たさず、将来的な措置を行うにも相当の期間を要すると思われる鷲ノ木遺跡、長七谷地貝塚、これを除き、議員言われましたように16遺跡に変更し、直近の機会である平成28年度のユネスコへの推薦と、平成30年度の世界遺産登録実現に向け取り組んでございます。このような取り組みや、縄文遺跡群の価値や多様な魅力をつがる市民に知っていただくためにも毎年J O M O N 亀ヶ岡文化フォーラムを開催してございます。ことしは、2月21日、松の館で開催して、「学ぼう縄文文化、語ろう地域の宝、縄文研究最前線」と題しまして市民の理解を深めてございます。

ほかの質問に関しては担当部署から。

○議長（佐々木慶和君） 教育部長。

○教育委員会部長（三上みつる君） 私のほうからは、史跡整備についての用地買収と、それから（仮称）縄文ミュージアムについてお答えいたします。

まず、用地取得についてですが、史跡亀ヶ岡石器時代遺跡の史跡の指定面積は3万8,888平米でございます。このうち平成27年度末で2万4,633平米を買い上げ、公有地化率は63.3%です。28年度末では3万3,916平米で、公有地化率は87.2%、29年度末では3万7,186平米で、公有地化率は95.6%となります。29年度末で1,702平米残ることになりますが、この分については相続人確定に時間がかかるものでございます。また、民家18軒ございますが、平成27年度末で13軒移転済みで、28年度末で3軒、29年度で2軒を予定しており、29年度末までには全ての民家の移転が完了いたします。

次に、（仮称）縄文ミュージアムについてですが、亀ヶ岡石器時代遺跡及び田小屋野貝塚を訪れ

る人に遺跡の理解を促進するために当遺跡に特化した特色ある展示内容と最新の調査情報も発信できるガイダンス施設を現地に整備し、両遺跡が世界遺産登録を目指している北海道、北東北の縄文遺跡群の構成資産でもあることから、当該施設を整備し、登録を推進することが重要であると考えております。亀ヶ岡地区は、上水道がまだ未整備でありますので、上水道の整備が予定されている平成31年度に工事着工を考え、29年度で用地購入、30年度で実施設計、31年度で工事を着工し、32年度の完成を想定しておりますが、これはあくまでも上水道が整備されることが前提条件ですので、事業年度を決めることができないというのが現状であります。

以上であります。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 木村良博議員の農業振興についてのまず1点目、TPPによる影響はというご質問です。本市においては、影響品目はやはり米と考えているところです。青森県の影響額試算を見ますと、米については国と同様に影響はなしというふうに、生産減少額はゼロ円としています。ただ、県産米のつがるロマン、まっしぐらの価格が低下するのも想定しているとのこと。本県の米は、中食、外食産業での消費が非常に多いと聞いております。TPP発動により業界がどこのランクの米を輸入する見込みなのか注視する必要があると考えています。それによって、行政、農協、商系が一体となって外食産業、中食産業に対し、売り込みを図っていく必要があると考えております。

2点目の非主食用米についてです。現状市内で作付されている非主食用米は、飼料用米、加工用米、備蓄米、米粉用米、輸出用米がございます。その中で、27年度に作付された品目は飼料用米、備蓄米、加工用米となっており、飼料用米については26年度の約2倍である1,224ヘクタール作付されています。増加の要因は、既存の農業機械が活用できると、それから施設がそのまま活用できる、栽培技術についても熟知している、最大の利点は10アール当たりの交付金が、収入が安定的であるということだと思っております。来年度においては、さらに作付が増加するものと考えております。

国におきましては、TPP対策として28年度から産地パワーアップ事業という事業を創設しております。この事業は、水稻、水田だけでなく、野菜、果樹、全てを網羅している事業でございますので、こういうのを活用しながら農家の人たちには利用していただきたいと思っております。

3点目の農業後継者についてのご質問です。先ほど言われましたように農業の後継者は、すごく減っているというのが実態です。うちのほうで農業後継者の有無について、人・農地プランというものがありまして、それでとりあえずは把握しております。まず、地域の中心体となる経営体数は844戸、これはあくまでも登録されている人です。そのうち後継者がありというふうに言っていた人は331戸、全体のセンサスの農家戸数からすれば10%足らずと非常に後継者が少ないという実情が見えております。

ただ、この状況を打破するためには国、県、市、農協が後継者育成のため事業を進めているとこ

ろです。直接的なのは、皆さんご存じだと思うのですが、さまざまな後継者育成として、先ほど質問でも出ていました新規就農とか、それこそリンゴの病害虫関係の委託、またそれから農業大学校に入るための準備金の支援とかさまざまありますので、そういうのを活用していただければと考えています。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） まず、世界遺産登録について質問させていただきます。

2018年度の世界遺産登録を目指しているという割には正直言って住民の盛り上がりが本当に足りないというか、少ないと。その原因は何でそうなのか、教育委員会としてはどういう見解でいるか伺いたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 教育長。

○教育長（葛西岷輔君） まさしく木村議員がおっしゃるとおり、そこが一番大事なところでないかと。石神遺跡にしても、亀ヶ岡遺跡にしても、田小屋野貝塚にしても、市民が私たちの郷土にはこういう大事なものがあるのだということを常に話題にできるような、誇れるような、そういう姿をつくっていく必要が一番あるだろうと、そのように思っております。

それで、今やっているのは少し話させてもらおうと、小さい小学校、中学校のころから親しませていく必要があるだろうと。そういうことで、小学校10校、中学校5校、全てが貝塚、遺跡等を訪れること、また学芸員がおりますので、幾らでもそういう授業をする場合はお手伝いできると。そういうことで、全ての学校でそういう学習ができるようにしていかなければならないということをご四、五年続けてやっていることです。

また、実際に前にもお話ししましたがけれども、実際に本物のしゃこちゃんを見る機会もなければだめだということでは、中学校の修学旅行を機会にして、ぜひできるだけ子供の目に触れさせてほしいと、そういうことも行っております。成果はどうというのは、まだ言えないわけですがけれども、それにしても県のほうでも語り部ミーティングという事業を行っております。これは、うちのほうにもおいでになってやっているわけですが、そういう機会とか、またNPO法人縄文の会のほうにもお願いしてあるわけですがけれども、フォーラム等毎年行っているところですが、見ていると割と集まってきて非常に熱心に学習はしているというふうに見受けられます。また、他の自治体の様子も聞いておりますけれども、非常にほかの地域からもうちのほうのフォーラム等においでになって学習しているというようなのも見受けられますけれども、今議員がおっしゃるとおり、そのところは盛り上がりについてはまだだろうと、まだやれることがたくさんあるのではないかと、そういうことではこれからいろんなところに働きかけて意識を高めていくということを大事にしなければならぬ、そういうことを考えておりますので、ひとつご指導のほどよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） 私が言いたいのは、盛り上がりがないと、これは私も教育長も同じ思いだと思います。ただ、市役所に来て垂れ幕一つない。普通であれば、よく世界遺産登録を目指しているところは、テレビなどに放映されていると、例えば現地のそういう周辺に旗を立てるとか、いろんなPRがあるわけです。ところが、つがる市にはそういうPR、全然足りないのではないかなと私は思っている一人でございます。そういう関係で、住民も案外関心がないのかなと。当然フォーラムに、たしか2月21日ですか、私も行きました。つがる市の人以案外少ないなと実感しております。そういう中で、もっともっと教育委員会としてもPRをする必要があるのではないかと。そうでなければ、このまま盛り上がりがないままに進んでいくのではないかなと、その辺もう一回答弁をお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 教育長。

○教育長（葛西嶮輔君） 先般県の岡田先生もおいでになって、随分登録に向けては空気が高まってきたというお話を聞いて、今議員がおっしゃるようなことを強く感じているところでございます。したがって、今話されたようなことはもちろん、いろんな面でできることを早速進めていきたいなと、いかなければならないなと、そのように思っております。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） 用地買収のほうは順調に進んでいるようで、これは省かせていただきます。次に、（仮称）縄文ミュージアムについてですが、今部長の説明によれば、平成30年度までに上水道が完成すればという話がありました。

そこで、民生部長に伺うわけですが、平成30年度までに上水道は完成するのかどうか伺いたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 民生部長。

○民生部長（山口健吾君） 今質問にありました水道事業なのですが、水道企業団のほうと詳細詰めていますが、平成27年度の事業費につきまして、今東京のほうでオリンピック開催のため、補助金が7割程度しかついていない状況になっています。そのため100%の事業費が来ていませんものですから、事業自体は、平成27年については30%減少だということになります。

それで、来年度、平成28年度につきましては、おくれた分につきましてあわせて要望して事業の回復を図る予定なのですが、これもあくまでも国の補助金ですので、平成28年度の事業費の対応次第によっては1年おくれる可能性もあるというふうに言わざるを得ないという状況になります。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） たしか私、去年の当初予算にこの縄文ミュージアムのことについて予算特別委員会で質問した経緯があります。そのとき教育長は、私は、これはきちっと財政計画の中に組み

入れて、ちゃんと進行しなければ絵に描いた餅と、こういう質問をした経緯があります。そのとき教育長の答弁によれば、これはきちっと強く財政部に働きかけしてきちっと組み入れると、そういう答弁だったと私は記憶しております。

そういう中で、もし上水道が30年度までに完成しないと、こうなった場合、いつでもドッキングすればいいように、上水道が完成しなくても着工できると思いますが、その辺は財政部ときちっと話をしているのだからどうか、そこら辺のところをもう一回教育長にお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 教育長。

○教育長（葛西嶮輔君） 先に前回木村議員から、財政的な面で裏づけがきちっと担保されないと絵に描いた餅ではないかと、そう言われたのは記憶に残っております。そういうことがないように当初予算までにいろいろ内部で話し合ってきたことは、話し合ってきた経過が今回提案されたということになるかと思えます。

また、今話された二段構えでというのは、なかなかこれまではどうしても上水道の面だけを考えてきたのが強かったなど、そのように思っております。そこまでです。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） 教育委員会としての計画としては、30年に上水道が完成すれば、31年度に（仮称）縄文ミュージアム建設に着手すると、こういう予定だと思います。ただ、民生部長の答弁によれば、どうもややもすれば確実性がないと、私はそういう答弁だと判断しております。

そういう中で、総務部長に聞けばいいのだから、財政部長に……どっちでもいいです。例えば上水道が完成しないと、30年度までに完成しないという場合は、あくまでも上水道が完成した後でなければ縄文ミュージアムの建設に着手できないのかどうか。そういう中において、上水道が1年おくれても、これはやむを得ないと。ただし、縄文ミュージアムの建設の着手だけには計画どおりするのだと、やるのだと、そこら辺のところは総務部長でもいいし、財政部長でもいいし、答弁をお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 今民生部のほうから、黒石のほうから引っ張っている水道が1年くらいおけると、国の予算の張りつけ状況が3割程度減になっているということで報告がありました。今議員が申し上げましたとおり仮に上水道が来なくても、来たときに接続できるように縄文ミュージアム、これを先行あるいは並行してやれないかということですが、そもそも確認申請おきるまでに上水道がないと浄化槽もつけられない、あるいは下水道もつくられないということであれば、上水道を待ってからミュージアムの建設に取りかかるというのが現実的だとは思っています。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） 民生部長、また市長に上水道を何としても30年度までに完成できるよう、強く県、国に働きかけてほしいと。世界遺産登録だから簡単な、それこそ来年でいいやとか、次でい

いとか、そういうレベルの話ではないと思いますので、市長にはぜひ頑張ってくださいたいなど、こう思っております。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 上水道、大変問題になっていますけれども、1年は延びる可能性もございません。これは、県、国のほうのちょっと事情がありまして、岩木川にかかる橋でございますけれども、それで実際ことし3割ぐらい切られました。同じようにことし市営住宅のほうも3割ぐらいカットされております。ですから、カットされた分をもとに戻してもらって、できるものであれば予定の期日に間に合わせたいというふうに思いますので、ご理解のほどお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） 次に、農業振興について質問させていただきます。

TPPの影響は、経済部長の答弁ではそうそう大した心配のないような私は感じを受けました。実際本当にそうでしょうか。関税の撤廃、削減、そういうことで安い農産物が輸入されれば、私は確実に影響はあると。ただ、肯定した論だけをしてもこれは全然だめだから、これに対して、ではつがる市としても、仮にこういう安い農産物が入ってきても負けないのだと、そのためにはこういう施策をやっていくのだと、そういう心構えが必要ではないかと。

そこで、農業委員会の会長に質問します。TPP合意されたわけですが、本当に会長として経済部長の答弁のように案外それほど苦しなくてもいいと。会長はどう思っていますか、質問します。

○議長（佐々木慶和君） 山本農業委員会会長。

○農業委員会会長（山本康樹君） 私は、経済部長が答弁したように国のほうでは大した影響はないというふうに、国ではいつでもそういう言い方はしますけれども、私は本県の農業、とりわけ稲作農家にとっては大変相当影響が大きいのではないかとというふうに考えてございます。

まず1つ言えることは、国内の米の消費の減少というものをまず考えなければなりません。毎年国内においては、約8万トンぐらい減少してございます。8万トン、これは青森県の年間の生産量が約20万トン、今の転作率で、45%ぐらいで作付した場合においてですけれども、年間20万トン。ということで、3年後には青森県で生産される米が全然食べられなくなるというような、よほど大きい影響があるわけでありまして。国のほうでは、TPPが発動したからといってすぐにも関税がゼロになる、あるいはいきなり引き下げられるというものではないと。段階的に引き下げていくのであるから、その間に国内対策はしっかりやっていると、そういう考えでいるようでありましてけれども、私は決してそうは思っておりません。TPPが発動されれば、今議論されているような主食用米の関税、それとは抜きにして無税の米がすぐにも7万8,000トンほど入ってきます。ですから、国のほうでは、これは市場に出さないと、この分の国内でとれた米は備蓄米で隔離するのだと。ですから、今現在の転作率でつくられる米に対しては、ほとんど価格面においても影響が出ないというふうなことを言っているわけでありましてけれども、決してそういうことではありません。国で考え

ているのは大変短絡的なことであり、米の消費の減退、そしてまた市場の縮小、これは米の消費の減少というのは、単に食の多様化、あるいは食べなくなったというだけではなく、市場の縮小、人口が減っているわけですから、当然その分の米も食べなくなる。それに増して国内で食べなくなる米の量と同じ量が毎年外国から入ってくる。7分の1、8分の1の値段で入ってくると。そうなれば、稲作農家にとって影響がないわけではないわけであります。ですから、私どもは今の農家の所得を安定させるためには国のほうに収入保険のようなものを創設していただいて、農家の所得を確保していただきたいというふうなことで働きかけはしております。国のほうでもそのように前向きには検討はしてございますけれども、何分国会におけるTPPの審議というのは4月からでございますので、そうなったらある程度中身も見えてこようかと思っております。ただ、今の段階においては、私は本県稲作農家にとっては大変大きい影響があるとは思っております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） 私も全くそのとおりで思っております。ただ、ここがだめだだめだと言っても始まらないわけで、ここからつがる市がどういう農業政策をとっていくのか。つがる市には県内一の1万1,500町歩の水田面積、2,000町歩の畑作、500町歩の果樹園があるわけです。けさほどから一般質問を聞いていますけれども、人口減と。将来的には2万5,000人でもやっていけるつがる市だと。確かに人口は減っても土地は少なくならないのです。この2万5,000人で、どうやってこの基幹産業を守っていくのか、ここが本当の私は踏ん張りどころだと思います。確かに市長は、この10年間、農業のブランド化をうたってきました。これはこれでいいでしょう。トップセールス等もやってきました。これも、まあ、いいでしょう。ただ、実際、では我々農家にとって本当に効果があるかと、出たかと。これは、確かに農業問題は一番難しい産業ですから、なかなか効果が出ない。ここで全てを見直ししていかなければならないと。

では、つがる市に何も無いかと。例えば県内一の水田面積を誇る米、ニンニク、ゴボウ、ブロッコリー。ブロッコリーは、つがるにしきただけでも最近2億以上の販売額を持っております。もちろんトマトもそうでしょう、リンゴもそうでしょう。全てをここでもう一回白紙に戻して、本当につがる市が2万5,000人でもやっていける、そういう政策、施策を考えるべきだと、こう思っております。今までの議会でいろんな農業問題について質問がありました。検証してみます、必ず検証してみます。ところが、検証した結果、全然答えが来ない。検証した、それを仮に全部見直しが無い、10年間同じ政策で来たなど、こう思っております。そこら辺のところを経済部長、もう一回回答弁をお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 確かにいろいろ、農業委員会の会長さんからも出たように米に対しては非常な影響がある。確かに米については影響があるとしたものの、私たちはやっぱり飼料用米が救

いの手だと完璧にそう思って進んでいます。ブランド関係の8品目で農業振興を図っていくということで10年たちました。いろいろ検証もしてみました。出た検証の結果としては、知名度が都会に行けばまだ少ないと、ほとんど知られていないというこっぴどい評価を受けました。それについていろいろ内部のほうで検討して、またさらに今年度をかけてアクションプログラムを作成して来年度以降取り組んでいくというふうに考えています。

また、予算のほうで見ていただければご存じのとおり、たまたま今まで手がけておりませんでしたアンテナショップ、関東近辺へのアンテナショップの設置、それからインターネット販売等々、新しい事業に向かっていきたいと思っていますので、そこら辺ご協力よろしく願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） 非主食用米に入る前に一言だけ市長に要望と申しますか、質問させていただきます。

地域が元気になれば、私は若者も戻ってくると。この地域に若者が戻ってくると。したがって、今大変な基幹産業の農業、これは短期間に大きな成長は無理だと。しかし、持続可能な地域づくり、このためにもっともっと汗をかく。私どももそうですが、汗をかいていかなければならないと。市長は、年頭の挨拶の中に農家は厳しいと、厳しいながらも再生産できるような支援をするのだと、関係機関と協力しながら再生産できるような支援をしていくと。たしか私は、広報つがる、新年の広報つがるでの市長の年頭の挨拶を見て、ことしから、今度はTPP絡めて大変だから、市としても市長独自にもっと頑張るのだなど、こう思っております。市長、その辺のところ、一回答弁お願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 議員が言われましたように、その地域がよければ農業でも発展するし、商業でも工業でも、要するにいい方向の回り方とさえいえばいい、通じていきますけれども、そのうちどれがまずくても一体にならないというような難しさもありますけれども、できるだけ地域が元気になって、一旦東京、向こうのほうへ行った若者でもまた帰ってくると、Uターンしてくるとというような地域づくりを目指して皆さんと一緒に頑張っていきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） 次に、非主食用米について質問させていただきます。

人口も減っている、そしてまた米を食べた世代、高齢化になってきている。当然胃袋が小さくなっているわけです。そして、我々の世代は食文化の移り変わりで、米半分、その他半分と。そして、また何ぼ食べても腹強くなる子供たちが少ないと。そういう中で、米の消費はどんどん減る、これは自然の流れだと、私はそう思っております。

ただ、経済部長、今非主食用米、飼料米ですが、需要と供給のバランスを考えれば飼料米を、ま

だまだ飼料米は作付しても大丈夫かどうか、その辺の見解はどう思っているか答弁をお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 今いつまでつくれるかというような話です。前にも何回か言っていると思うのですが、国のほうで向こう10年間は需要は伸ばしていくと。それは、農業基本計画でしたか、ちょっとど忘れしましたけれども、それに明記されていると。ただ、価格については明記されていないので、つくる人にとっては不安だとは思いますが、当面10年間は110万トンまで伸ばしていくという国の方針がありますので、それに沿っていきたいと思っています。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） 今の現状を見れば、大規模農家と称する人たちは結構飼料米に取り組んでいると思います。ただ、中規模と言えいいのか、その以下の人たちは、飼料米はほとんど聞こえてこない。というのは農協のカントリーを利用している人たちは、まず今の現状でいけば飼料米を作付していないと。ただ、これからは1万1,500町歩、この水田から全てを所得を上げると、こういう中でいけば、やっぱり集団でつくらせるとか、そういうためには農協と話しして、農協でも受け入れる体制の施設、こういうのを整備していくとか、また非主食用米も飼料米だけでないから、例えば米粉にするきちんとした施設を整備するとか、その米粉で、例えばつがる市だけでなく米粉のパン、麺、こういうものをいち早くつくって、地域にそういう地産地消と申しますか、そういうものの対策をとっていこうとするのか、その辺のところを部長のほう、もう一回答弁をお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） ただいま木村議員から、農協のカントリー共乾施設を中小規模の農家の人たちは使えないというふうに聞いています。ただ、私たちもそういうのをちらっと聞いたもので、農協のほうに確かめてみました。確かに主食用米と飼料用米、一緒につくって一緒に出そうとする方にはお断りしているそうです。やっぱりある程度の期間をあけて、面積がまとまれば幾らかは、幾らかというか、取引は可能だということでした。

それから、米粉の件ですけれども、米粉制度っていうのが、始まって1反歩ぐらいつがる市でつくっていましたがけれども、ここ3年間、全く作付者はございませぬ。これは、実需者がいないと契約栽培になるので、それはちょっとできないと、業者さんがいないということでお聞きしています。ただ、普通に主食用米、これもまた米粉ということで加工は可能です。今現在木造の加工センターにおいて、そういう機械も入れていますので、そういうので初めは少し微々たるものになるかもしれませんが、それを拡大していきたいなというふうには考えています。

あと専用の施設ですか、これはカントリーとかという、そういう飼料用米専用の施設というお話ですが、はっきり言えば農協からそういう要望は来ていません。ただ、実際今柏地区の人たちとかが特定の業者、民間の業者さんですけれども、そこら辺のやつで、きょうの新聞にも出ていました。鱈ヶ沢港、七里長浜港に集積して船で運んで八戸まで送って運送賃を安くすると、そういう取り組

み、これもまた独自で、民間の方々が独自でやっていることですが、こういうのが私たちのほうにそういう要望なり、具体的な計画なりあればお手伝いし、飼料用米の作付は拡大していきたいなど思っております。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） 私が何でもこういうことを言うかと申しますと、大規模農家でもある程度限界はあると思います、個人の場合。そうすれば、この中規模農家以下の人たちは将来出し手になるのです。ところが、大規模農家でも、あとこれ以上面積がふやせない、こうなった場合、つがる市の1万1,500町歩の水田が、農地余り現象が起きると私は思います。だから、やっぱりそういうところは農協と話しして、確かに農協で受けますよとなっていると思いますが、実際受けてやっているのはゼロです。言葉はそうしますけれども、本当に受ける体制をきちっとしてもらいたい。そうしなければ、つがる市の農地、これは相当大変な状況になるのではないかなと。そういう中で、非主食用米にももっと力を入れてほしいと、こうお願いしているところでございます。

最後に、時間も時間ですので、後継者問題について質問させていただきます。ブランドは、品質も確かに求められます。ただ、そのブランドを達成するためには農産物の品質だけではないと私は思っております。というのは、人、組織もブランドでなければ、これはブランドとして勝ち残っていけない。私、今まで議員研修の中で、そういう研修した中で、ほとんどの先進地の人はまず組織づくりだと、人づくりだと、相手方はこういう講演します。そういうことを考えると、つがる市でもっと人づくりに予算を投資するべきだと思いますが、市長、答弁をお願いします。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 基幹産業が農業でありますと、このつがる市においては、そういうような人づくりが大切だと思います。

○議長（佐々木慶和君） 木村議員。

○6番（木村良博君） そこで、最後に1つ、市長にお願いして終わります。

人づくりが本当に大事だと、これは家庭でも地域でもどこでも同じだと思います。そしてまた、農業は、農家の人は各集落をただ自分の生活だけでなく、多面的機能をたくさん持っていると思います。ほとんどの集落は、専業農家とか、そういう人たちが集落を維持している、その力は相当なものだと思います。そういう面を考えると、これから若い人にはどんどん先進地を視察させるとか、研修させるとか、研修の場を設けるとか、仲間づくり、そういうものに今まで以上に力を入れてほしい。そのためには要望で終わりますけれども、つがる市後継者育成総合支援協議会、そういうものを立ち上げて徹底して若い人たちを教育してほしいなど、それを要望して終わります。

○議長（佐々木慶和君） 以上で木村良博議員の質問を終わります。

ここで2時50分まで暫時休憩します。

休憩 午後 2時38分

再開 午後 2時51分

○議長（佐々木慶和君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

◇ 松 橋 勝 利 君

○議長（佐々木慶和君） 第6席、18番、松橋勝利議員の質問を許します。

松橋議員。

〔18番 松橋勝利君登壇〕

○18番（松橋勝利君） それでは、通告順に従いまして第6席の松橋勝利でございます。

第1点目には人口減少対策についてであります。次は、2点目として選挙権拡大について、こういうことで質問してまいります。

この人口減少対策については、私の前にも何人の議員も質問されております。ということは、これだけこれが重要な問題なのだ、こういうことのあらわれであります。そういう点から、私は今のつがる市においては最も重要な問題がこの人口減少対策であると、こう思っておるわけであります。

そこで、今回の市長の提案理由の説明の中でも、市長が今後の市政運営に当たっては人口減少を抑制し、将来的な人口の維持に努めていかなければなりません、こういうぐあいにはっきり市長もうたっているわけであります。そういう観点から考えますと、非常にこの人口減少対策というのは重要な問題、今申し上げたように。それから、この人口減少対策については、歯どめをかける施策が急務となっている、こうもおっしゃっておるわけです。まさしく私もそのとおりで思っている。そこで、今回の第2次総合計画の策定と並行して、まち・ひと・しごと創生法に基づく地域活力総合戦略を策定したところであります。こういうぐあいになって、市長のこれは提案理由であります。

そこで、人口減少対策のこの新聞の記事でありますけれども、これは27年の12月26日の新聞の記事であります。これを見ますと、2010年から2015年、これは5年間のことでありますが、ここで私は本当にびっくりしたのは、青森県10市あるわけだ。その中で、つがる市がいかにかこの人口減少が激しいか。これを見たときは本当にびっくりした。ここでこの表を見ますと、10市の平均が、減少幅が3.9%。何とつがる市は10.5%、断トツなの。つがる市だけが10%を超えているの。あとのところ、つがる市を平均しても3.9よりないの。それを見ると、つがる市はどうなっていくのかなと、私はこういう予感するのだ。ちなみにここで見ますと、青森県の減少率、これ5年間の率を見ますと県内の平均は4.7%、そういうことでこれを考えたとき、これは先ほど申し上げたように市長もその考えで提案理由の中でも申し上げておりますので、まずここに私書いておる今後の人口減少対策はどのようなものを、今回の予算にもいろいろ計上はされております。これは、私もちゃんと見ておりますけれども、ただどこでもやっているような今の人口減少対策では、私は歯どめがかからない、こう思う。特別なよそでやっていないような方向で持っていけないといけないと、こう思うわけで

あります。

ここで、よその人口減少対策に取り組んでおるところを新聞の記事とかで見ますと、これは新郷村の定住促進住宅とかいろんなことを書いておるわけでありましたが、ここを見ますと、ここでは小中学生の給食費は無料、15歳以下の子供がいる世帯には1人当たり年間1万円余の商品券も配る、こういう政策も述べておる。こういうようによその町村でもいろんな方策を打ち出しておるわけ。ここの中の文章を見ても、深刻な人口減を指をくわえて見過ごすわけにはいかないのだと、こういうようにうたってもおるわけでありまして。例えばそのほかにもいろいろありますけれども、住宅の家賃とか、そういうものを見ても3万5,000円で貸す、それに18歳以下の子供1人がいれば5,000円減額する、そうすることによって家賃もまた下がってくる。いろんな方策を考えておりますので、つがる市では先ほど来、何人もやっておりますけれども、いま一步踏み込んだ答弁を期待しますので、よろしく。

それから次に、2番目として出生数のふやす対策はあるのか。今回の予算の中にもいろいろあることは私も承知しておりますけれども、その対策をまず示してもらいたい、こう思っています。

それから、我がつがる市は第1次産業が非常に主とした市であるということから、1次産業を厚く保護する政策を考えるべきではないか、こういうことです。というのは、農家の跡取りがいないの。どうすれば農家で生活できる、跡取りもふやせるか。これは、いろんな考え方があると思います。そういう点で、経済部は経済部だろうけれども、ここに農業委員会を代表して農業委員会の会長も出席しておりますので、これは農業委員会は代表的なあれでございますので、きっと立派な考えを持っていると思いますので、そこを1つ。

それから次は、選挙権拡大であります。選挙権の拡大については、皆さんご存じのとおり今度の参議院の選挙から年齢が18歳から選挙権を有する、こういうことになっておるわけでありまして、有権者になる数はどのぐらいいるのか、まずその辺を伺っておきます。

それから、2番目として選管で、例えば選挙のための出前講座とよく言われておりますけれども、説明会あるわけだけれども、よその町村ではいろんな、早くからそういうことをやっているのだ。どうも我がつがる市では、私の調べたと言えればあれだけれども、何にもやっていないのではないかと、こういう感じするわけです。したがって、それに対して今後選管としてはどういう考えを持っているのか、まずその辺。

1回目、以上。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 松橋議員の質問にお答えいたしますが、それこそ人口減少は松橋議員で何人目かになります。また同じような答弁になります。よろしく申し上げます。

人口の減少の克服に向けたつがる市の総合戦略、これにつきましては、最終案を議員の方々へご説明して、あるいはまたご意見を頂戴した後、ことしの1月に策定されたところでございます。ご質問の今後の人口減少対策、これにつきましては、この総合戦略に掲げる魅力ある就労、雇用の場を創出するなど4つの基本目標を中心にして農業振興や雇用、若者の定住、移住促進、希望する結婚、出産、あるいはまた子育てをかなえるなどの施策を展開してまいりたいと思います。これらの施策を展開することによりまして、減少を抑制して2060年には2万6,000人の人口の推移、これを目指したいというふうに思います。

具体的なことや何かは、担当部に答弁させます。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 1の人口減少対策の（2）番でございます。出生数の増を促す対策は何かがあるかということでございますけれども、まず出産する前の段階の結婚をまとめると、支援するというので、それもまず第1点です。それから、結婚されたら、次に出産、子育てに関する、妊娠から子育てまで切れ目がないように支援をするというのが2つ目です。そして、その後子供を産んで育てる場面ですけれども、就労、雇用の場の創出を図ると、さらに若者の移住、定住の支援をするというのが柱でございます。

結婚の支援は、婚活支援事業が主体となります。出産、子育てについては、従前からやっている事業をさらに拡充するというので考えてございます。

その次の就労、雇用及び定住、あるいは移住と、この対策については、まずは就農です。第1次産業、一番多いのですけれども、つがる市は。それに対する就農を促すということです。それから、誘致企業で雇用の場を図って転出をとめるということを考えてございます。

それから、子育て世帯、若者夫婦、先ほどの議員のご質問にもお答えしたとおり子育て世帯、あるいは若者夫婦の移住に対して補助をする、助成をするというふうに考えてございます。そのほか出生数の増の対策は、これに限らず全部が絡まってございますので、総体的に、あるいは一体的に問題に取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 農業委員会会長。

○農業委員会会長（山本康樹君） 若者がいかに農業に従事して地域の農業を守っていくかということのお尋ねかと思っておりますけれども、明確な答えがあれば私のほうで聞きたいぐらいであります。

ただ、いかに農地があってもなかなか就農しないと。とりわけ仕事に魅力を感じるかどうか、その部分もありますけれども、一番大きいのは農業で御飯を食べていけるかと、それに尽きると思います。経済面がしっかりすれば、自然に農業に従事してくれるのではないかと思います。

そういうことで、先ほど前段の木村議員にもお答えしましたけれども、TPPの国内対策、どのようになるか、これは4月からの国会審議を聞かないうちは何とも言えないわけでありましてけれど

も、先ほどちょっとだけ言いましたけれども、農家の収入を確保するために国が主体となった収入保険ということで、私どもかねてから運動を進めてまいりました。それもようやく国のほうで前向きに検討するというので、ある程度の効果はあると思います。結局農家の方の所得がある程度確固たるものがあれば、自然に若い人たちも農業に従事してくれるのではないかと私は考えております。答えになっていないかもしれませんが、お願いします。

○議長（佐々木慶和君） 成田選挙管理委員会委員長。

○選挙管理委員会委員長（成田照男君） それでは、選挙管理委員会のほうから松橋議員の先ほどのご質問にお答えしたいと思います。

選挙権拡大についてという中でのあれですけれども、このたび公職選挙法が70年ぶりに改正されて、18歳から投票になったということは議員もおっしゃっていたとおり皆さんご承知のことと思います。今夏の参議院選挙から実施されることになりました。しかしながら、まだ投票日は決定しておりません。私どもでは、仮に7月10日の投票日と想定し、また今後転出入の移動がない場合と想定をいたしまして調べてみましたところ、新18歳の有権者は310名、新19歳の有権者は280名、合わせて590名となっております。

そして、次の出前講座のご質問ですけれども、申しわけありませんけれども、私ども選管のほうでは今まで実施しておりませんでした。昨年以來、この公職選挙法が改正されて18歳というあれになりましてから県の選管のほうからも指導を受けて、一応出前講座のメニューなんかは指導を受けていたのでございますけれども、一応各団体、学校、その他などからの依頼がなかったという、どちらかといえば私たちも受け身の態勢であったことが原因の一つかと思っております。これからは、積極的にいろんな団体、学校等に声をかけて、私どもだけでは決められないことで、相手もあることですので、出前講座というものを本市にあります明るい選挙推進協議会、通称明推協という団体があるのですけれども、その方々とも協議し、またはいろいろお手伝いをいただきながら、これから前向きに頑張っていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員。

○18番（松橋勝利君） 1回目の答弁もらったわけでありましてけれども、まずこの人口減少対策でありますけれども、これは今申し上げたように今回の予算でもいろんな形で、これは私もちゃんと見ておる。ところが、実際言って、言葉はいろんな言葉できる、書くことも。それがいかに実行していくかということになると、これは簡単ではないのだ。だから、私言うのは思い切った行動をとらなければだめだということを言っているわけです。例えば今ここで、先ほどもよそのところのあれを読んだ経緯もあるわけでありまして、結局よそのところでも、例えばつがる市でも医療費は中学校まで無料、それは今の時代はどこでもやっているの、人口減っているから。だけれども、私も見たり、あるいは調べたりしても、ここに出ている新郷の給食費無料にする、ここまで踏み込んでい

るのはなかなかないのです、私の知る範囲では。

そこで、私もこのつがる市でも、財政は伴いますけれども、思い切ってつがる市でも学校の給食費まで無料にすると、こういうことになれば若い人たちでもつがる市に住みたいと、こういう人は私はあると思う。もちろん住宅もあるし、もちろん空き家もいっぱいある、紹介すると思えば。医療費も無料、学校給食費も無料となれば、子育てする世帯にすれば、これは大変なメリットになるの。そういうことで、何かしら私はそういうものを思い切って、先ほどちょっと教育委員会のほうと話したら、つがる市の給食費は大体総額でいけば約1億5,000万ぐらい。これは大変な出費だけれども、人口減少を食いとめるためにはやっぱり思い切った行動をとらなければいけない。人がどんどん、どんどん減っていくということになれば、あすに図書館建てようが、体育館建てようが、何も利用価値なくなるの。それを一番先に考えなければだめだ。だから、先ほど農業委員長も農業のあれで申し上げておりましたけれども、今の現状でははっきり言って農業でなかなか飯食って、子供たち育てて学校に入れる、そこまでは難しいということで後継者がいないのだ。

そこで、私の提案だけれども、私もいろんなことをやっている、皆さんご存じのとおり。漁業もやっている、商業もやっている、農業もやっているのだ。そのぐらいやってやらなければ、ちゃんとしたり、なかなか難しいのだ。だから、私に言わせればつがる市は本当に住みやすいところだと思う。海もある、川もある、十三湖もある、そういうところをいかに利用するかということ。そういうところはやっぱりちゃんと議論して、そういうところに手当をするときは思い切った手当でなければだめだ。ここに先ほど私読んだ人口減少対策で指くわえているわけにはいかない、存亡の危機にあれしているのではないのか、どこの町村でも。だから、これに対しては私の前の疑問、2人ぐらい人口減少対策でいろんな答えもなされておったことは私もちゃんと聞いておりますけれども、その辺やっぱり思い切った政策をとらないと、これは10年後の2万5,000人、これで済まないと思う、私は。もっと減る。先ほど私申し上げた5年間のこれを見れば、これで終わるのだ。5年間でこれだけしているのだ。そのためには結婚、これも子供産まないことにはどうにもならない。私もこうしていろいろ見れば、本当に結婚しない人、いかに多いか。40代、50代、これは今回の予算でも人の出会い、そういうものにも計上しておりますけれども、そういうところは、予算は予算だけれども、思い切った、このことについては私前にも質問したことあるのです。そのためにはそういう人の会をつくらなければならない。ただよく皆さんから言わせると、会を、何の会でもつくるのはいいけれども、ただあの会の会長、何だそった役職ばかり集めてやるから何やってもだめだというの。その道に対して一生懸命な人を集めると私言ったでしょう。例えば世話好きな人、そうでねばだめなのだ。例えば漁業にしても漁業に全く関心も何もない人、その会に入ったって何できますか。私はそう思うの。肩書きなんて何も要らないから、世話方好きな人いっぱいいるのではないのか。私もそのうちの一人だけれども。ですので、よく私も言っているけれども、私も仲人を14組ぐらい経験しているので、そういう点で……

〔「質問しなければ」と言う人あり〕

○18番（松橋勝利君） もうちょっと踏み込んだ答え出してもらいたい。そうだな、時間過ぎるな。
次、1次産業を厚く保護する政策だけれども、今全部に含んでいるので、農業委員会の会長にもそこは十分留意して、今後どうすれば農家の後継ぎでもふえるか、そこ。

それから次、そうすれば……

○議長（佐々木慶和君） ちょっと松橋議員、一問一答なところで、今後の人口減少対策は答弁要らないのか。

○18番（松橋勝利君） 何もそれは求めてはいない。

○議長（佐々木慶和君） 1回に1つずつ片づけていかなければだめなので、1次産業とかなんとかというの……

○18番（松橋勝利君） それ答弁せ、へば。

○議長（佐々木慶和君） だから、誰に答弁、何て答弁するの。答弁。

総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 人口減少、あるいは出生数の増を求めるような、もっと詳しい事業と内容ということでございますけれども、まず総合戦略は2060年度、平成72年に当たりますけれども、そこで2万6,000人とめると。人口の減少は、今議員がおっしゃられたとおり国の研究機関が試算した額よりも今の国調の減少の率が約1,000人ほど多いのかなと思っていますけれども、いずれにしてもその減少が減るというのは変えられない事実で、要するに2060年度で2万6,000人と、それ以降は2万5,000人を2万5,500人とか、2万5,000人規模の人口があれば、維持すればつがる市は存続できるということの意味で今総合戦略を組み立てていると。人口は減りますけれども、ふやすというのはなかなか正解もないし、これをやればふえるというのもないので、なかなか難しいのですけれども、いわゆるその中で総合計画と総合戦略、これを一体として人口減少が緩やかに減るように歯どめをかけるというのが今の計画でございます。

他市町村の先例、思い切った事例ですけれども、そこまではいかないまでも、当市でも新規事業、平成28年度で13事業ほど予算の中にちりばめております。ちなみにつがる市新規就農者支援事業、これ国でも行ってございますけれども、別枠で国の事業に該当する農業者については、新規の就農者については、別枠で市も支援するというような新規の事業です。

それから、先ほどの議員にも答弁しましたけれども、移住者のマイホームの応援事業をやると。子育て世帯、若年夫婦の移住の応援もするということです。それから、地域おこし協力隊受け入れ事業、これも新規で考えてございます。この事業については、いわゆる民間の活力を市に入れるということで、向こうのほうから2名ほどつがる市の特別の非常勤の公務員という立場で来ていただく。住居については全て補助すると、車についてはレンタカーも補助するというふうな手厚いことを考えています。ただ、来てくれる人がいるかどうかは、探す予算も今回28年度で見えていますの

で、1年間あるいは半年で見つかるかもわからないし、探す事業費も織り込んでいるということです。これは、28年度の予算で2名を目標に今予算化したということです。

それから、結婚支援事業、これもやりましたけれども、そのような事業で人口の減少のスピードを緩やかにするというような計画にさせていただきますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員、議場暑いので上着脱いでもいいので。

○18番（松橋勝利君） 暑くて汗かいてしまったのだ。

○議長（佐々木慶和君） どうぞどうぞ、脱いでください。

松橋議員。

○18番（松橋勝利君） 先ほど前の議員の答弁の中で、たしか総務部長が学校給食費に対してあったと思うのだけれども、それに対して何か私、聞いたところだと前向きに検討するような発言あったと思っているのだけれども。

そこで、この問題については市長の考えを聞いてみなければならない。そういうことで、やっぱり何としてもこの人口減少を食い止めるためには思い切った行動をしないと、こういうことで、そこ。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 余り演説聞いていましたら何質問されたのか、ちょっとわからない点もありましたけれども、結論的には思い切ったことをやってもいいのではないかというようなことですが、確かに今各自治体でやっていることは、大体みんな似通ったことが新聞や何か見れば多いのですけれども、思い切ったこと、職員たちにアイデアを出させて検討してみたいというふうに思います。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員。

○18番（松橋勝利君） 人口減少対策はこれでいい。

次、選挙権の拡大についてであります。ここで、この18歳からの選挙権に対してはいろいろあるわけだけれども、例えば誕生日までどういう、何日から何日までに選挙、例えばあした投票日だと。そうすれば、誕生日の人はいつまで選挙権あるのか、そういうところと、それから18歳、19歳というのは未成年なわけだ。選挙違反の対応、これは法律的にどういう対応になるのか、そういうところをまず。

○議長（佐々木慶和君） 小寺選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長（小寺 保君） 私のほうからお答えさせていただきたいと思ひます。

先ほど来仮にの話ですが、7月10日の参議院の選挙の投票日と仮定しますと、新18歳を含めた有権者の年齢要件を満たす方は、18年前の平成10年7月11日以前の誕生日の方となります。

それから、2点目の18歳、19歳は未成年者であるけれども、選挙犯罪の適用についてはどうなるのかということですが、原則的には成年者と同等の同じような扱いとなります。ただ、少年

法の規定もありますので、特別悪質な犯罪以外については少年法の規定も考慮するということが決められております。さらに詳しいことになると、いろいろまた個別に出てくることかと思いません。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員。

○18番（松橋勝利君） こういうことからいくと、まずもって市の選挙管理委員会とすれば、ただ1校ある木造高校、これに対してはもっと早くから取り組んで、まだ何にもやっていないというのは、私にしてみればつがる市の選挙管理委員長、どうなっているのだかと、こういうことなのだ。ましてやこれから新しく選挙権得る人は、そういうところまでもわからないし、そうしていてあすに選挙になって、つがる市の18歳から19歳までの人たち、選挙違反いっぱい出たなんていったら、これは大変な汚点でないのかな。そういうことからいけば、よそのところよりもいち早くそういうものはやらなければならないの、私はそういう考え持っているのだ。したがって、これからもいち早く、あと何ぼもないんだね。2回でも3回でも詳しい選挙法の説明、そういうことをしてもらわなければ、これはだめだなと。ましてや若い人の投票率が非常に低い。この前の選挙の結果見ても、国政選挙を見ても50%、若い人たちは。そういう結果になっているのだ。それについて。

○議長（佐々木慶和君） 事務局長。

○選挙管理委員会事務局長（小寺 保君） 私のほうから答弁させていただきたいと思います。

実は、木造高校の件に関しましては、青森県の選挙管理委員会のほうからは、県立高校なので、県の教育委員会との絡みもあるので、県立高校のほうから県立高校に関しては、高校の日程さえ合えば県の選管のほうで出向いて行ってやるということで随分お話しされていたようなのですが、学校のほうも学校のカリキュラムとかの事情もあるようで実施できなかったというふうに聞いております。とはいっても、今後は県の選管、それから県の教育委員会とかとも連携をとりまして、できるだけ実施する方向でやってまいりたいと考えております。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員。

○18番（松橋勝利君） この選挙に関しては、違反があるから私、こう言うの。つがる市云々と、高校生の選挙権云々と出れば、みんないい恥になるので、その辺は早急に法律的なことをきちっと出前講座なりなんなりで何回でも呼んでやる、そういう決意、委員長からかたい決意示してもらいたい。

○議長（佐々木慶和君） 成田委員長。

○選挙管理委員会委員長（成田照男君） 全くそのとおりでありまして、先ほどうちの局長からもあったように高校に関しては、去年の暮れの県の選挙管理委員会の会議で、県の選管が積極的に高校のほうはやると、そういうことをごさいました。しかしながら、私としては18歳というのは高校生だけではありません。一般の人もいます。19歳は、よく大学で期日前投票といいますが、一般人もいますので、私は今事務局のほうと行って、一般の人も含めた中での出前講座をやりたいと、

そういうのは一応つがる市の広報紙、あるいは予算の関係上どうなるかわかりませんが、チラシなども配布しながら、できれば早い期間にやりたいと、そういうふうに前向きに考えておりますので、よろしくお願いします。

○18番（松橋勝利君） よし、これで終わり。

○議長（佐々木慶和君） 以上で松橋勝利議員の質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（佐々木慶和君） 以上で本日の会議を閉じます。

あしたも午前10時より会議を開きます。

本日はこれをもって散会いたします。

（午後 3時39分）

第 3 号

平成 2 8 年 3 月 8 日 (火曜日)

平成28年第1回つがる市議会定例会会議録

議事日程（第3号）

平成28年 3月 8日（火曜日）午前10時開議

1 開議宣告

1 議事日程

日程第1 一般質問

日程第2 総括質疑

- 議案第13号 平成27年度つがる市一般会計補正予算（第9号）案
議案第14号 平成27年度つがる市国民健康保険特別会計補正予算（第4号）案
議案第15号 平成27年度つがる市後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）案
議案第16号 平成27年度つがる市介護保険特別会計補正予算（第5号）案
議案第17号 平成28年度つがる市一般会計予算案
議案第18号 平成28年度つがる市農業集落排水事業特別会計予算案
議案第19号 平成28年度つがる市公共下水道事業特別会計予算案
議案第20号 平成28年度つがる市国民健康保険特別会計予算案
議案第21号 平成28年度つがる市後期高齢者医療特別会計予算案
議案第22号 平成28年度つがる市介護保険特別会計予算案
議案第23号 つがる市行政不服審査会条例案
議案第24号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例案
議案第25号 つがる市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案
議案第26号 つがる市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案
議案第27号 つがる市集会所条例の一部を改正する条例案
議案第28号 つがる市火災予防条例の一部を改正する条例案
議案第29号 つがる市消防団条例の一部を改正する条例案
議案第30号 つがる市国民健康保険条例の一部を改正する条例案
議案第31号 つがる市健康診査等費用徴収に関する条例の一部を改正する条例案
議案第32号 つがる市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例案
議案第33号 つがる市生涯学習交流センター「松の館」条例及びつがる市柏ふるさと交流センター条例の一部を改正する条例案
議案第34号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市稲垣体育館、つがる市稲垣体育センター)

- 議案第35号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市牛潟公民館、つがる市車力体育センター、つがる市立車力柔剣道場)
- 議案第36号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市木造福祉交流センター「花しょうぶの館」、つがる市柏ふるさと生
きがいセンター、つがる市車力ウェルネスセンター)
- 議案第37号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市森田ふれあい交流の里「おらほの湯」)
- 議案第38号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件
(つがる市健康増進施設「稲穂の湯」)
- 議案第39号 第2次つがる市総合計画案
- 議案第40号 つがる市過疎地域自立促進計画案
- 議案第41号 定住自立圏の形成に関する協定の締結の件

日程第3 予算特別委員会の設置

日程第4 議案等委員会付託

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（20名）

1番	齊藤 渡	2番	田中 透	3番	佐々木 敬藏
4番	長谷川 榮子	5番	成田 博	6番	木村 良博
7番	佐藤 孝志	8番	長谷川 徹	9番	三上 洋
10番	野呂 司	11番	天坂 昭市	12番	成田 克子
13番	佐々木 直光	14番	佐々木 慶和	15番	平川 豊
16番	山本 清秋	17番	伊藤 良二	18番	松橋 勝利
19番	白戸 勝茂	20番	高橋 作藏		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市 長	福 島 弘 芳
副 市 長	佐 藤 昭 三
教 育 長	葛 西 岷 輔
総 務 部 長	倉 光 弘 昭
財 政 部 長	三 上 保 男
民 生 部 長	山 口 健 吾
福 祉 部 長	境 宏
経 済 部 長	高 橋 寿
建 設 部 長	新 岡 秀 行
総 務 部 次 長	木 村 好 秀
財 政 部 次 長	加 藤 靖
民 生 部 次 長	増 田 忠 昭
経 済 部 次 長	山 内 信 昭
建 設 部 次 長	松 橋 守
教育委員会委員長	成 田 悦 雄
選挙管理委員会委員長	成 田 照 男
農業委員会会長	山 本 康 樹
監 査 委 員	長谷川 勝 則
教育委員会部長	三 上 みつる
選挙管理委員会事務局長	小 寺 保
農業委員会事務局長	成 田 柳 二
監査委員事務局長	下 山 芝 規
消 防 長	成 田 一 司
稲垣出張所長	長 内 清 範
車力出張所長	工 藤 輝 美
会計管理者心得	北 畠 悟

職務のため議場に出席した者の職氏名

事 務 局 長	野 呂 金 弘
事 務 局 次 長	葛 西 隆 志
総 務 係 長	三 上 眞理子
議 事 係 長	葛 西 正 美

◎開議宣告

○議長（佐々木慶和君） おはようございます。ただいまの出席議員数は20名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

（午前10時00分）

◎一般質問

○議長（佐々木慶和君） 本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。
日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。

◇ 田 中 透 君

○議長（佐々木慶和君） 第7席、2番、田中透議員の質問を許します。
田中議員。

〔2番 田中 透君登壇〕

○2番（田中 透君） どうも皆様、おはようございます。通告第7席を賜りました、五和会の田中
でございます。市立図書館設置が決定し、いつでも夢や希望を求め学習ができ、あらゆる分野の資
料をいつでも手軽に利用できるという施設を待ち望んでいた市民の皆様にとって、開館日が今から
待ち遠しく感じられておるでしょう。ましてや大型ショッピングセンター内に設置ということで、
多方面からも大変注目されておることと思われま。とにか利用者の満足度と、そして活性化に
少しでも役立つ施設として、我々も見守っていかなければならないと感じております。

それでは、早速質問に入らせていただきます。総合体育館の建設計画についてであります。今ま
で幾度となく一般質問にも出ておりますが、現状と今後の見通しについてお伺いいたします。

次に、アライグマ対策についてお伺いいたします。ご存じのとおり、アライグマは外来種であり、
人や作物に被害を及ぼすことから特定外来種に指定され、寿命は5年から10年、そしてこの春先に
3匹から6匹ほど子供を産みます。前々から被害はありましたが、特に近年数もふえ、いろいろな
作物に被害をもたらしていると聞いております。駆除の現状と実績についてお伺いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。
教育部長。

○教育委員会部長（三上みつる君） 改めまして、おはようございます。田中議員の総合体育館につ
いて、建設計画についての現状と今後の見通しについてお答えいたします。

まず、現状ですが、体育館は木造体育センター、森田体育センター、柏総合体育センター、稲垣
体育館、体育センター、富范簡易体育館、車力体育センターの7施設が整備されております。しか
し、旧木造町には木造体育センターのみで規模が小さく、それを補完するものとして学校教育に支

障のない範囲で向陽小学校体育館を一般開放しておりますが、稼働率が100%であるにもかかわらず、ニーズに応えられていないのが現状であります。

総合体育館建設計画については、平成25年度に教育委員会で策定したつがる市スポーツ推進計画においても生涯スポーツ社会の実現のため総合体育館の整備が望ましいとしており、建設の必要性は高いと認識しております。

次に、今後の見通しですが、総合体育館建設に当たっては事業費が多額になることと用地の問題があります。財源は、学校施設環境改善交付金の補助率3分の1の補助はありますが、補助枠の確保が難しいのが現状であります。

次に、用地の問題ですが、新たな総合体育館を整備し大きな大会を開催するためには、サブ体育館があることが望ましく、用地が限られてきております。場所によっては、農振除外の手续や国営岩木川左岸農業水利事業の規制があります。このため、整備に当たっては、場所、整備時期について慎重に判断する必要があります。

以上のことから、今後の見通し等も含め、教育委員会といたしましては関係各部署と連携を密にし、着実に進めていきたいと考えておりますので、議員各位のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） それでは、田中透議員のご質問にお答えしたいと思います。

アライグマ対策についてです。まず、農作物の被害については、平成26年度はスイカが約60アール被害に遭い、被害金額は約200万、昨年度、27年度の被害はスイカが約43アール、被害額が145万円となっています。これは、あくまでも農家からの情報で答えております。

次に、アライグマの捕獲数についてです。平成25年で16頭、平成26年で23頭、平成27年で33頭と年々ふえております。

今後の対応です。アライグマは、先ほども議員さんがおっしゃったとおり、本来日本にいない動物であり、天敵がいません。そのために、非常にふえて農作物を荒らしています。捕獲して個体数を減らす方法が最善であると考えております。そのためには、捕獲わなの設置、これは農家からの強い情報提供がなければできないものでありますので、そこら辺も農家等に周知して今後進めてはいきたいと思っております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 田中議員。

○2番（田中 透君） それでは、第2回目の質問に入らせていただきます。

総合体育館建設計画については、ただいまの説明でいきますと前回同様何の進展もないように思われます。

そこで、福島市長にお伺いいたします。昨年3月議会において、前回もお話ししましたけれども、佐々木直光議員に青森国体までには何とかしたい旨の答弁をいたしておりますが、現在のお考えはいかがなものか。また、私自身、用地確保が先決と思います。それも庁舎周辺。福島市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

それから、続きましてアライグマ対策でございますが、捕獲したアライグマの処分について、どのような方法を講じているのか。また、再度山へ逃がしているといううわさもあると私お聞きしております。それらについてお伺いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 福島市長。

○市長（福島弘芳君） 総合体育館の件についてでありますけれども、市の政策として決定することになれば期間も短縮しなければならないし、用地については先行買収というようなことも当然考えていかなければならないというふうに思います。ただ、今教育部長も言いましたように、事業費が多額にかかるというようなこと、あるいはまたサブ体育館やさまざまなことを考えますと、本当に10億、20億では済む話ではない。もっともっと大きな金額になると思いますけれども、財政、あるいはまた周りの市民の考えを聞いて頑張る。完成、建設に向けて頑張っていきたいというふうに思っています。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 田中議員の2回目のご質問にお答えしたいと思います。

捕獲したアライグマの処分についてです。農家から、処分ですが、箱わなの設置について依頼が来ましたらうちのほうで委託しているシルバー人材センターが設置、それからもし仮に入った場合、それを回収し、ジャスコのアスヒ医院の動物病院に連れて行って薬殺しています。それが一応その処分の流れです。

それから、再度逃がしているといううわさという点ですけれども、本来アライグマ捕獲のための箱わなです。それにもし仮にタヌキとか別の動物が入った場合、これを捕獲してどうのこうのとできないものですので、その場に放す場面もあります。そこら辺、多分目撃した人が、いやいやこれアライグマを逃がしたのではないかというふうに考えているのかもしれませんが、そこら辺をもっと農家の人たちにも周知してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 田中議員。

○2番（田中 透君） ただいま総合体育館建設の関係で、非常に市長、立場上、はっきりとなかなかお答えできないことをお察し申し上げます。どうか福島市長の力でさまざまな用途に利用、活用できる総合体育館建設を前向きに進め、青森国体で一種目でもこのつがる市で開催できるようお願いいたします。それによって、旧木造商店街の活性化、あるいは地元への多大な経済効果をもたらすものと思います。国体開催まであと9年になりました。どうか福島市長の決断と実行、行動力を

發揮していただきたいと思います。建設実施に向け、組織づくり、基本設計を早急をお願いしたい
と思います。国体は、つがる市を待っていてはくれません。何とかよろしく願いいたします。

それから次に、アライグマ対策でございますが、再度逃がしているといううわさについては、私
も最初聞いたときちょっとあり得ないことだなとは思っておりましたがけれども、やはりこういうタ
ヌキ等について誤解を招くおそれがありますので、生産者の方々にもこれからその都度説明が必要
かなと思っております。今回特にアライグマについて質問いたしましたのは、つがるブランドであ
る8品目の中のブランドの中のブランドであるメロン、スイカにもう既に被害あるようですけれど
も、これ以上被害を拡大させないためにもあえて質問させていただきました。今後も特にまた生産
者の皆さんから情報を収集しながらアライグマ駆除に対応して下さるよう切にお願いを申し上
げます。

以上で質問を終わらせていただきます。

○議長（佐々木慶和君） 以上で田中透議員の質問を終わります。

◇ 三 上 洋 君

○議長（佐々木慶和君） 第8席、9番、三上洋議員の質問を許します。

三上議員。

〔9番 三上 洋君登壇〕

○9番（三上 洋君） 改めて、おはようございます。第8席を賜りました芳政会の三上洋です。よ
ろしく願いいたします。

3月、4月は、別れと新しい時期でもあります。このたび理事者側で何人かの退職者がいると聞
いております。長い間市発展のために全力で立ち向かってくださったことに対して心より感謝を申
し上げ、敬意を表します。できれば歌で送ってあげたいですが、議長の許可が出ませんでしたので、
曲目はと言ったら許可をいただいておりますので、例えば卒業ソングの定番というのは私の年代で
は荒井由実さんの「卒業写真」、またはイルカさんの「なごり雪」です。これを歌って差し上げた
いのですが、なかなかできません。ただ、これまで支えてくださったのは、皆さんの奥様方かと思
います。そこで、皆さんが奥様方に上げる歌としては、松田聖子さんの「赤いスイートピー」です。
これは、題名でなくして、1番の歌詞に「春色の汽車に乗って」とあります。そして、山口百恵さ
んの「いい日旅立ち」、これを実践してください。これを実践しなければ、一節太郎さんの「逃げ
た女房」、還暦を迎えて逃げられた日にはつらいかと思っておりますので、必ず実践してください。公務
員の先輩として、私言っていますので。

それでは、駅前開発についてご質問申し上げます。2014年11月3日の東奥日報に旅行予約サイト
楽天トラベルが旅行好き者にお勧めのローカル列車アンケートを行ったら五能線が1位に選ばれた
とあります。白神の美しい山並みを背景に海岸すれすれを走るダイナミックな景観が人気の要因だ

とあります。リゾートしらかみでの津軽三味線の生演奏や津軽弁の素朴なアナウンスも魅力らしく、アンケートで五能線は総数の4割を獲得して、全国からこれほど熱い視線を注がれているのがうれしいことだと東奥日報の記事に載っておりました。しかし、現在私あの木造駅を見てまいりましたけれども、全然開発がなされておられません。そういうわけで、観光客集客のためにも、また3月26日開業の北海道新幹線に伴い、県内の観光客、ビジネスマンがふえると思います。五能線を利用して集客活動をするべきだと思います。そこで、次の2点についてご質問申し上げます。

駅は、そのまちの顔であり、玄関でもあると思います。集客のために駅前開発を考えてはどうでしょうか。

2点目として、国道101号線から真っすぐ駅に向かう道路を整備し、マイカーで来たお客さんが市街地に来やすい環境をつくってはどうか。

1回目の質問を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 三上議員の質問にお答えいたします。

都市計画で駅前広場として3,000平米、これを区域決定してございます。そのうち900平米を縄文公園として整備済みとしており、残り2,100平米は駐輪場、駐車場として利用しているのが現状でありますけれども、これは前に一回、合併する前に駅の駅舎を新しくすると、それからその周辺の整備、これは合併前に一回整備してございます。今議員が言われるように、駅前の再開発というふうになりますと、道路沿いの商店街などを取り込んだ整備となりまして、官民総合的に対応する事案になろうかというふうに思います。

そのほかの質問は、担当のほうから答弁させます。

○議長（佐々木慶和君） 建設部長。

○建設部長（新岡秀行君） 国道101号線から木造駅に向かう道路を建設し、車を中心市街地へ誘導することができないかのご質問です。

JRも新設の踏切は建設困難で、線路の上を行く跨線橋、あるいは下をくぐる地下道の建設が条件となります。そうすると、事業費も大分大きくなることから、現在道路の新設計画は持ってございません。今後議員がおっしゃるとおり、北海道新幹線開業後の観光客の流れ、そして津軽自動車道の柏、浮田間のルートが決定となり、その際にはネットワークとしての建設要望が大きくなってくれば、建設していくのも考えるということでもあります。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） 総務部長、お相手願いたいと思います。もう少し深く入っていきますので。

まず、市役所から行って駅に向かって右側にあるトイレ、縄文時代の竪穴住居をモチーフにしたつくりのもの、これはすばらしいアイデアかと思います。ただ、機能しておりません。これはなぜか。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 縄文公園にあるトイレについては、その後防犯上の理由で、例えば未成年による喫煙とか、そういう防犯上の理由により使用を中止しています。使用を再開するに当たるとなれば、その後の防犯上の理由がクリアできるかどうかと、そういうのを確認してからでないとならば、再開はできないというふうに考えています。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） とにかく北海道新幹線が開通すると、恐らく客は来ると思います。そういうわけで、防犯カメラを設置、または器物破損は犯罪になるという看板の設置、このような対応をして、とにかく活用するような状態にしてほしいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 議員おっしゃられるとおり、防犯カメラを設置すれば、かなり有効な手段であると思います。防犯カメラを何機設置してやればいいのか、そういうふうな詳細な検討を重ねて、今あるトイレが使えないというのは不都合な状況ですので、それを解消していきたいと、検討していきたいというふうに思っています。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） 駅に向かって左側にも縄文時代の竪穴住居をモチーフにした建物があります。木造ふれあいプラザと書かれてありますが、あれは何に使われているのか。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 地域の各団体に使えるように、コミュニティー活動を推進する目的でつくった施設でございます。今管理は福祉課で管理しております。使用する場面ですけれども、福祉部内の健康推進課あるいは社会福祉協議会で相談業務であるとか、地域の集会等に使用されているのが現状です。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） あそこの広場、鍵がかかっていましたけれども、中をのぞいてみたら非常に広くてすごくよい場所です。そういうわけで、観光客に開放して一息つける場所、また市民と交流できる場所、予算があれば足湯もつくとか、そのような対策はできないか。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 今そのふれあいプラザを別な用途に使用できるようになれば、規則の変更であるとか、さまざまな規則の変更を伴いますので、すぐ即座にというふうにはいかないと思いますけれども、新幹線が開業になって、あるいは柏、浮田間の津軽自動車道が開通になって、人

の流れがどうなるか、木造の駅舎をどう使うかと、そういう詳細な問題に入っていったときにこのプラザもあわせて使用形態を変えると、そういうような検討には入ることもあると思います。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） 木造ふれあいプラザに並んで東側に長屋のような建物がありますが、あれは何なのか、個人のものか市のものかお聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 民間の会社の持ち物で、現在は使用されていません。

以上でございます。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） あの長屋を改良して、3つぐらい仕切って、素泊まりで四、五千円にしてモーターホテル、または汽車で来た客を安く低料金で宿泊できるような対応にしてはどうでしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 民間の会社と申し上げました。ここ昔は電子部品の製造会社だと思っています。当然業績不振で撤退したと記憶していますので、その負債関係がどのような状況になっているのか、その辺を見きわめてからでないと買収もできないということになるかと思えます。ただ、この施設を仮に買収できたとしてもすぐさまユースホテルであるとか、そういう計画にはのせることは、先ほども申し上げましたけれども、これからの駅舎の利用する人の流れがどうなるかと、その結果次第で検討に入るかどうかということが決まると思えます。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） あの木造駅に張りつけているシャコちゃんのモニュメント、いやこれは私は日本で一番大きなものと思っております。日本で一番ということは、これは絶対的に観光資源になります。そういうわけで、ただ夜にライトアップもしていないという。これはなぜなのかお聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） あの駅舎のシャコちゃんの像ですけれども、正面からも裏からも一体的に見えるようにはつくってございますけれども、列車が入ってくれば目が光るというようなことはやっていますけれども、当初からライトアップの計画はしていなかったですし、ライトアップしない理由というのは存在しません。最初からする必要がないというふうに考えていただけで、これから仮にライトアップするとなれば、再三再四申し上げていますけれども、もっとこの駅舎をどう活用するのかと、そういう計画の検討の段階に入っていったからでないとライトアップできないというふうに考えています。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番(三上 洋君) 何年か前ですけれども、会津若松市役所に視察に行った際、当時の議会事務局の主査で森澤貴子さんという方が我々に「木造町のあの駅前のモニュメント、すごいですね。私見に行ったんですよ」という話をしてくださったのが印象的でした。よくあそこには写真を撮ったりして、すごく観光客が来ています。私に言わせると、観光資源がないのではなく、生かし切れていないような感じがするわけなのですが、総務部長、どうお考えでしょうか。

○議長(佐々木慶和君) 総務部長。

○総務部長(倉光弘昭君) 観光行政については、自然的な観光資源、あるいは人工的といいたいでしょうか、つくって人を呼ぶと、そういう観光資源の2種類があると思っていますけれども、観光行政については、自然については今十分機能していると思っていますけれども、何分人を呼ぶ観光資源、そういうのは今までなかなか手をつけてきていなかった分野ですので、これからもそういう人を呼ぶ、観光客を呼ぶような観光資源はこれからも必要ではあると、そういうふうに感じています。

○議長(佐々木慶和君) 三上議員。

○9番(三上 洋君) 昨年8月に八戸に議員研修で行った帰り、七戸の道の駅に立ち寄りしました。すると、馬の等身大の銅像が2つ建っております。七戸も馬の産地と聞いております。つがる市の一番大きな祭りは馬市まつりかと思えます。

そこで、駅前に、いや金がかかるでしょうが、観光客誘致のために馬の銅像を建てて、そこに馬市の歴史を書いた看板などを張っておいて集客をするような考えというものを考えられないかどうか。

○議長(佐々木慶和君) 総務部長。

○総務部長(倉光弘昭君) 冒頭市長が駅前の開発については、都市計画では駅前開発ではなくて駅前広場ということで都市計画の決定をしております。ただ、駅前広場はその駅の周辺約3,000平米ですか、それくらいを都市計画の決定をしているだけであって、本来駅前開発となれば、その駅からメインストリートを整備するのが普通でございます。となれば、このモニュメントも駅前開発の一環だとすれば、当然道路の拡幅であるとか、駅前のですよ、それから商店街をリニューアルするということがあって、初めてこのときにそのモニュメントを設置するのが普通だろうというふうに考えています。ただ、先行的に、先ほど申し上げました人工的な観光資源、人を呼ぶための資源としては非常に有効な手段だろうと思っています。ただ、即座にやるとなれば、これは関係部局と検討を要することだと思えます。

○議長(佐々木慶和君) 三上議員。

○9番(三上 洋君) 次、駅の中に入ると、東北の駅百選に選ばれた駅とあります。黒塗りに金色で東北の駅百選に選ばれた駅であるというような認定証みたいな看板が張ってあります。ただ、これ気をつけなければわかりません。そういうわけで、これはJRのほうから贈呈されたものらしくて、東北の駅百選に選ばれた木造駅であるという大きな看板で大いに宣伝すべきと思うが、どうお

考えでしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 東北の駅百選というのは、公募によらないというふうに記憶していました。選定機関は、国土交通省の東北運輸局で公募によらず、その中の委員会が自由に決定すると。その中で、木造駅が東北の駅百選に選定されたと思っています。そのときに、その運輸局のほうから認定の看板ですか、それが送られてきたと思っていますけれども、そういう観光的な宝をもっとPRしていく必要もあると、確かにそう感じています。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） そして、中に入って、物産展示コーナーを見ました。品物を並べているだけで、買っていただくというような気持ちが全然見られないような展示の仕方となっております。本当に売りたいのだから売りたいのだから、ただ乱雑に並べているような気がしてなりません。第一に価格が表示されていない。駅で品物を見て、その場で買うこともできない。簡単なことなのですよ。郵便局や宅配便と契約を結んで、その駅の中ですぐ買えるような状態、そんなことできないものかどうか、総務部長、お願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 議員ご指摘のとおり、確かにあそこはただ飾るだけでございました。カタログの一覧の冊子を置いたり、その中に申し込みの用紙を挟めると、あるいはインターネットのどこどこで見ればこれを注文できると、そういうふうなことを実現できるように展示の方法、展示の利用方法については改良を重ねていきたいというふうに考えています。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） そのほかにふるさと納税の勧めとか書いて、納税して下さったらこんな特産品、民芸品が届きますよというような宣伝もその駅前ですべてはどうか。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 当然ふるさと納税の記念品として地元の産品をふやしていきたいというふうには考えています。現在3月号の広報で記念品をふるさと納税の引きかえ品として提供できる法人、個人の募集を行うと、広報の3月号には掲載する予定でございます。品目ですけれども、農産物あるいは農産物の加工品、食品、菓子、酒類、お酒ですね、それから工芸品など、そういうものを納税してくれた方にお返しすると、そういうことができる人たちを募集するというふうに考えています。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） それから、プラットホームに出してみました。そして、看板を見ると「ようこそ五能線」、下に「木造駅」と書かれている看板、色あせて字が見えなくなっている看板があります。これこそ集客する気持ちがあるのかないのか全然わからないような状態になっている。すぐに

直すべきと思うが、どう考えていますか。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 駅のホームに入って、下りホームです、五所川原方面を見たときに左側のほうのネットに張りつけてある看板だと思いますけれども、確かに色あせてございます。この看板については、ホーム内の看板については、JRの管轄でございます。ただし、JRのほうにこちらからもちょっと見苦しいから変えてくれと、そういうような交渉はしたいと、そういうふうを考えてございます。これからも駅の中であるとか、駅のホームの中であるとか、随時市も監視していきたいというふうを考えてございます。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） つがる野文庫の会が作成し、駅舎に張ってくださった太宰治さんの看板、これはありがたいことだと思っています。私は、これこそが観光資源になるかと思っています。太宰治さんは、「津軽」という小説の一節に、「私は、ここではじめてポプラを見た。他でもたくさん見たに違いないのであるが、木造のポプラほど、あざやかに記憶に残ってはいない」、このように「津軽」という小説にあらわしております。太宰治ファンは全国にたくさんいます。太宰治さんの足跡をたどって訪れる方がこれからも多くなるはずです。そういうわけで、太宰治さんが散策したであろうポプラ並木、これを植林するとかして整備はできないものかお聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 今ポプラ並木ですけれども、そこからも若干見えますけれども、植林がずっとこうポプラ並木があったようでございます。ここ昨今あのポプラが倒れて、その処分に困っているというような現状もございます。根の張りが浅いので、倒木しやすいという種類ですけれども、そういう障害があるにしても植林ができれば、これもまた観光資源の一つにはなるので、この植林自体はそんな経費がかからないと思いますけれども、植林する用地の関係であるとか、そういうものを関係機関あるいは関係部局と検討して、実現できないか検討していきたいというふうを考えています。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） あの駅前にある桜庭歯医者さんの建物、相当古いような建物のように感じますが、あれを観光資源としてどうか使えないものでしょうか。お聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 駅からおりて玄関に立って左側の角の建物ですけれども、もとの桜庭歯医者さんの建物ですけれども、外観のつくりは結構凝っているつくりで貴重な建物だと思っていますけれども、何分個人の建物ですので、あれを市が買い取って文化財にする、あるいは買い取らずに文化財に指定すると、そういう2つの種類があると思いますけれども、今現在はその建物自体のいわゆる文化財としての価値がどのくらいあるのか、そういうのを全然調査していないので、今現

時点ではそれを活用する考えはございません。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） 集客のためにも鉄道を巻き込んだ定期的なイベントというもの、これはできないか。つまり木造駅は、いつ開業したものか、それを記念日にするとか、太宰治さんはいつ、何月何日に木造におり立ったのか、または五能線にSLを走らせるとか、さまざまなイベントがあるかと思います。定期的なイベントをするという考え、これはないかどうか、お聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） 定期的なイベントというご指摘ですけれども、現在JRの秋田支社と木造高校と連携して、津軽弁ガイドの高校生と木造探検、駅からハイキングと、こういうネーミングの商品を年2回、5月と10月にJRで売り出しているというのがございます。唯一これが定期的なイベントの該当になるだろうと思っています。

これからも定期ではございませんけれども、単発ではございますけれども、今駅に張りついているシャコちゃん、遮光器土偶のモニュメントを利用して、ドラえもん映画ですけれども、この今映画が公開されますけれども、その公開記念としてドラえもん一日駅長を木造の駅でやるというような計画が今進んでいます。3月中には、そういう一日駅長、本物のドラえもんが来るということでございます。映画の中でも映像の加工はしていますけれども、遮光器土偶を映すとかいうふうな計画があるということです。それについては、3月の広報に今載る予定でございます。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） ドラえもん、とにかくありがたいことです。成功させるようお願いします。

旅人にもいろんな目的を持って旅をする方がいるかと思えます。見る旅もあれば、散策する旅もあります。恋に破れた男と女の一人旅、温泉に入ってくつろぐ癒やし旅など、まだまだたくさんあるかと思えます。しかし、最終的に落ちつくのは食べるもの、例えば五能線を利用して木造駅において、駅前を観光して散策しながら中心市街地に入ってきたと。そうした場合に、つがる市に来たらこれだというご当地グルメありますか。総務部長、お聞かせください。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） いわゆるよく一般的に言われている、例えばマグステ井であるとか、そういう、あとは中泊のメバル井、そういうそのネーミングを聞いてすぐつがる市を想像するというようなグルメの開発はまだなされていないし、まだそういう商品も出ていないということで、これからもそういう要望であるとか議論の場に出てくると思えますけれども、できるのであればそういう開発も目指していきたい、いく時期が来るだろうというふうに考えています。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） はっきり言えますけれども、ご当地グルメは行政側でもできません。また、市民団体の皆さんが開発してもできません。そういうわけで、ご当地グルメのプロデューサー、プ

ロの方をやっぱり頼むべきかと思えます。ヒロ中田さんという方と契約したご当地グルメの進め方、そういうものを考えてみてはどうかと思うわけなのですが、きのう木村議員が質問したように、ブランド一步も進んでいない。そういうわけで、とにかくせめてこのご当地グルメだけでも一步進めてみてはどうかと思えます。そういうわけで、プロのヒロ中田さんという方を利用した開発の仕方というものを考えてみてはどうかと思えますが、いかがでしょうか。

○議長（佐々木慶和君） 総務部長。

○総務部長（倉光弘昭君） ブランドの品目を使ったご当地グルメと、そういう開発もするべきではないかというご意見ですけれども、先ほども申し上げましたとおり、これからそのグルメ開発をするということが決定になれば、そういう当然外部から専門家を呼んで開発を行っていくという手法をとるしかないのだろうとは思ってございますけれども、今当面の間はまだご当地グルメ開発の議論もなされていないので、これからの事業だというふうに考えてございます。

○議長（佐々木慶和君） 三上議員。

○9番（三上 洋君） とにかく早目に、これは我々だけではできません。やっぱりプロを入れるべきだと思います。

最後に、これは答弁は要りません。行政の対応は官僚的で、新しい試みを果敢に推進する体質とか、きめ細かなサービス精神に欠けると私は思っています。極端に言うと、フットワークが足りません。遅い。そういうわけで、フットワークのもう少し鍛えた行政運営というものを、早目早目の対応、これをお願いして私の質問を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 以上で三上洋議員の質問を終わります。

◇ 齊 藤 渡 君

○議長（佐々木慶和君） 第9席、1番、齊藤渡議員の質問を許します。

齊藤議員。

〔1番 齊藤 渡君登壇〕

○1番（齊藤 渡君） 第9席の無所属、齊藤渡でございます。三上洋議員の後は、何となくやりにくいような感じがしてちょっとつらいのですが、スムーズな進行を心がけてまいりますので、よろしく願いいたします。

今回の質問では、1つは選挙制度にかかわること、そしてもう一つはつがる市における農業対策に関する事、以上2点について私のほうから質問をさせていただきます。

質問に入る前に、今回の質問内容は、前日の一般質問の内容と重複する点があることをあらかじめご了承ください。

それでは、早速質問に入らせていただきます。まず初めに、選挙制度に関する質問ですが、昨年3月議会において選挙制度に関する質問をさせていただきました。今回は、あれから1年が経過

し、つがる市において何がどのように変化したのかという視点で再度質問をさせていただきます。質問は、通告表に記載されているとおり、3点ございます。それでは、順を追って質問を進めてまいりたいと思います。

まず、第1点目の質問ですが、この質問は既に県会議員における質問の答弁の答えとして報道がなされております。しかし、さきに述べましたように、この1年間の変化を検証するという意味で、あえてこの場で質問をさせていただきます。また、報道済みの内容ですので、施設などについては実際の呼称を用いさせていただきます。ご承知のとおり、期日前投票は本庁を初め市内各地にある分庁舎及び出張所で行うことができますが、今後はイオンモールつがる柏内で期日前投票を行う考えはあるのか、市及び関係機関の考えをお知らせ願います。

次に、2点目の質問は、本人確認に関する質問ですが、イオンモールつがる柏内で期日前投票を行った場合、市内一円から若者からお年寄りまで幅広い年齢層の方々が投票に訪れることが想定されます。現在投票所における本人確認は、持参した入場券のみで行っております。選挙権の18歳引き下げや広域的に幅広い年齢層が集まる投票所では、投票立会人と投票者が顔見知りでない場合が多く、成り済まし投票も危惧され、本人確認に今まで以上に配慮する必要があると考えられます。そこで、このような期日前投票における本人確認について、具体的な対応策があるのかお知らせ願います。

さらに3つ目の質問ですが、有権者の方々にリラックスして投票していただくために、より幅広い年代や女性の方を投票立会人にすべきではという趣旨で、投票立会人の公募制を昨年3月議会で提案させていただきました。このように、実際に投票立会人を公募によって行おうとした場合、どのような課題が考えられるのかお知らせ願います。

以上3点が選挙制度に関する質問となります。

次に、農業政策に関することについて質問をさせていただきます。ご承知のとおり、環太平洋パートナーシップ、通称TPPは昨年10月5日にアメリカの閣僚会合で大筋合意がなされ、年が明けたことし2月4日、ニュージーランドで署名式が行われました。しかしながら、TPPに関する国会での承認、すなわち批准するかしないかの議論はまだされておられません。ただ、一連の流れからして、TPPはもはや既定の事実であり、今後は関係国との間で物やサービス、投資、労働などが一つの経済圏として関税なしで自由に取引できるようになっていくものと考えられます。以上のことを踏まえ、次の2点について質問をさせていただきます。

まず、第1点目の質問ですが、つがる市の農業、特にここでは米についての将来的なビジョン、展望についてお聞きいたします。TPPによってつがる市の農業がどのような影響を受けるのか。このことに関しては、なってみなければわからないというのが正直な意見ではなかろうかと思えます。ただ、私個人としましては、関係機関が何も手だてを講じず、時の趨勢に全てを任せてしまうのは余りにも無責任ではないかなという思いもあります。2018年度をめどに、国の減反政策も廃止

されます。つがる市は、稲作農家に対して、今後起こり得る諸般の課題について明確な展望を示す必要があると考えます。

そこで、つがる市では今後稲作農家をどのような方策でどのような形に導いていこうとしているのか、市としての考え方をお知らせ願います。

次に、2点目の質問ですが、国の総合的なTPP関連政策大綱の中で、攻めの農林水産業への転換という項目があります。この項目では、農産物の輸出が論じられております。米に関して言えば、オーストラリアの20分の1程度の国土で国際価格から見て約7倍から8倍高いとされる日本のお米を一体どこでどのような形で輸出するのだろうかという単純な疑問があります。政策大綱にうたっている以上、国としても何か根拠があつてのこととは思いますが、明確な形が見えてこないのが実情ではないでしょうか。

そこで、通告表にも示してありますように、つがる市では現時点で米を含むつがるブランド8品目において、現在輸出が可能な状況にあるのかお知らせ願います。

以上で選挙制度と農業対策の1回目の質問を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 答弁を求めます。

福島市長。

〔市長 福島弘芳君登壇〕

○市長（福島弘芳君） 齊藤議員の質問にお答えしたいと思います。

農業の将来的なビジョンにつきましては、つがる市全体としてのビジョンは策定しておりませんが、水田にかかわる計画として水田フル活用ビジョン、リンゴにつきましては果樹生産構造改革計画、畜産につきましては肉用牛生産近代化計画など、それぞれの分野別に策定しているところでございます。特に米については、水田フル活用ビジョンというふうになるわけでありまして、内容として、主食用米については給食、外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図り、飼料用米については国の食料・農業・農村基本計画において、平成37年110万トンを目ざして作付推進を図っていくこととしております。現状、飼料用米は主食用品種と専用品種に分かれており、27年度は7割が専用品種となっております。交付金最大額10万5,000円を獲得のため、専用品種作付を推進したいというふうに考えているところであります。

青森県初の特A米の青天の霹靂が昨年デビューし、今年度正式な特Aとなり、28年度産は1,500ヘクタール作付するとしております。青天の霹靂は、あおもり米「青天の霹靂」ブランド化推進協議会が生産から販売対策まで行っていることから、各市町村単位での作付、販売はできないこととなっております。

ほかの質問に対しては、担当部長からご説明します。

○議長（佐々木慶和君） 選挙管理委員会委員長。

○選挙管理委員会委員長（成田照男君） それでは、齊藤議員の質問にお答えしたいと思います。私

のほうからは、選挙制度についての1番の期日前投票についてお答えしたいと思います。

先日の3月2日に私ども選管の委員会がありまして、市内5カ所にあります、期日前投票所の中の柏分庁舎で行われている投票所を今回の参議院選挙からイオンモールつがる柏店に変更し、決定いたしました。このことは、先週のたしか土曜日の東奥日報の朝刊の中にも少し記載されていたと思いますので、大部分の市民はごらんになって、もうご周知のことと思うのですが、その中に今回つがる市だけと、こう書かれたことが私としては非常にうれしく思っております。投票所は、まだ2階のイオンモールということが予定はされておりますけれども、これから投票時間などをしっかり確実にイオンさんのほうと打ち合わせして決めて、近年とにかくこの期日前投票の利便性を有権者の人が理解して伸びてきておりますので、これから少しでも投票率アップにつながるのではないかと期待したいと。以上でございます。

2番、3番につきましては、事務局担当のほうからお答えいたします。

○議長（佐々木慶和君） 選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長（小寺 保君） 私のほうからは、第2点目のご質問の期日前投票の増加による本人確認の方法、それから第3点目の投票立会人の公募制の件についてお答えしたいと思います。

第2点目の本人確認のほうなのでございますけれども、今回選挙年齢が引き下げられまして、いわゆる18歳選挙権の法律の改正はございましたけれども、投票行為に関する改正はございませんで、今までどおり本人確認の方法は名簿対照、それから入場券、それから立会人のこの3つの確認の組み合わせによることには変わりございません。ですが、議員ご指摘のとおり、今回イオンモール、こちらで期日前投票を行うことに変更をいたしましたので、立会人の増とかはできませんので、今までどおり2人ですが、選挙事務に従事する職員の充実を図りまして万全を期してまいりたいと考えております。

それから、3点目の投票立会人の公募制の件についてでございますけれども、期日前投票所の立会人は市内5カ所のそれぞれの地区から選任し、投票日当日の投票所の立会人はその投票区の選挙人名簿の中から選任しております。公職選挙法上、立会人は委員会において選任することとなっておりますが、選挙人が選挙を身近なものと感じ、明るい雰囲気でも気軽に投票できるよう公募制の導入についても引き続き検討してまいりたいと考えております。公募制を取り入れるに当たっての課題としましては、公益代表者たる公正な人物を確保すること、それから投票事務執行の公正監視ができる人物を確保すること、これらの課題が考えられると思っております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 私のほうからは、農業対策の2点目の質問にお答えしたいと思います。

2点目の内容としましては、ブランド農産物の輸出が可能かどうかというご質問です。平成25年、

和食が無形文化遺産へと登録されました。その影響もあり、日本産の食材の引き合いが好調となっております。安心しておいしいという評価が定着しつつあり、輸出量がふえてきていると聞いております。本市においてもリンゴ、米が現在農協のほうで輸出されているというところですので。輸出については、輸入先の国との各要件がございますので、その国の要件をクリアできるのであれば、輸出は可能かと考えております。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 齊藤議員。

○1番（齊藤 渡君） 丁寧にお答えいただきありがとうございます。特に選挙制度に関して、（1）番の期日前投票がイオンモールつがる柏で行われるというのは、大変喜ばしく、また市民の方も気軽に足を運んでいただきやすいのではないかと、このように考えております。

それでは、再質問のほうに入らせていただきます。まず、選挙に関しましては、これは再質問ではないのですが、改めて要望という形で一言申し上げます。通告表の（3）、投票立会人の公募制に関してですが、投票立会人の職務の重要性や公募にかかわる事務手続の煩雑さを考えますと、現実に公募制を行うことは難しいというのは、これ十分理解できます。しかしながら、18歳選挙権の施行に伴いまして、投票だけではなく、選挙運営全体に関して理解を深めるという意味で、特に高校生や学生及び女性の方を時間の許す範囲内で投票事務や投票立会人の補助として補助的立場でも結構ですので、積極的に登用していただきたいと申し添えて、選挙に関する質問は終わります。

次に、農業対策について再質問を行います。ここでは、お手元に配付させていただいた資料をごらんください。この記事では、米の国内価格を故意に高く設定することは安い輸入米の国内流入をふやす可能性があるという内容を掲載してございます。特に紙面左下の「国内稲作打撃も」の記事の内容に沿って通告の1番目、つがる市の農業、特に米についての将来ビジョンについて再質問をいたします。2018年度をめどに減反政策が廃止されてもしばらくの間は何らかの形で生産調整は続いていくものと予想されます。現段階で飼料用米、これは予算措置でしかありません。減反政策廃止後も飼料用米は続いていくと考えていいのか。この点について、市としてのお考えをお聞かせ願います。ここで1つ願います。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 今のご質問は、減反政策後も飼料用米は続いていくのかということですが、私今回議会で何回か言っていると思いますが、平成27年3月に閣議決定した食料・農業・農村基本計画において、飼料用米については平成37年までで110万トンの拡大を目標として設定しております。それによりますところによれば、当然そこまでは飼料用米としては作付できるものと考えています。皆さん何か勘違いしていると思うのですが、減反政策、これは確かに29年で終わります。ただ、転作の絡み、いわゆる転作奨励金、これは別にいつまでの期限とかというのはございませんので、ここら辺はよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（佐々木慶和君） 齊藤議員。

○1番（齊藤 渡君） その今のちょっと勘違いしている部分、私もきちっとよく把握できなかった
ので、今聞いて大変勉強になりました。

それでは、同様に、通告表の農業のところの（2）番、つがるブランドの輸出の可能性について
再質問をさせていただきます。先ほどの答弁では、つがるブランド8品目のうちでリンゴと米が輸
出されているとのことでしたが、それぞれ輸出先と数量がわかればお知らせください。お願いしま
す。

○議長（佐々木慶和君） 経済部長。

○経済部長（高橋 寿君） 輸出先の国名、数量等についてのご質問です。今現在輸出しているのは、
つがるにしきた農業協同組合でリンゴ、これが約1万8,937ケース、それから米、品種はまっしぐら
で俵数でいけば510俵、それからごしょつがる農業協同組合では米、まっしぐらで1,378俵輸出して
いるそうです。輸出先につきましては、台湾、香港が主です。

以上です。

○議長（佐々木慶和君） 齊藤議員。

○1番（齊藤 渡君） お米の輸出がされているのは、実は私今回初耳でございまして、それも台湾、
香港に出ていっていると、それもまっしぐらが出ていっているというお話でした。大変これは興味
深い話であると思います。

時間の関係もございまして、最後にまとめに入らせていただきます。液晶テレビの亀山モデル
でおなじみのシャープが台湾の企業によって買収されたことは、皆さんご承知だと思います。TP
Pによって、つがる市の田んぼで言葉の違う国の方に地元の農家の方が使われることがないように、
関係各位と知恵を出し合って、来るべき時代に備え、あらゆる方策を打っていくことを要望して私
からの質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（佐々木慶和君） 以上で齊藤渡議員の質問を終わります。

これをもって一般質問を終結します。

◎総括質疑

○議長（佐々木慶和君） 日程第2、議案第13号から議案第41号までの計29件を一括議題といたしま
す。

提出議案に対する総括質疑は通告がございません。

◎予算特別委員会の設置

○議長（佐々木慶和君） この際、お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案のうち、議案第13号から議案第22号までの予算関係10件につい

ては、全議員をもって構成する予算特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたしました。

なお、ただいま設置されました予算特別委員会を本日本会議終了後、この議場に招集いたします。

◎議案等委員会付託

○議長（佐々木慶和君） 次に、ただいま予算特別委員会へ付託した議案を除く各議案につきましては、お手元に配付のとおり各常任委員会に付託いたします。

◎散会の宣告

○議長（佐々木慶和君） 以上で本日の日程は全て終了いたしました。

明日から16日までの間は、委員会開催等のため、本会議は休会となります。来る3月17日は午前10時に会議を開きます。

本日はこれにて散会いたします。

(午前11時18分)

第 4 号

平成28年3月17日（木曜日）

平成28年第1回つがる市議会定例会会議録

議事日程（第4号）

平成28年 3月17日（木曜日）午前10時開議

1 開議宣告

1 議事日程

日程第1 予算特別委員長審査報告、討論、採決

「議案第13号」～「議案第22号」

日程第2 総務常任委員長審査報告、討論、採決

「議案第23号」～「議案第29号」

「議案第39号」～「議案第41号」

日程第3 教育民生常任委員長審査報告、討論、採決

「議案第30号」～「議案第38号」

本日の会議に付した事件

日程第1から日程第3

追加日程第1 議案第42号 平成27年度つがる市一般会計補正予算（第10号）案

議案第45号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件（つがる市立図書館）

議案第46号 財産取得の件（つがる市立図書館什器備品）

議案第47号 財産取得の件（つがる市立図書館図書）

追加日程第2 議案第43号 つがる市教育委員会委員の任命につき同意を求めるの件

追加日程第3 議案第44号 木造新田地域5町村新市建設計画の一部変更の件

出席議員（20名）

1番	齊藤 渡	2番	田中 透	3番	佐々木 敬藏
4番	長谷川 榮子	5番	成田 博	6番	木村 良博
7番	佐藤 孝志	8番	長谷川 徹	9番	三上 洋
10番	野呂 司	11番	天坂 昭市	12番	成田 克子
13番	佐々木 直光	14番	佐々木 慶和	15番	平川 豊
16番	山本 清秋	17番	伊藤 良二	18番	松橋 勝利
19番	白戸 勝茂	20番	高橋 作藏		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市 長	福 島 弘 芳
副 市 長	佐 藤 昭 三
教 育 長	葛 西 岷 輔
総 務 部 長	倉 光 弘 昭
財 政 部 長	三 上 保 男
民 生 部 長	山 口 健 吾
福 祉 部 長	境 宏
経 済 部 長	高 橋 寿
建 設 部 長	新 岡 秀 行
総 務 部 次 長	木 村 好 秀
財 政 部 次 長	加 藤 靖
民 生 部 次 長	増 田 忠 昭
経 済 部 次 長	山 内 信 昭
建 設 部 次 長	松 橋 守
教育委員会委員長	成 田 悦 雄
選挙管理委員会委員長	成 田 照 男
農業委員会会長	山 本 康 樹
監 査 委 員	長谷川 勝 則
教育委員会部長	三 上 みつる
選挙管理委員会事務局長	小 寺 保
農業委員会事務局長	成 田 柳 二
監査委員事務局長	下 山 芝 規
消 防 長	成 田 一 司
稲垣出張所長	長 内 清 範
車力出張所長	工 藤 輝 美
会計管理者心得	北 畠 悟

職務のため議場に出席した者の職氏名

事 務 局 長	野 呂 金 弘
事 務 局 次 長	葛 西 隆 志
総 務 係 長	三 上 眞理子
議 事 係 長	葛 西 正 美

◎開議宣告

- 議長（佐々木慶和君） ただいまの出席議員数は20名であります。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

（午前10時00分）

◎予算特別委員長審査報告、討論、採決

- 議長（佐々木慶和君） 本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

日程第1、議案第13号から議案第22号までの計10件を一括議題といたします。

予算特別委員長の審査報告を求めます。

木村予算特別委員長。

〔予算特別委員長 木村良博君登壇〕

- 予算特別委員長（木村良博君） それでは、予算特別委員会に審査の付託を受けた議案の審査の経過及び結果についてご報告いたします。

去る3月8日の本会議において予算特別委員会が設置され、平成27年度各会計補正予算案4件、平成28年度各会計当初予算案6件、計10件の議案について審査の付託を受けました。

本委員会は、3月9日、10日に予算案の内容及び状況等の審査を行いました。主なものとして補正予算では地域少子化対策重点推進事業、青年就農給付金事業等の農業関連事業、津軽広域水道企業団受水参加負担金などに質問が出されました。

また、当初予算では市税、交付税等歳入見込みの説明があり、再編交付金等について質問が出されました。

歳出では地方創生のための各種事業の内容、つがるブランド推進など各分野にわたり質問が出されました。

審査の経過の詳細につきましては、議員全員で構成された予算特別委員会でありますので、省略させていただきます。

付託された計10件について、執行部より詳細な説明と聴取の結果、必要かつ適正であると認め、全会一致により原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、予算特別委員会の審査報告といたします。

- 議長（佐々木慶和君） 委員長報告が終わりましたが、委員長報告に対する質疑は省略することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

- 議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、質疑を省略いたします。

これより討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。

これより採決いたします。

お諮りいたします。ただいまの各案件については、委員長報告のとおりそれぞれ原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認めます。

よって、委員長報告のとおり決しました。

◎総務常任委員長審査報告、討論、採決

○議長（佐々木慶和君） 日程第2、議案第23号から議案第29号及び議案第39号から議案第41号までの計10件を一括議題といたします。

総務常任委員長の審査報告を求めます。

平川総務常任委員長。

〔総務常任委員長 平川 豊君登壇〕

○総務常任委員長（平川 豊君） それでは、総務常任委員会の審査の経過と結果についてご報告いたします。

本委員会は、3月15日に開催し、付託された議案10件について、執行部より詳細な説明と聴取を行い、慎重に審査いたしました。

審査の過程において議論された主なものをご報告いたします。議案第25号 つがる市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案では、地域おこし協力隊員について、この事業は何年続くのかの質疑に、3年間実施するとの答弁。報酬の額は妥当かの質疑に、報酬以外の必要経費を市が負担することから、この報酬額でも活性化のために頑張っている方を考えているとの答弁。

議案第29号 つがる市消防団条例の一部を改正する条例案では、改正は消防団員になる方が少ないためか質疑に、現在の団員数が1,226人であり、条例の定員と整合性を図るためであり、定員数で積算する負担金も少なくなるとの答弁。また、定年が65歳になることを団員に周知するよう意見が出されました。

議案第40号 つがる市過疎地域自立促進計画案では、乗り合いタクシーは現在運行している地域以外でも要望があれば可能かの質疑に、路線バスと競合することで路線バスに悪影響が出ることになるため、路線バスが廃止となった場合に対応するものと考えているとの答弁がありました。

議案第47号 定住自立圏の形成に関する協定の締結の件について、将来の合併を見越したものかの質疑に、都市部の方から人口を呼び込むため、広域的に連携しながら人口定住に結びつけること

を目的としているとの答弁がありました。

以上のおおりに慎重に審査した結果、議案10件については全会一致により原案のおおりに可決すべきものと決しました。

以上をもって本委員会の報告を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 委員長報告が終わりました。委員長報告に対する質疑は省略することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、質疑を省略いたします。

これより討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。

これより採決いたします。

お諮りいたします。ただいまの各案件については委員長報告のおおりに原案のおおりに可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認めます。

よって、委員長報告のおおりに決しました。

◎教育民生常任委員長審査報告、討論、採決

○議長（佐々木慶和君） 日程第3、議案第30号から議案第38号までの計9件を一括議題といたします。

教育民生常任委員長の審査報告を求めます。

佐藤教育民生常任委員長。

〔教育民生常任委員長 佐藤孝志君登壇〕

○教育民生常任委員長（佐藤孝志君） 改めまして、おはようございます。それでは、教育民生常任委員会の審査の経過と結果についてご報告いたします。

本委員会は、3月15日に開催し、付託された議案9件について、執行部より詳細な説明と聴取を行い、慎重に審査をいたしました。

審査の過程において議論された主なものをご報告したいと思います。議案第31号 つがる市健康診査等費用徴収に関する条例の一部を改正する条例案について、検診受診率はどの質疑に、26年度で37.9%、27年度で39%との答弁があり、受診率を上げるため、より周知等を図りながら取り組むよう意見が出されました。

議案第35号から議案第38号までのつがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件については、指

定管理者が適切に管理業務を行っているか確認しながら指導するよう意見が出されました。

以上のとおり慎重に審査した結果、議案9件は全会一致により原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で本委員会の報告を終わります。

○議長（佐々木慶和君） 委員長報告が終わりました。委員長報告に対する質疑は省略することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認め、質疑を省略いたします。

これより討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。

これより採決いたします。

お諮りいたします。ただいまの案件については委員長報告のとおり原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認めます。

よって、委員長報告のとおり決しました。

◎日程の追加

○議長（佐々木慶和君） ここで、お手元に配付のとおり追加議案6件が提出されております。

この際、これを日程に追加し、会議規則第37条第3項の規定により委員会付託を省略し、直ちに審議したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認めます。

よって、追加議案6件を日程に追加し、委員会付託を省略し、直ちに審議することに決定しました。

◎議案第42号、議案第45号～議案第47号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木慶和君） 追加日程第1、議案第42号 平成27年度つがる市一般会計補正予算（第10号）案及び議案第45号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件（つがる市立図書館）から議案第47号 財産取得の件（つがる市立図書館図書）までの計4件については関連がありますので、一括議題といたします。

初めに、議案第42号についての説明を求めます。

三上財政部長。

○財政部長（三上保男君） それでは、追加提出議案第42号 平成27年度つがる市一般会計補正予算（第10号）案についてご説明申し上げます。

本補正予算は、つがる市立図書館の開設に伴う指定管理料について、第1条において債務負担行為を追加し、所要の措置を講ずるものです。平成28年3月17日提出、つがる市長。

次のページをお開き願います。1ページです。第1表であります。債務負担行為の補正であります。追加の事項としまして、市立図書館指定管理料であります。期間は、平成28年度から平成32年度まで、限度額は2億4,600万円です。この限度額の内訳としまして、平成28年度当初予算に図書館費として施設指定管理料4,600万円を計上してございます。平成29年度から平成32年度までの4年間については、各年度5,000万円を予定しております。これを合わせまして限度額を2億4,600万円としたものです。

次のページをお開き願います。債務負担行為に関する調書であります。追加分として市立図書館指定管理料、限度額が2億4,600万円、それと右の欄は空欄ですが、その隣、当該年度以降支出予定額として、期間は平成28年度から平成32年度まで、金額は2億4,600万円としているものです。左の財源の内訳でございます。特定財源のその他に2億4,600万円を計上しております。これは、合併振興基金を充当するものです。

以上、追加提出議案第42号について説明を終わります。よろしくご審議のほどお願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ないようですので、質疑を終わります。

続きまして、議案第45号について説明を求めます。

三上教育部長。

○教育委員会部長（三上みつる君） 議案第45号 つがる市公の施設に係る指定管理者の指定の件。

次のとおり指定管理者を指定する。平成28年3月17日提出、つがる市長。

- 1、管理を行わせる公の施設の名称、つがる市立図書館。
- 2、指定管理となる団体の名称、株式会社図書館流通センター。
- 3、指定期間、平成28年6月1日から平成33年3月31日まで。

提案理由は、つがる市立図書館の指定管理者を指定したいので、地方自治法第244条の2第6項の規定により提案するものである。

次のページをお願いします。参考資料といたしまして指定管理者指定団体の資料でございます。これにつきましては、ことしの2月9日から2月29日まで指定管理者を公募いたしました。その結果、1団体、ここにございます株式会社図書館流通センターからの応募がございました。3月4日

に書類審査を行い、3月11日に面接審査をしたところ、適正に管理ができる団体であるとの審査結果になりました。ここの図書館流通センターは、県内でも三沢市立図書館、八戸市立南郷図書館、八戸市図書情報センターなど3館の指定管理を行っており、全国では442館の実績がございます。

説明は以上であります。よろしくお願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ないようですので、質疑を終わります。

続きまして、議案第46号について説明を求めます。

三上教育部長。

○教育委員会部長（三上みつる君） 議案第46号 財産の取得の件。

下記のとおり財産を取得するものとする。平成28年3月17日提出、つがる市長。

取得する財産、つがる市立図書館什器備品一式。什器備品なのですが、この什器備品は書架、カウンター、椅子、テーブル、新聞閲覧台、お話し台、紙芝居台等でございます。

契約の相手方、青森県つがる市木造林阿曾沼45番地1、株式会社弘前事務機器商会つがる営業所 所長、高橋武臣。

取得価格9,957万6,000円、消費税込みでございます。

提案理由、つがる市立図書館に設置する什器備品を購入するため提案するものである。

次のページをお願いします。参考として添付しております。予定価格は9,998万1,000円です。買い受け予定金額は9,957万6,000円、税抜きで9,220万円です。納入場所は、つがる市柏稲盛幾世41番地。契約の方法は、指名競争入札であります。入札の状況であります。去る3月11日、8社において入札を施行いたしましたところ、つがる市にあります株式会社弘前事務機器商会つがる営業所が落札いたしました。契約金額は、入札金額に消費税を加えた9,957万6,000円です。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ないようですので、質疑を終わります。

続きまして、議案第47号について説明を求めます。

三上教育部長。

○教育委員会部長（三上みつる君） 議案第47号 財産の取得の件。

下記のとおり財産を取得するものとする。平成28年3月17日提出、つがる市長。

取得する財産、つがる市立図書館の図書です。

契約の相手方、東京都文京区大塚3丁目1番1号、株式会社図書館流通センター代表取締役、石井昭。

取得価格1億9,820万1,540円、消費税込みでございます。

提案理由、つがる市立図書館に設置する図書を購入するため提案するものであります。

次のページをお願いいたします。予定価格1億9,820万1,540円、買い受け予定代金額1億9,820万1,540円。1と2が同額なのは、図書は再販許可指定商品であり、定価販売であるためであります。

次に、納入場所、つがる市柏稲盛幾世41番地、契約方法は随意契約、1者随契となっております。理由といたしましては、図書は先ほど言ったとおり定価販売であること、それから使用する図書館の情報システムの運用を先ほどの図書館流通センターが担っていること、それから納入物品の仕様書、1ページから4ページのとおり納品の際の条件、装備を満たすことができる会社であるということでございます。新規購入に際しましては、参考資料の5ページから6ページの別紙選書基準に基づき、一般図書6万4,115冊、児童書1万2,229冊、合わせて7万6,344冊をバーコード型ICタグつきで購入し、竹内文庫と、今つがる市で持っている図書2,500冊にもバーコード型ICタグを装備する費用も含んで、合計で冊数といたしましては7万8,844冊で、金額が1億9,820万1,540円となっております。納入期限は、平成28年3月31日までとなっておりますが、これは繰り越しをいたしまして7月11日までの納入期限といたします。契約の相手方は、前ページのとおり株式会社図書館流通センターであります。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

18番、松橋議員。

○18番（松橋勝利君） 今詳細な説明あったけれども、この本の選定について、これ教育委員会で議論したというか、こういう本は必要だとか、そういう感じで購入するのか、それとも図書館、今このほうに一括してこういうものと任せてやるのか、その辺どうだ。

○議長（佐々木慶和君） 教育部長。

○教育委員会部長（三上みつる君） 参考資料の選書基準が5ページ、6ページにあるのですが、つがる市立図書館開館時における選書基準に基づきまして教育委員会のほうで選書しております。6ページのほうになるのですが、つがる市立図書館選書の重点と参考図書ということで、別につがる市のほうではつがる市立図書館資料収集方針・資料収集計画も立てております。それを踏まえた選定になっています。

それから、2008年から2015年に刊行された図書の中から基本図書を選定するという選定の方針のもとに行っております。

それから、農業関係、それから就業支援関係に重点を置いた選書になってございます。

○議長（佐々木慶和君） 松橋議員。

○18番（松橋勝利君） 今はいいいけれども、今後必要な図書が購入されると、こういう場合は地元のそういう本屋さんとか、そういうところに仕入れしてもらおうとか、そういう方針とかはあるのだからどうか。

○議長（佐々木慶和君） 教育部長。

○教育委員会部長（三上みつる君） 今の場合は、確かに数が約8万冊なので、ちょっと地元の業者では難しいと思いましたが、こういうふうな措置をとりましたが、今後については大体年間2,000冊から2,500冊ぐらいなのです。月当たりになると200から250冊ぐらいになると思いますので、そのぐらいの数でしたら地元の業者でも可能かと思しますので、今後は検討したいと思っております。

○議長（佐々木慶和君） ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ないようですので、質疑を終わります。

これより一括して討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。

これより一括して採決いたします。

お諮りいたします。議案第42号及び議案第45号から議案第47号までの計4件について、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認めます。

よって、以上4件については原案のとおり可決することに決しました。

◎議案第43号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木慶和君） 追加日程第2、議案第43号 つがる市教育委員会委員の任命につき同意を求めるの件を議題といたします。

説明を求めます。

総務部次長。

○総務部次長（木村好秀君） 議案第43号 つがる市教育委員会委員の任命につき同意を求めるの件。

つがる市教育委員会委員に下記の者を任命したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定により議会の同意を求める。平成28年3月17日提出、つがる市長。

今回同意いただく方は、成田悦雄氏、男性です。生年月日は、昭和21年2月12日、70歳の方です。住所は、つがる市富范町去来見15番地。

提案理由、つがる市教育委員会委員の任命について同意を得るため提案するものでございます。

次のページをお願いいたします。参考資料でございます。成田氏は、昭和47年、車力村事務吏員として車力村役場に勤務してございます。平成15年に車力村収入役、そして平成20年にはつがる市教育委員会委員として現在まで至っております。

説明は以上です。同意の方よろしくをお願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ないようですので、質疑を終わります。

これより討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。

これより採決いたします。

お諮りいたします。本案について同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認めます。

よって、本案は同意することに決しました。

◎議案第44号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木慶和君） 追加日程第3、議案第44号 木造新田地域5町村新市建設計画の一部変更の件を議題といたします。

説明を求めます。

木村総務部次長。

○総務部次長（木村好秀君） 議案第44号 木造新田地域5町村新市建設計画の一部変更の件。

木造新田地域5町村新市建設計画の一部を変更することについて、旧市町村の合併の特例に関する法律第5条第7項の規定により議会の議決を求める。平成28年3月17日提出、つがる市長。

提案理由、津軽広域水道企業団負担金の財源につがる市合併振興基金を充当するため、新市建設計画の一部を変更する必要があることから提案するものでございます。

2ページをお願いいたします。今回の変更につきましては、上段から3段目になります。変更前は、「ごみ処理体制や下水処理施設」というふうになっておるところを変更後には「ごみ処理体制や上水道及び下水処理施設」、この中に上水道を加えるものでございます。この加える計画に基づいて水道企業団の負担金の財源とするものでございます。

説明は以上です。よろしくをお願いいたします。

○議長（佐々木慶和君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ないようですので、質疑を終わります。

これより討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） 討論なしと認めます。

これより採決いたします。

お諮りいたします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木慶和君） ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

◎閉会の宣告

○議長（佐々木慶和君） 以上で本定例会へ付議された案件の審議は全て終了いたしました。

よって、会議を閉じます。

これをもって平成28年第1回つがる市議会定例会を閉会いたします。

(午前10時35分)

会議の経過を記載して、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

議 長 佐々木 慶 和

署名議員 松 橋 勝 利

署名議員 白 戸 勝 茂